第二條　本則ハ市街ノ道路ニ適用スルモノトス

第三條　本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴収スヘシ

第二章　街路ノ安寧及保存

第四條　街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條　左ノ制限ヲ超ヘ街路ニ出スコトヲ得ス

一　釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二　軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内トス但雁木アル場所ハ之ヲ設ケ超ユヘカラス

三　日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内トス但雁木アル場所ハ之ヲ設クルコトヲ得ス

四　掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内トス

第六條　左ノ諸項ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署(分署部内ナレハ分署ナモ)ヲ經由シテ本廳ヘ願出允許ヲ受クヘシ

一　消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ街路ニ設置スル片

二　街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建設スル片

三　街路ニ華表碑表及ヒ指道標其他公衆ノ便ニ供スル標識ヲ建設スル片

四　街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又溝止石ヲ置ントスル片(廿一年縣令甲廿四號ヲ以テ改正)

第七條　左ノ諸項ニ係ルモノハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出允許ヲ受クヘシ

一　街路ニ沿フテ家屋ヲ建設スル片

二　工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代等ヲ設ケ其他街路ヲ使用セントスル片(廿一年縣令甲廿四號ヲ以テ改正)

三　街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル片

四　一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歳市草市等ノ節)及店飾ヲ設ケントスル片(廿一年縣令甲廿四號ヲ以テ改正)

五　街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺等ヲ出ス片

六　神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ遮納物等ヲ牛車若クハ多人數ニテ運搬スル片

七　工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル片

八　一時街路ニ於テ荷造又ハ木挽等ヲ爲ス片

九　街路ニ雪圍又ハ風除等ヲ設クル片

十　神佛開扉相撲芝居等廣告ノ爲メ街路ニ建札ヲナス片

十一　柵欄又ハ家屋搖壁樹木等ノ傾仆ヲ防ク爲メ一時街路ニ支柱ヲ設クル片

十二　車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル片

十三　街路ニ床店葭簀張ヲ設クル片

十四　河堀中ヘ棧橋洗場水汲場物品積卸場等ヲ設ケントスル片(二十一年縣令甲二十四号ヲ以テ追加)

第八條　街路ヲ使用シ又之ヲ毀損シタルモノハ直ニ原形ニ復スヘシ

第九條　街路ニ出タル軒樋及竪樋ヲ設クヘシ其竪樋ハ街路ノ地盤ニ設ケル事ヲ得ス
但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス
第十條　街路ニ沿フタル宅地ニシテ空地アル場所ハ其模樣ニ依リ雁木若クハ墻塀ヲ設ケヘキモノトス　廿年縣令甲九十五號但書參照スヘシ
第十一條　街路ニ沿フタル塲所ニ竹木ヲ立ツルトキハ鐵鎭其他強靭ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ及ヒ薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頻仆セサル樣堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
第十二條　街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞頻仆ノ慮アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
第十三條　街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ
第十四條　運搬中ノ建設物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ揭ケヘシ
第十五條　街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ
第十六條　道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
第十七條　制札指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス
第十八條　街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
第十九條　街路ニ商品薪炭諸車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第二十條　街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス
第二十一條　街路ニ於テ濫リニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ優臥スヘカラス
第二十二條　街路ニ於テハ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出スヘカラス
第二十三條　行商ニ用ユル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章　街路ノ清潔

第二十四條　洗ヒ物水汲及ヒ物品ノ積ミ下シハ洗ヒ場水汲場物品積卸場ニ限ル（廿一年縣令甲第廿四號ヲ以テ追加）
第二十五條　街路橋梁ノ掃除ハ左ノ區別ニ從ヒ負擔スヘシ
一　宅地周圍ノ道路溝渠下水ノ掃除並ニ水撒キ雪掃ハ現住者若クハ管守者負擔スヘシ
二　家屋兩側ニアルモノハ街路ノ中央ヲ折半シ其片側ナルモノハ全路ヲ負擔スヘシ
三　空屋空地ノ周圍ハ其所有主又ハ管守者若クハ借地人ニ於テ負擔スヘシ但居住遠隔ノ者ハ該地近傍ニ引受人ヲ立置クヘシ
第二十六條　街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
第二十七條　新潟區ニ在テハ街路ノ積雪ハ午前九時迄ニ掃除スヘシ但午前九時後日沒迄ノ降雪ハ降歇後直ニ掃除スヘシ其他ノ街路ニ在テハ指定シタル日限內ニ取片付ヲ爲スヘシ
第二十八條　掃除シタル雪ハ河海端其他妨害トナラサル塲所ニ投棄スヘシ
第二十九條　雁木ハ雪ノ入ラサル爲メ相當ノ防キヲナシ決シ雪ヲ散布スヘカラス
第三十條　炎天及風日ニハ時々街路ニ灑水ヲ洒クヘシ

第三十一條　魚鳥其他汚物ヲ洗滌シタル水ヲ街路ニ散布スヘカラス

第三十二條　街路ノ便所ハ受負人ニ於テ不潔ナラサル樣時々掃除シ其私有ニ屬スルモノ及街路ニ接シタルモノハ所有者ニ於テ之ヲ爲スヘシ但時季ニ依リ防臭劑ヲ撒布セシムルコトアルヘシ

第三十三條　瓦礫又ハ禽獸ノ死屍塵芥汚穢物等ヲ街路ニ投棄スヘカラス

第三十四條　魚腸其他惡臭ヲ放ツヘキ腐敗品ハ蓋ナキ器物ニ入レ運搬スヘカラス

第三十五條　下水ハ每年二回（四月九月）浚渫スヘシ但塵芥等疏通ヲ壅塞スル歟又ハ指示シタル箇所ハ臨時浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十六條　街路ニ於テ便所ニアラサル塲所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十七條　街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃出シ又ハ飛散セシムヘカラス

第三十八條　街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セサル樣積載スヘシ

第三十九條　街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ衣類其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置ヘカラス

第四章　街路ノ通行

第四十條　牛馬及諸車ハ夜中燈火ヲ附シテ疾驅スヘカラス

第四十一條　車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第四十二條　末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第四十三條　牛馬諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ

第四十四條　牛馬諸車ヲ並ヘ轡キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十五條　車二輛以上ヲ連繫シテ轡クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十六條　牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十七條　牛馬諸車歩行者ニ行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十八條　實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十九條　前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十條　郵便用消防用ニ供スル車馬及葬送ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第五十一條　往來雜沓又ハ狹隘ノ塲所及街角橋上ヲ通過スル車馬ハ徐行スヘシ

第五十二條　車馬街角ヲ通過スルトキハ右ハ大回リヲ爲シ左ハ小回リヲ爲スヘシ

第五十三條　制止ヲ肯セスシテ出火其他雜沓ノ塲所ニ牛馬諸車ヲ牽入レヘカラス

第五十四條　街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ塲所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十五條　街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十六條　街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ縱逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十七條　街路ニ於テ五年未滿ノ小兒ヲ看護人ナク遊歩セシメ又ハ遊戲ヲ爲サシムヘカラス

ス

第五十八條　街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戲ヲ爲スヘカラス

第五十九條　街路ニ於テ軍談輕業其他人寄ヲ爲スヘカラス

第五章　罰則

第六十條　本則第六條第七條第十四條第十六條第十七條第二十條第二十四條第三十六條第四十條第四十四條第五十三條第五十六條ニ違背シタルモノ第四條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十五條第二十三條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第五十七條ニ違背シ命ニ從ハサルモノ第十九條第二十一條第二十二條第三十一條第三十七條第三十九條第四十三條第四十五條第四十六條第五十四條第五十八條第五十九條ニ違背シ制止ヲ肯ンセサルモノ第十三條第十八條第四十一條第四十二條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十五條ニ違背シ人ニ妨害ヲ蒙ラシメタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス（廿一年縣令甲廿四號ヲ以テ改正）

●明治二十年（六月）縣令甲第九十五號

本年（四月）縣令甲第七十號街路取締規則ハ當分左ノ町村及之ニ接續スル連簷櫛比ノ地ニ限リ實施ス

但本則第九條ハ當分之ヲ施行セス

新潟區

北蒲原郡　新發田

古志郡　長岡

中頸城郡　高田　直江津

西頸城郡　糸魚川

岩船郡　村上

刈羽郡　柏崎

南蒲原郡　三條

●明治二十年（六月）縣令甲第九十八號

街路取締規則實施ノ場所ニ於テ雁木ニ暖簾ヲ掲ル片ハ警察官ノ認可ヲ受クヘシ

○威銃取締

●明治二十一年（十一月）縣令甲第百十一号

威銃取締規則左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

但明治十八年（十月）甲第百八十五號布達有害鳥獸獲殺取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

威銃取締規則

第一條　有害鳥獸ヲ除クカ爲メ威銃免狀ヲ得ントスル者ハ其鳥獸名被害ノ情況及地名區域期限ヲ詳記シ所轄警察署ヘ願出ヘシ

第二條　前條ノ威銃ハ空砲ニ限ルモノトス

但特ニ有害ナル鳥獣ヲ獲殺スルカ爲メ實彈發砲ヲ必要トスル場合ニ限リ前條ニ依リ出願スルトキハ免許ヲ與フルコトアルヘシ

第三條　總テ驅殺ノ爲メ使用スル銃砲ハ和銃壹目四匁八分以下並西洋獵銃ニ限リ軍用銃ヲ用ユルコトヲ許サス

第四條　左ニ列記シタルモノニハ免狀ヲ與ヘス

一　十六歳未滿ノ者

二　白痴瘋癲者

第五條　左ノ場合ニ於テハ實彈發砲スルヲ許サス

一　人家稠密又ハ乘入群集ノ場所

一　銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家船舶等ニ向ヒタル場所

一　日出前　日沒後

一　濃霧ノ時

第六條　免狀ヲ受ケタル又ハ之ヲ携帶セス發砲ニ從事スルコトヲ得ス

但警察官吏又ハ戸長ニ於テ該免狀ヲ檢閲セントスルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條　免狀ハ免許ヲ得タル本人ノ外其効ヲ有セス除害ノ上ハ迅カニ之ヲ警察署ニ返納スヘシ

第八條　轉居改名又ハ免狀ヲ遺失毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シテ更ニ免狀ヲ願受クヘシ

第九條　獲殺シタル鳥獣ハ賣却スルヲ許サス

第十條　銃砲以外ノ物件ヲ用ヒ火藥ノ仕掛ヲ以テ發砲シ鳥獣ノ害ヲ除カントスルモノ亦タ第一條ニ準シ願出ヘシ

第十一條　本則第二條第三條第五條第六條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○銃砲、火藥、取締

㊟明治十八年(十一月)甲第百九十九號

銃砲取締細則左ノ通設定候條此旨布達候事

銃砲取締細則

第一條　銃砲賣買商ヲ爲サント欲スル者ハ銃砲取締規則第一則ニ依リ住所身分氏名年齡及ヒ履歴書ヲ添ヘ出願スヘシ

第二條　免許商人軍用ノ銃砲並ニピストールヲ買入ントスルトキハ銃名大小員數及ヒ賣主ノ住所氏名(官廳ナレハ廳名)ヲ記載出願(賣主準士官以上ノ武官ナレハ連署)シ第一号樣式ニ依リ免手形ヲ受クヘシ其賣渡サントスルトキハ買主ヨリ官ノ免手形(買主準士官以上ノ武官ナレハ軍衙ノ免狀)ヲ受取賣渡スヘシ

但免許商人ヨリ銃砲ヲ買入レントスル者免手形出願方ハ本文第一號樣式ニ準スヘシ

第三條　免許商人銃類賣買ノ員數ハ規則第三則ニ依リ第弐號樣式ニ倣ヒ毎翌月五日限リ届出

ヘシ

第四條　免許商人銃炮ヲ外國人ト賣買セントスル片ハ記載方第二條ニ準シ總テ出願許可ヲ受クヘシ

第五條　人民所有ノ銃炮ヲ相互賣却又ハ讓與セントスル時ハ軍用銃並ヒストールハ其旨雙方連署ニテ出願許可ヲ受ケ免許ノ銃類ハ雙方連署五日內ニ届出ヘシ

但死者若クハ失踪人ノ遺物ヲ相續スルカ一家ノ親子兄弟ノ讓受ル片ハ總テ其相續人又ハ讓受タル者ヨリ一月內ニ届出ヘシ

第六條　人民第二條第五四條ニ依リ買受タル軍用銃及ヒヒストールニシテ撿印ナキモノハ十日內ニ撿印ヲ願受クヘシ

第七條　軍用銃ト免許銃ノ差別難相辨者ハ所轄警察署ヘ持參シ撿査ヲ受ケ第二條以下ニ從ヒ相當手續ヲナスヘシ

第八條　人民(免許商人ト否ヲ問ハス)所持ノ軍用銃炮ヲ改造又ハ鑄潰シ或ハ燒爛等ニテ廢銃セントスル者ハ其理由ヲ記載シ届出撿印ノ削除ヲ受クヘシ其免許銃類ヲ廢棄スルカ又ハ總テ銃炮ノ盜火難及紛失シタル片ハ三日內ニ其旨届出ヘシ

第九條　銃類ノ製造ハ規則第七則ニ依リ制禁ナリト雖ヒ其新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作セントスルカ免許ノ銃類ヲ製造セシト欲スル者ハ其製造方法原質形狀効用等ヲ詳記出願スヘシ

但免許商人廢軍銃及ヒ免許ノ銃類ヲ脩理販賣スルモ本文ニ準ス

第十條　免許ヲ受ケタル製造營業人其銃炮ヲ販賣スル手續ハ第二條ニ依ルヘシ

第十一條　銃炮所持ノ者住居ヲ轉スルカ又ハ他管ヨリ移住セシ者ハ其銃名員數ヲ記載シ一月內ニ届出ヘシ

第十二條　前數條ノ願届ハ區戶長ノ奧印ヲ得所轄警察署ヲ經由シテ本廳ニ差出スヘシ

第十三條　他管ヘ寄留ノモノ寄留地ニ於テ軍用銃ヲ賣買スル片ハ其管轄廳ニ願出許可ヲ受ケ免許銃類ノ賣買ハ仍ホ本廳ニ届出ツヘシ

第一號樣式

軍用銃買入願

一何西洋銃　何挺

一何文目和銃　何挺

一何形ヒストール銃　何挺

〆何挺

右ハ何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地身分姓名(所有製造)(又ハ何廳拂下)之分買入度候間免手形御渡被下度此段奉願候也

年　月　日

何(郡區)何(町村)何番地銃炮賣買免許商

何　之　誰　印

准士官以上ノ武官ヨリ買入ルヽ者ハ此處ニ其賣手ノ官氏名印アルヘシ

新潟縣令某殿

第二號樣式

（明治何年何月）銃炮賣買表

買入ノ部

品種	員數	住處氏名	品種	員數	住處氏名
何銃	何程	何月日ヨリ越高	何銃	何程	何氏官何之誰
何改和銃	何程	何官廳	何銃	何程	何郡區町村氏名
何々	何程	何氏官何ノ誰	何々	何程	何郡區町村氏名
總計	何程		總計	何程	

賣渡ノ部

差引殘高何挺

右之通リニ有之其中軍用銃何程ハ別紙賣渡免手形何通相添此段御届申上候也

何郡區何町村銃炮賣買免許商人

何之誰印

年月日

新潟縣令某殿

第十三類　銃炮火藥取締

●明治十九年（九月）縣令甲第十七號

火藥取締細則左ノ通設定ス

但十八年甲第七十號布達烟火取締規則ハ廢止ス

火藥取締細則

第一條　火藥取締規則ニ依リ火藥類ノ賣買又ハ烟火又ハ烟火導火細類ノ製造又ハ烟火請賣ノ各營業ヲ爲サントスル者ハ隣佑二名以上連署シ第一號書式ニ照シ本廳ニ出願免狀ヲ受クヘシ

其住所製造所ヲ變更スルカ又ハ支店出張所等ヲ設クルトキ又同シ

第二條　族籍氏名ノ變更又ハ免狀ヲ紛失毀損シタルトキハ其事由ヲ記シ本廳ニ出願更ニ免狀ヲ受クヘシ

第三條　廢業スルトキハ免狀ヲ添ヘ本廳ニ届出ヘシ

第四條　火藥庫ヲ建設セントスルトキハ構造方法書及ヒ人家公道田畑ノ距離位置等ノ縮圖ヲ添ヘ第二號書式ニ依リ本廳ニ出願許可ヲ受クヘシ

其貯藏倉庫又ハ坑業土工其他職業上多量ノ火藥ヲ要スル爲メ假貯藏所ヲ設ケントスルモノ亦同シ

第五條　前數條ノ願（區長又ハ戶長ノ奥印ヲ受ケ）届ハ所轄警察署（分署部内ナレハ分署ヲモ）ヲ經由スヘシ

第六條　火藥賣買營業人ヨリ毎月十日迄ニ所轄警察署ヘ差出（買入証書アレハ之ヲ添ヘ）スヘキ賣買表ハ第三號書式ニ依ルヘシ

第七條　營業ニアラスシテ臨時祭典又ハ祝日等ノ爲メ烟火ヲ製造セントスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署又ハ分署ヘ出願許可ヲ受クヘシ

一　製造所ノ位置及ヒ人家公道田畑ノ距離等縮圖

二　烟火ノ種類

第八條　烟火ノ打揚ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察署又ハ分署ヘ出願許可ヲ受クヘシ

一　打揚場ノ位置及ヒ人家公道田畑ノ距離等縮圖

二　烟火ノ種類及ヒ買入讓受先

打揚ヲ爲サヽルモノト雖モ仕掛花火ノ類ハ前項ニ準ス但花火線香鼠花火ノ類ハ此限ニアラス

第九條　前二條ノ願書ニハ製造所若クハ打揚場（借家借地ナレハ其所有主連署）所轄ノ區長又ハ戸長ノ奥印ヲ受クヘシ（廿一年縣令甲百五號ヲ以テ改正）

第十條　烟火打揚ノ場所ヘハ參觀人ヲ近寄ラシムル可ラス但危害ノ虞アリト認ルトキハ臨時差止ルコトアルヘシ

第十一條　烟火ヲ以テ導火繩類ヲ貯藏スルハ營業人ト雖モ許可ヲ爲スヘシ

第十二條　製造ハ日出前日沒後又ハ其場所外ニ於テ製造スルヲ禁ス但製造所ヘハ妄ニ他人ヲ入ラシムル可ラス

第十三條　マツチ導火繩等製造營業ノ免狀ヲ受ケシ者火藥ヲ買入レントスルトキハ倘ホ所轄警察署ノ許可証ヲ受ルモノトス

第十四條　營業者ノ店頭又ハ製造所ニハ某營業某製造所ト書シタル標札（竪四尺横八寸）ヲ掲ケ火藥貯藏所假貯藏所等ハ火藥庫ニ準シ某所ト書シタル標木（五尺以上ニシテ四寸角以上ノモノ）ヲ建ツ可シ

第十五條　免狀ハ他人利用スルヲ得ス

第十六條　免狀ヲ得タル者ハ更ニ地方稅規則ニ依リ所轄郡區役所ヘ營業屆ヲナスハ勿論タルヘシ

第十七條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條　本則第一條ニ違背シマツチ導火繩類ノ製造營業又ハ烟火請賣營業ヲ爲シタル者第七條第八條ニ違背シ製造若クハ打揚ヲ爲シタル者及第十條第十一條第十二條第十四條第十六條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ廿錢以上壹圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス（廿年縣令甲百五十七號ヲ以テ改正）

第一號

火藥類賣買（烟火製造又ハ何々）營業願

私儀自宅（又ハ何所）ニ於テ火藥類賣買（烟火製造マツチ製造導火繩製造又ハ烟火請賣）營業仕度候間免狀御附與被下度依テ履歴書（製造所又ハ火藥置場アルモノハ其人家公道田畑ノ距離位置等ノ縮圖並製造方法書トモ）相添隣佑（借地ナレハ地主モ）連署此段奉願候也

年　月　日

新潟縣知事篠崎五郎殿

何（郡區）何（町村）何番地（寄留）
何（府縣）身分職業
願人何之誰印
當何年何ケ月

同　隣佑何之誰印
同　隣佑何之誰印
同　地主何之誰印

第二號

火藥庫（火藥貯藏倉庫又ハ火藥貯藏所）設假願

私儀火藥類賣買營業仕候處（又ハ何所ニ於テ何坑業土工職業等致度ニ付）火藥庫（又ハ火藥貯藏倉庫火藥假貯藏所）設假仕度別紙該構造方法書並人家公道田畑ノ距離位假等ノ縮圖相添（借地ナレハ地主連署）此段奉願候也

何（郡區）何（町村）何番地（寄留）
何（府縣）身分職業

年　月　日

新潟縣知事篠崎五郎殿

願人何之誰印
火藥營業人ナラサル片ハ
當何年何月

同　地主何之誰印

第三號

（明治何年何月中）火藥賣買表

買入ノ部

種類	數量	住所氏名	用途
火藥	何程	何町村何ノ誰	烟火用

賣渡ノ部

種類	數量	住所氏名	用途
火藥	何程	何町村何ノ誰	烟火用
同	同	同	職獵用
ダイナマイト	同	同	何用
雷管	同	同	同
何々	同	同	同
火藥	何程	何町村何ノ誰	烟火用
同	同	同	職獵用
ダイナマイト	同	同	何用
雷管	同	同	同
何々	同	同	同

ダイナマイト	丶	何郡町區何村何ノ誰		
雷管	丶	同		
何々	丶	何々	丶	
	丶	同	丶	
總計	何	總計	何	丶
	程		程	丶

差引殘高何程

右之通ニ有之別紙許可証何通相添此段御届申上候也

何(郡區)何(町村)

火藥類賣買免許商人

何之誰印

年月日

新潟縣知事篠崎五郎殿

○雜取締

㊀明治九年(六月)第二百七十號

近來無主ノ犬大イニ繁殖シ行人ノ障害ヲ釀生シ此儘差置候テハ遂ニ人ヲ嚙噬シ夫カ爲メ貴重ノ人命ヲ害フモノ之レアリ候テハ不容易儀ニ付今後飼主ハ畜犬ニ名札ヲ附ケ置可申若シ札ナキ時ハ無主ト見做シ悪ク撲殺爲致候條此旨及布達候事

㊁明治九年(十月)第二百七十八號

從來村落ニ於テ秋季作物秀實ノ時ニ至リ牛馬ニ缾ヲ施サヽルヨリ往々路傍ノ作物ヲ喰ヒ荒シ大ニ妨害相成候哉ニ相聞ヘ候條以來同季節ニハ必ス缾ヲ施シ牽回シ可申此旨及布達候事

㊂明治十年(四月)第四十六號

官許ノ文字ヲ招牌等ニ掲ケ或ハ賣買品等ニ用ル儀ハ勿論乎タル准許ヲ得タルモノニアラサレハ不相成候條心得違無之樣可致此旨及布達候事

㊃明治十二年(五月)甲第百一號

玩弄ノ爲メ自轉車ニ乘シ漫ニ往來筋ヲ馳走シ爲メニ危險ノ義不少ニ付自今玩弄ニ用ユル分ハ往來筋ニ非ラサル明キ地ノ外運轉不相成候條此旨布達候事

但シ從前營業者ニシテ玩弄ニ供スル分ハ此布達到達ノ日ヨリ三日ヲ限リ運轉場ヲ設ケ其持部警察署及ヒ分署ノ內ヘ可届出且今後該業ヲ營ミ玩弄ニ供セント欲スル者ハ運轉場ヲ願書ニ詳記シ可差出事

㊄明治十八年六月二十二日諭達

近來乞丐体ノ者徃リニ人家ニ立入強テ金錢ヲ乞ヒ又ハ借用ヲ要求スル者有之趣相聞甚タ不都合ニ付取締方注意セシメ置候得共右体ノ者徘徊スルヲ見聞候ハヽ直ニ警察官吏ニ通報可致此旨諭達候事

㊅明治十九年(十一月)縣令甲第六十八號

警察諸取締規則中人民ヨリ所轄警察署又ハ分署ヘ差出ス願届等ノ書式ニ何警察署長又ハ分署

長警部某殿トアルハ自今總テ警察署又ハ分署宛ニ改正ス

㊟明治二十年(一月)訓達第一號

凡ソ骨牌ハ詩歌若クハ花合セ西洋骨牌等總テ出板ニ係ルモノハ該手續ヲ爲サヽル製造出板及ビ發賣頒布スル事ハ法律ノ嚴禁スル所ナリ然ルニ聽近骨牌ノ流行スルニ從ヒ直チニ博奕ニ使用スル事モ自由ニシテ放テ妨ケナケレドモ之ヲ博奕ノ具ニシ財物ヲ賭ケ輸贏ヲ爭フ事ハ法律ノ嚴禁スル所ナリ然ルニ聽近骨牌ノ流行スルニ從ヒ直チニ博奕マデモ解禁サレシ如クニ臆斷シ甚シキニ至リテハ博奕ハ公許サレシ抔ト言觸ス者有之哉ニ相聞以ノ外ノ次第ニテ萬一其ガ爲法律ヲ犯ス樣ニ相成候テハ不相濟義ニ付心得違無之樣注意スベシ

○放失火、盜難、埋葬物發見、遺失物、變死等屆方

㊟明治二十年(十一月)縣令甲第百六十四號

自殺、殺害、誤死、天災、獸害、蟲毒、途上發病、飢餓、中毒、其他不詳等ノ變死傷、棄兒、失火、放火、雷火、不審火、强盜、窃盜、拐帶、誑騙等ニ遭ヒ又ハ時及ヒ盜贓物、埋贓物ノ發見、物品ノ遺失、漂流拾得等ノ節ハ被害者又ハ發見者拾得者ヨリ速カニ其被害發見拾得ノ日時場所摸樣原因物品ノ品柄概量代價等詳細所轄(盜贓物ノ發見物品ハ拾得ハ最寄ニテモ苦シカラス)警察署分署巡査派出所派遣巡查ノ內ヘ書面若クハ口頭(臨機郵便又ハ代人ニテモ苦シカラス)ヲ以テ屆出(換フレ品拾テ置キ品アレハ之ヲ添ヘ)ヘシ尤モ犯罪事件トシ警察署又ハ分署ヘ告訴セル時ハ此手續ヲ及ハサルモノトス

遺失物漂流物ノ拾得埋藏物盜贓物(賊拾置品共)ノ發見屆ハ所轄警察署分署ニ限ル(廿一年四月縣令甲四十一號ヲ以テ追加)

但明治六年(七月)第二百十四號同八年(九月)縣治報知甲第百四十號縣廳第三百十七號布達同十五年(九月)告第七十號告示盜難殺傷放火失火屆出手續ハ同十七號縣廳第百三十四號布達同十九年(十二月)縣令甲第七十三號遺失漂流物屆出手續ハ廢止ス

㊟明治廿二年(二月)告示第十五號

國稅地方稅及ヒ其他ニ關スル諸鑑札免狀免許證並地券証等流失遺失紛失盜難ニ係ル時ハ其旨告示シ來リ候處自今該告示ヲ爲サヽル條條之レヲ拾得スルカ又ハ他人ノ鑑札免狀免狀証地券証ヲ所持スルヲ發見シタル時ハ所在郡區役所戶長役場又ハ警察署分署巡查派出所派遣所巡查ノ內ヘ屆出ヘシ

但鳥獸(職遊)獵免狀古物商免許証古物行商免許証人力車營業取締鑑札人力車輓子取締鑑札ハ此限ニアラス

㊟明治十三年(五月 丙第五十一號

當縣下ノ人民ニシテ刑死傷ニ罹リ檢視ノ上照會ヲ要スヘキ事項ハ自今該縣各郡役所ヨリ直ニ其廳ヘ照會セシメ候旨通牒有之候條此旨相達候事

郡區役所

○消防區域

第十三類　放失火盜難埋葬物發見遺失物變死等屆方消防區域職遊獵

㊀明治十八年(二月)甲第十七號

自今火災現場ヨリ周圍五十間以內ヲ以テ消防區域ト相定メ候條消防ニ關係無之者ハ右區域內ヘ一切立入ヲ許サス

但本文區域內ニ居住スル者及荷物運搬ノ爲メ警察官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限リニアラス

右布達候事

○職業遊獵

㊀明治八年(十一月)第三百八十四號

地主有之土地ヘ猟リニ立入間敷儀ハ本年縣廳布達第三百廿三號ヲ以テ相達候通ニ就テハ小鳥狩ノ類モ都テ右同樣相心得不都合ノ儀無之樣可致此旨可及告示者也

㊁明治十八年(十二月)甲第二百廿八號

明治十四年甲第四十八號布達銃獵期限翌年四月卅日トアルヲ五月三十一日ト改正候條此旨布達候事

㊂明治二十年(十月)縣令甲第百三十八號

銃獵ニ關スル願届ハ總テ所轄警察署宛差出スヘシ

㊃明治廿年(十月)訓令乙第四十八號

警察署ニ於テ職業遊獵免狀ヲ下附スルトキハ免狀相添ヘ其旨所轄郡區役所ヘ通報セシメ候條右報告ニ據リ免許料若クハ手數料徵收免狀下附方取計フヘシ

郡區役所

○第十四類

○農業

㊀明治十四年十月十一日番外

農家の尤も心を用うへきは勉めて徒勞を省き實益を得るにあり其方法數多ありといへとも其效の著しくして一日も輕忽に附すへからざるものは土質の善惡を監別し精良の種子を撰び以て多量の收穫を得るにあり然るに農家常に意を留て之を實施せさるか或ハ未た其方法を熟知せさる爲か將た其法の繁雜にして收穫期節の日子を殺減するを恐るゝによるか何そ眼前の小利を見るに鋭にして將來の浩益を得るに疎なるや茲に本廳撰種法の普及を計畫し端穗要領なる小冊子を編述し之を戶長並に農事通信委員に頒布せり然るに今日に至り各地の實況を見るに猶未た其法の周到せす徒に舊慣に拘泥し遺利を抛棄するか如きは實に殖産の要を誤るものと云へし今や收穫の時期に際し猶撰種法の大要を擧け更に又各自の注意を喚起す各自一層從前より栽殖せる種類を審察し務めて土地適應の種類を撰び之を等閑に附せさる樣可致此旨諭達候事

種籾ヲ採ルニハ田面成熟シテ既ニ刈リ採ラントスル以前ニ田面ヲ見渡シテ各稻株中ヨリ稻穗ノ最モ豐熟セル者ヲ抜キ採リ之ヲ扱落シテ種子籾トスヘシ是レ抜穗ト稱シテ最モ良法ナリ

又一法

種籾ハ穗先ヲ以テ最モ良トス如何トナレハ稻（麥モ同シ）穗先ヨリ實ヲ結フモノニシテ穗先キノミヲ撰ンテ種トスレハ第一稻株他ニ優リテ增殖シ且ツ結實早クシテ其收穫必ス多シトス其法稻穗ヲ三分ニ定メ其ノ穗先三分一ヲ採テ種トスルナリ

又　法

多量ノ種籾ヲ要スルカ爲メニ拔穗ノ手數行屆カサル者ハ兼テ田面中ニ於テ地味ノ最モ良好ナル場所ヲ撰ンテ種籾田トシ本年拔穗ノ良種ヲ撰ンテ播種シ之ヲ充分ニ培養シ成熟セシメ此ノ田面ヨリ最モヨク充實セル稻ヲ刈リ取リ其中ヨリ最モ善ナルヲ撰シテ翌年ノ種子籾トスヘシ是レ輕便ノ一法ナリ（但撰種ハ前法ノ優レルニ如カスト雖モ拔穗ノ候ハ農家一般多忙ノ際ナレハ輕便ノ法モ亦講習セサルヘカラス）

水撰ノ法

前條ノ手續ヲナシテ撰ヒ採リタル種子ト雖トモ一穗百粒以上ノ多キ中ニハ必ス脆弱ナル種子アルモノナレハ右ノ脆實ヲ撿スルカ爲メ小寒中ヨリ大寒ノ始メ迄ノ間ニ大桶（半切ノ類）ニ水六分程入レテ種子籾ヲ其ノ水中ニ投入レテ攪キ回セハ忽チ籾ノ水上ニ浮ムモノアリ右ノ浮ミタル籾ハ則チ脆弱ナル者ナレハ皆惡ク小籠ニ揚テ水ヲ去リ乾カシテ貯フヘシ是則チ生氣充實ノ種子ヲ得ル所以ナリ此ノ寒中ニ種籾ヲ水ニ漬スハ該子ヲ堅良ナラシメ且ツ虫害ヲ除クニ功アリ

但本文ノ季節水撰スレハ好ク乾燥シテ貯藏セサルヘカラス然ルニ當越後佐渡ノ國ノ如キハ三冬ノ間雨雪殊ニ多ク天氣定マラス殊ニ乾燥ニ因シムヲ以テ春來種籾ヲ水ニ漬スノ候ニ至テ

テ據レメ本文ノ手續ヲ施コシテ籾種ヲ撿シ生氣充實セル籾ノミヲ種子トシテ俵ニ作リ水ニ漬スヘシ（附テ云水ハ成ルヘク泥砂、屑流セサルヲ撰フヘシ）

㊸明治十六年三月二十日番外達

農事ノ改進ヲ圖ルノ方法ハ多端ニシテ一ニ止マラスト雖モ就中種苗交換市開設ノ如キハ最モ有效ニシテ目下ノ急務ナルヲ以テ客歲縣農談會ヘ諮問セシ處過日勸業課ヨリ頒附セシ該會日誌ニ揭載之通評決候ニ付テハ本年中ニ於テ開設ノ見込ヲ以開市ニ屬スル費用支出及其着手ノ順序方法等郡內ノ景況ニ應シ相當ノ議案ヲ製シ町村聯合會並ニ一郡農談會ニ議シメ候樣可致此旨相達候事

郡　役　所

種苗交換市場概則

第一條　此規則ハ內外著明ナル植物ノ種子苗木ヲ自由ニ交換賣買セシメンカ爲メニ設ルモノニシテ畢竟有益ノ植物ヲ普ク縣內ニ及スノ要旨トス故ニ不良ノ種苗ヲ以テ人ヲ驅瞞シ或ハ不當ノ價ヲ貪ルヘカラス

第二條　各地ニ產スル種苗ヲ交換賣買セント欲スルモノハ何人ニ限ラス市場ニ出品スルコトヲ得ヘシ但出品人ハ總テ其住所姓名ヲ詳記シ本郡播種場ヘ屆出ツヘシ

第三條　出品ノ種苗ト共ニ其收穫物製造品及ヒ其他農具類モ亦交換賣買スルヲ得ヘシ

第四條　開市ハ每年何月中旬ト定ムル故ニ出品セント欲スルモノハ少ナクモ十五日間前ニ本郡播種場ヘ回付スヘシ

第五條　出品ノ種苗ハ品名產物及ヒ數量等詳記シ開市三十日間前ニ本郡播種場ヘ報告スヘシ

若シ報告シ難キ物品ハ此限ニアラス

第六條　遠隔ノ地ニアルモノ來場セスシテ種苗ヲ請求スルモノハ其品名數量等明記シ開市十日前ニ本郡播種場ヘ申出ヅヘシ

第七條　本場理事者ニ於テ各出品中若シ不良無益ナルヲ認定スルトキハ其出品ノ交換賣買ヲ差止ムルコトアルヘシ

第八條　品主自ラ來場セスシテ物品ノミ差出シ販賣セント欲スルモノハ下ノ表式ニ照準シ表ヲ製シ品物ニ添ヘテ之ヲ回付スヘシ但種苗及郡村ノ名ニハ必ス傍訓ヲ附シ又其播種ノ季節培養法等ヲ略記スヘシ

第九條　出品ノ交換賣買ハ其品主來場スルモノハ本人ヘ自ラ之ヲ辯カシメ第八條ニ關スルモノハ本場ニ於テ之ヲ賣渡シ代金ハ品主ニ還付スヘシ

號	品名	産地	數量	通價	單數	通價	出品人名		

第十條　種苗交換市場ノ事務ハ其郡播種場掛當人ニ於テ之レヲ管理ス

㊟明治十七年(三月)甲第三十六號

近來着色僞似ノ茶ヲ製出シ又ハ不良茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候儀ニ付當縣管内ニ於テ茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合相立規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受ケヘシ此旨布達候事

茶業組合準則

第一條　茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ問ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但自用茶ノミヲ製スル者ハ此限ニアラス

第二條　組合ノ名稱ハ新潟縣下何(郡區町村)茶業組合ト稱スヘシ

第三條　組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項　他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ製造賣買セサル事

第二項　乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事

第三項　製茶檢查法ヲ設ケ其正否ヲ鑑別スル事(十九年甲三十三號ヲ以テ追加)

第四項　製茶荷造ノ上ハ必ス組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事

第四條　各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條　組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ

但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢查スヘシ

第七條　縣下便宜ノ地ニ取締所一ケ所ヲ設ケ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條　取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條　組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條　全國中便宜ノ地ニ中央茶業組合本部ヲ設ケ各地茶業組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

（十八年甲七號ヲ以テ追加）

第十一條　中央茶業組合本部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ（十八年甲七號ヲ以テ追加）

第十二條　中央茶業組合本部ノ役員ハ各地茶業組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ（仝上）

但時宜ニヨリ役員外ノ者ト雖ヒ之レヲ撰擧スルヲ得（十八年甲廿五號ヲ以テ追加）

第十三條　中央茶業組合本部ノ費用ハ各地茶業組合取締所役員ノ協議ヲ以テ之レヲ定ムヘシ

（仝上）

第十四條　右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルヿヲ得

●明治二十一年（一月）縣令甲第十二號

茶業組合聯合會議ニ出席スル議員ノ數ハ此度限リ取締所規約ニ定メタル數ヲ假用スヘク又右議員ハ取締所ニ關スル一切ノ事件終結ノ處分ヲ議決シ得ルノ權ヲ有シ出席スヘシ

但現組合ニ關スル一切ノ事件ハ農商務省令第四號ニ依リ組合ヲ設置スルト同時ニ終結ノ處分ヲ爲スヘシ

●明治十九年（八月）訓令第四號　　郡區役所　戸長役場

我縣下米穀ノ產額ハ二百萬石ニ下ラスト雖ヒ乾燥ノ十分ナラサルト俵造ノ不完全ナルト枡入ノ一定ナラサルトニ由リ市場ニ聲價ヲ保維スルヲ得ス加フルニ米穀納租ノ改正以來漸次粗濫ノ弊ニ流レ現今ノ如キハ曩ニ我北越ノ下流ニ位セシ三陸地方ノ米穀ニ壓倒セラレ殆ント聲價

ヲ失シタルモノヽ如シ豈之カ改良ヲ要セスシテ可ナランヤ今ヤ米穀登熟ノ候ニ際スルヲ以テ各町村ノ地主等ニ告示シ左ノ定則ニ從テ本年秋収ノ米穀ヨリ之ヲ實施セシムヘシ其他ノ改良上ニ至リテハ追テ令達スル所アルヘシ

一俵ハ古藁ヲ以テ編ミ二重俵トシ身俵（內鞘）ハ四條編ニテ三ケ所ヲ結ヒ外俵（外鞘）ハ四條編ニテ太繩ヲ以テ五ケ所ヲ結ヒ竪繩（太磨キ繩）ヲ十文字ニ懸結スヘシ（本項明治二十年一月訓令甲九号改正ニ係ル）

但內外俵編目ノ距離ハ同一ナルヘカラス

一壹俵ノ枡入ハ四斗三升（斗枡ニテ量ルヘシ）入ト爲スヘシ

●明治廿年（四月）訓令甲第八十一號　　郡區役所　戸長役場

米穀ノ俵造枡入一定ノ件ニ付テハ客歲（八月）第四號ヲ以テ改良ノ項目ヲ付シ及訓令置候處今般尙米穀改良上ニ對シ第五號ヲ以テ諭達候旨趣ハ米穀ノ種類ヲ擇ミ種子ヲ精撰シ耕耘栽培ヲ周到ニシ乾燥調製ヲ改良シ農家得ル所ノ利益ヲ增進セシメントスルニアリ願テ農家一般ノ實況ヲ察スルニ未タ米作ヲ改良スルノ必用ニシテ且自他ノ利益アルヲ曉知セサルモノヽ如シ爲メニ實施スルノ氣運ニ至ラス遺憾少カラス依テハ該諭達ノ要目ヲシテ實地ニ施行セシメ農家ノ富裕ニ趨カシヿヲ企圖シ奬勵誘導ニ盡力スヘシ

●明治二十年（四月）諭達第五號

米穀ハ縣下最大重要ノ物產ニシテ其產額ヲ既往四ケ年間ノ平均高ニ徵スレハ百九十四萬二千六百五十石ノ巨額ナリ是ヲ以テ年々多ク他縣ニ輸出シ其名世間ニ洽ヲシ然レトモ其品質ニ至

テハ他縣米ニ比シ甚タ劣等ナルカ爲メ世人ノ信用ヲ得スシテ市場ニ壓價ヲ占ムル能ハス又其耕作法ニ於ケルモ種類ノ適否種子ノ精粗及ヒ耕耘培養ノ如何ヲ省ミスシテ徒ニ從來ノ慣行ヲ墨守スルヲ以テ乃チ一反歩ノ收穫僅カニ平均一石二斗四升ニ過キス是レ一由テ之ヲ觀レハ廣ク世ニ知ラレタル本縣ノ米數ハ品質ノ善良ナルカ故ニアラス收穫ノ多量ナル故ニアラス只土地ノ廣クシテ水田ノ多キカ爲メ總高額上ノ巨大ヲ以テ世ニ名アルモノト謂フノ外ナシ縣下ノ農家タルモノ豈ニ怪悋タラサルヲ得ンヤ若シ夫レ玆ニ省慮シ種類ヲ採擇シ種子ヲ精撰シ耕耘培養ヲ周到ニシ乾燥調整ノ改良ニ注意セハ其收穫ノ增加スル其品質ノ善良ヲ得ル敢テ難キニアラス隨テ市場ニ壁價ヲ博スルモ亦タ容易ニシテ且ツ勞費ノ如キモ其多キヲ要セスシテ此目的ヲ達スルニ躊躇スルヘシ假令ヘハ一石ノ米價平均四圓トスレハ縣下產米ノ總價七百七十七萬六千圓トナル今ヤ之レカ改良ノ爲メ一反歩ニ付一割ノ收穫ト一石ニ付拾錢ノ價格トヲ增加スルヲ得ハ總價八百七拾六萬千三百五拾壹圓ニシテ全ク九拾九萬〇七百五拾壹圓ノ增價ヲ得ルニ至ル豈ニ亦タ巨額ナラスヤ然ラハ則チ農家ノ之ヲ實行スルハ今日ノ急務ナルノミナラス小ニシテハ各自ノ利益ヲ增進シ大ニシテハ本縣ノ富源ヲ涵養スルヿ實ニ大ナリト信ス依テ左ニ改良ノ要目九項ヲ掲ケ農家ニ示ス宜シク地主ハ小作者ヲ鼓舞奬勵シ自作者ハ自ラ奮テ之ヲ實施スヘシ

第一項　種類ヲ擇ム事

縣下米質ノ不良ナルハ乾燥其宜キヲ得サルニ由ルト雖モ亦收穫ノ季節氣候不順ナルカタメ乾燥シ能ハサルノ止ムヲ得サル事實ナキニアラス故ニ宜ク降雨未タ少キノ季節ニ成熟スヘ

キ早稻若クハ中稻ノ良種ヲ撰擇スヘシ

第二項　種子精撰ノ事

收穫ノ多少品質ノ優劣ハ種子ノ良否ニ由ル故ニ良種ヲ拔穗シ水撰ヲ行ヒテ惡種ヲ除キ水中ニ浸漬シテ播下スヘシ

第三項　播種量ヲ減スル事

播種ノ量ハ精撰種ナレハ壹坪五合乃至六合ヲ度トシ不精撰ノモノナレハ七合乃至九合ヲ度トス疎播ハ密播ニ比スレハ稻苗强壯ニシテ收穫多シ

第四項　乾田之事

我カ越後ノ田地ハ終年水ヲ溜存シ排除スルモノ稀レナリ信濃川其他川沿ノ地方ハ止ムヲ得サルモノアリト雖モ山沿地方ハ平常乾燥トナシ必要ノ時ニ臨テ灌水スルヲ可トス然レハ日光空氣能ク地中ニ通透シ大ニ滋養成分ノ溶解ヲ補ケ養分ヲ增加シテ收穫ヲ增シ品質ヲ進ム

第五項　馬耕ヲ用フル事

馬耕ハ人耕ニ比スレハ人力ヲ省キ費用ヲ減シテ耕起ノ步數ハ却テ多シ加フルニ大ニ田地ヲ軟和シ日光空氣ノ通透ヲ利シ養分ヲ加ヘ且ツ根ハ深タ地中ニ入リテ養分ヲ吸收スルノ力ヲ增シ隨テ植物繁茂シ收穫增加ス宜ク馬耕ヲ用フヘシ

第六項　肥料之事

肥料ノ良否ハ收穫ノ多少ニ影響ス然ルニ縣下稻田ノ肥料ハ堆肥、草肥、糠、油糟等ヲ主トシ就中最モ多ク用フル所ノ堆肥ハ澁リニ日光雨露ニ曝シテ主要ナル養分ヲ失ハシム宜ク之ヲ

製スルニハ汚水、人溺或ハ牛馬ノ溺汁ヲ注キテ腐熟ヲ補ケ土藺或ハ草ヲ以テ覆ヒ施用ノ期ニ至テ掘入スヘシ且ツ資力アル者ハ耕馬ヲ飼養シテ厩肥ヲ製スルヲ可トス又本縣ハ鰯ノ漁穫少ナカラス且ツ北海道ノ交通便ナルカ故ニ魚肥ヲ施用スル可シ其收穫ヲ增加スルハ更ニ疑ナキ所ナリ若シ富家ノ地主魚肥ヲ仕入テ小作者ニ貸付スルノ法ヲ設ケハ最モ可ナラン

第七項　乾燥之事

管下米穀ノ品質粗惡ニシテ常ニ世人ノ指斥ヲ受ルモノハ主トシテ乾燥其宜キヲ得サルニ在リ宜ク架ヲ增設シ管下擧テ架掛トナシ十分ニ乾燥スヘシ果シテ然ラハ腐敗米減シ價格騰貴シテ世ノ信用ヲ招クヿ難カラサルヘシ

第八項　籾ヲ撰除スル事

農家ノ籾ヲ篩ニ掛クル事僅カニ二回ニ過キス玄米中籾ノ混在スルヿ夥多ナルカタメ米價ヲシテ壹石拾錢余ノ低價ニアラシムル若シ篩ヲ用フルヿ三回ナラハ容易ニ此損失ヲ償フヲ得ヘシ農家之ヲ實行セハ勞費ヲ償フテ餘アルヘシ

第九項　俵ノ重量ヲ制限スル事

俵裝ノ改良ニ付テハ曾テ訓令スル所アリ宜ク實行スヘシ而シテ俵裝改良ニ伺ノ注意スヘキモノアリ重量ヲ減スルヿ是ナリ管下米俵ハ輕キモ壹貫五百目重キハ貳貫目ニ達スル爲ニ空シク運賃增加シ商家ノ損失ハ間接ニ農家ニ及ヘル故ニ俵裝ヲ改良シ重量ヲシテ壹貫三四百目ニ止ムヘシ之ヲ實施スルニハ地主小作米ヲ取ルニ重量法ヲ廢シテ枡量法ヲ用フルヿ最モ必用ナリ

㊟明治二十一年(九月)縣令甲第九十五號

米穀改良組合準則左之通相定メ候條該準則ニ基キ組合ヲ設置シ規約ヲ編製シ認可ヲ受クヘシ

米穀改良組合準則

第一條　米穀改良組合ハ米作地ヲ所有スル地主其小作者自作者ヲ以テ組織スヘシ

第二條　組合ハ町村ノ區畫ニ依リ適宜設置スヘシ

第三條　組合ノ名稱ハ新潟縣何郡(町村或ハ何鄉)米穀改良組合ト稱スヘシ

第四條　組合便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ米穀ノ改良上其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第五條　組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ組合員之ヲ撰擧シ組長ハ委員中ヨリ互選スヘシ

第六條　組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　組合ハ概ヲ左ニ記載セル目的ヲ以テ規約ヲ結定スヘシ

第一項　組合ノ地區及事務所ノ位置

第二項　組合員ノ證票

第三項　撰種及水撰ノ方法

第四項　乾燥ヲ完全ナラシムルノ方法

第五項　整米完備ノ方法

第六項　俵裝及枡入ヲ一定スルノ條件

第七項　米穀檢查ノ方法

第八項　檢査ヲ經タル米穀ニアラサレハ資米セサルノ條件
第九項　役員ノ撰擧法及權限
第十項　會議ニ關スル規定
第十一項　違約者處分ノ條件
第十二項　加入者及退出者ニ關スル規定
第十三項　經費ノ賦課徵收支出ノ方法
第十四項　組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件
第八條　各組合ヲ摠括シ氣脈ヲ聯通スル爲メ縣下便宜ノ地ニ組合本部ヲ置キ各郡ニ其支部ヲ設クヘシ
但支部ハ二郡或ハ三郡ニ一ケ所ヲ置クモ妨ケナシ
第九條　組合本支部ノ規約ハ各組合組長ノ會議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第十條　組合本支部ノ役員ハ前條ノ會議員中ヨリ互選スヘシ
但時宜ニ依リ組合外ヨリ選擧スルモ妨ケナシ
第十一條　組合及本支部ノ經費ハ組合員ノ負擔タルヘシ
第十二條　組合及本支部ノ役員ヲ撰擧シタルトキハ縣廳ニ届出ヘシ
㊟明治廿一年（九月）訓令甲第八十三號
今般縣令甲第九十五號ヲ以テ米穀改良組合準則發布候ニ付テハ其所轄內ノ當業者ヲ會シ速ニ組合ヲ設ケサセ規約ヲ編製セシメ本年ノ收穫米ヨリ實施候樣取計フヘシ

但町村ノ情況ニ依リ本年ノ收米ヨリ施行シ難キ場合アルモノハ其理由ヲ具申スヘシ
㊟明治廿二年（二月）訓令甲第十號
各郡區內ニ於テ公私ノ別ナク播種場農事試作場又ハ之ニ類似ノ場所設置候節ハ左ノ條項ニ據リ取調其時々届出ヘシ
但從來設置ノ場所ハ届出ノ有無ニ不拘本年四月三十日限リ更ニ届出ヘシ
播種場（如クハ農事試作場）設置取調條項
一公私立ノ別及名稱　創立人本籍姓名
一目的
一位置郡村名
一一ケ年間經費豫算額及收入ノ方法（此項每年三月限リ可届出）
一職員本籍姓名及各給額
一敷地及試作地反別
一家屋ノ坪及棟數
一牛馬羊豚衆養ノ頭數
以上
但前各項變更若クハ廢場等ノ節ハ其時々届出ヘキ事

第十四類　農業　虫害驅除豫防

○虫害驅除豫防

●明治十三年(五月)甲第百七號

田畑虫害驅除ノ儀ニ付テハ追々相達シ候儀モ有之抑虫害ノ怖ルヘキハ古今内外ニ徵シテ皆人ノ見聞スル處タルヲ以テ各自注意ニ懈タラサル可シト雖ヒ若シ萬一害虫ノ徵候アルヲ緩慢ニ看過スレハ終ニ救フ可ラサルノ巨害ヲ釀スヲ以テ一般人民ニ於テ別シテ篤ク注意シ萬一害虫ノ徵候ト見認ムルニ於テハ速カニ驅除ノ方法ヲ施コシ且ツ農事通信委員ニ報告スヘシ通信委員ハ農事通信手續第二條ノ順序ヲ以テ直チニ本縣勸業課ヘ報道スヘシ依テ今般勸農局第廿八回臨時報ノ全文ヲ左ニ相添ヘ此旨諭達候事

但勸農局農事月報第七號ハ各郡區役所農事通信委員ニ相渡置候條望ノモノハ就テ看ルヘシ

臨時報第廿八回

田圃虫害ノ怖ルヘキハ古今内外ヲ問ハス洽ク人ノ知ル所ナリ本局曩ニ農事月報第七號ヲ編シテ各地虫害ノ景況及ヒ其驅除ノ方法等當局者ノ參考ニ充ツヘキモノハ之ヲ掲載シ且冠スルニ勸農局長ノ諭言ヲ以テセリ苟モ勸業ニ注意シ田圃ニ從事スルモノハ業已ニ其害ノ恐ルヘク驅除ノ忽ニスヘカラサルヲ了知セシナラン今試ニ螟虫ノ害ヲ擧クレハ一昨十一年熊本縣下ノ如キハ被害稻田四千貳百九拾七町五畝拾六歩其損毛六千百四拾石四升ニシテ毎反歩壹斗四升貳合餘ニ當リ長崎縣東彼杵郡ノ如キハ四百拾八町五反貳畝貳拾壹歩ノ内七拾八町九反六畝九歩ハ皆無ニシテ三百三拾九町五反六畝拾貳歩ハ平均七分七厘強ノ損毛ナリ是等ハ固ヨリ其慘毒ヲ極メタル者ニ非サルヘシト雖モ損失ノ大ナル尚此ノ如シ蓋害虫ノ始メテ發生スル未タ其毒ヲ逞フセスト雖ヒ之ヲ忽諸スレハ久シカラスシテ其害名狀スヘカラサルニ至ル豈ニ恐レサルヘケンヤ近頃九州農區視察員ノ報道ヲ閲スルニ區内到處田圃ノ虫害ヲ被ルモノ少ナカラス且去冬寒氣嚴ナラサレハ本年モ恐ラクハ其害ヲ免レサルヘシト云フ抑モ氣候ノ寒暖ハ各地其趣ヲ異ニスルモノナレハ一概ニ之ヲ論スヘカラスト雖ヒ府縣ノ通信ヲ撿スルニ多クハ氣候ノ不順ヲ報セサルハナシ此ニ由テ之ヲ考レハ今歲田圃ノ植物亦必ス虫害ナキヲ保スヘカラス切ニ望ム各地農事ニ關スルモノ爰ニ注意シ務メテ驅除ノ方法ヲ講究シ其毒ヲ未タ盛ナラサルニ防カンコトヲ

附言本歲虫害ノ景況驅除ノ方法及ヒ被害田畑平年収穫額ト被害損失額等詳悉報道アランコトヲ要ス

●明治十四年七月三十日番外

稻田害蟲驅除豫防ノ忽ニスヘカラサルハ既ニ明治十二年甲第百二十一號及明治十三年甲第百七號ヲ以テ諭達致置候趣モ有之候處然ルニ本年ノ如キモ四蒲原及三島刈羽岩船等ノ各郡ニ螟虫瀰蔓ノ兆候ヲ顯シ其救護ヲ請フ者荐リニアリト雖モ抑モ該蟲ノ質タル極メテ健強ニシテ深ク稻莖ノ中ニ侵蝕スルヲ以テ種々ノ藥劑ヲ施シ或ハ培養品ヲ異ニスルモ既發ノ今日ニ至テハ到底其効驗ヲ奏スヘカラサルニ依リ發生前ニ於テ務メテ其害源ヲ勦絶スルヲ第一トス依テ今其方法ヲ左ノ概項ニ列示候條各自一層注意決シテ等閑ニ付スヘカラス若シ一個人ノ不注意ヨリ倏忽他ニ傳殖スルトキハ止ニ年中ノ汗勞モ徒爲ニ屬スルノミナラス凶荒踵テ至リ竟ニハ飢餓ノ慘毒ヲ釀成スルニ及フモ或ハ計リ知ルヘカラス豈ニ怖ルヘキ歎スヘキノ至リナラスヤ故ニ平時年ニ在リテ善ク治術ノ策ヲ講シ以テ其毒ヲ未タ盛ナラサルニ豫防シ決シテ緩慢ニ看過

スヘカラス此旨諭達候事

一被害ノ稻莖ニシテ凋萎變色シタルモノハ悉ク拔採リ燒盡スヘシ

一化蛾ノ時節ハ夜陰點火ヲシテ蛾ヲ群集セシメ燒盡スヘシ

但點火ハ掛行燈炬火等ヲ最モ良トス(此實施法ハ當勝農局第七號農事月報(郡役所ニ備ヘアリ)ニ就テ詳實スヘシ)

一用惡水路江尻及田畑畦畔ニ繁茂セル藪叢等ノ如キハ蟲類ノ潛伏スルヲ以テ常ニ芟除シテ塾居ノ恐レナカラシムヘシ尤モ耕地風防等ノ爲メ藪叢ヲ爲スモノハ草帶ノ類ヲ以テ叢ヲ掃ヒ潛伏ノ蛾飛出ルヲ抑ヘテ殺スヘシ

一本年被害ノ新藁ヲ其儘翌年ノ肥料ニ供スヘカラス

但二ヶ年ヲ經過シタルモノハ用ウルモ妨ケナシ

一本年被害ノ新藁ハ果シテ其莖中ニ害蟲ノ蟄居シ明年ノ春暖ヲ俟テ蛾ニ化シ四方ニ飛散シテ卵ヲ産布スルヲ以テ其新藁ハ土藏又ハ家屋等ニ密閉シ或ハ蔬類ヲ以テ二三重ニ覆ヒ繩藤ノ類ニテ縱橫ニ捲キ蛾ノ他ニ飛散セサル樣注意スヘシ

一被害ノ田圃ハ可成其年內ニ犂返シ其殘稈ハ深ク地中ニ埋沒スヘシ

但殘稈ノ地中ニ埋沒シ能ハサル地ハ之ヲ燒灰トナシ肥料ニ供スルモ妨ケナシ

㊟明治十五年六月廿二日番外

近來害蟲驅除豫防又ハ養蠶ノ需用等ニ供スル藥品類發賣ノ者往々有之候處原來田園ノ驅蟲法ノ如キハ精密ナル學術及實際上親驗ノ考查ヲ要スルニ非レハ到底完全ノ効績ヲ收ムルヿ極メテ難シ殊ニ養蠶ノ法ハ專技備ノ巧拙桑樹ノ種類栽培ノ如何ニ據テ起ル者ナレハ徒ニ賣藥ニノミ偏信シ反テ緊要ノ注意ヲ欠クカ如キヿアリテハ自ラ其害ヲ求ムルト一般ニシテ折角殖産ニ熱心シ年中ノ汗勞モ徒爲ニ屬スルノ恐レアルヲ以テ爾來可成實際上ノ經驗ニ依テ施行可致旨該當者一般ヘ無洩諭示可致此旨相達候事

郡區役所　戶長役場

㊟明治十八年(六月)乙第六十二號

今般螟虫豫防驅除ノ義ニ付一般ヘ諭達候ニ付テハ右實施ノ方法各地區々相成候テハ其實効ヲ奏スルヿ能ハサルヲ以テ實際ノ景況ニ應シ相當ノ組合若クハ規約ヲ定メ各町村一致協同シテ之レニ從事候樣未發ノ今日ニ於テ豫メ其計畫ヲ相整置候樣可致此旨相達候事

郡區役所　戶長役場

㊟明治十九年(一月)甲第七號

田圃耕作物ノ害虫ハ其發生ノ初ニ於テ各自之ヲ驅除スヘキハ勿論ニ候處往々之ヲ忽セニスルヨリ遂ニ蔓延ノ患ヲ來シ不測ノ災ヲ釀スモノ不鮮ニ付田圃虫害豫防規則左ノ通相定メ來ル三月一日ヨリ實施候條此旨布達候事

田圃虫害豫防規則

第一條　田圃虫害豫防規則ヲ設クル虫類ハ左ノ十種トス

螟虫　苞虫　紛塵子　泥虫　麻虫　金龜虫　蠶蛆虫　地蠶　蝗　尺蠖

第二條　害虫田圃ニ發生スルトキハ作人ハ直ニ驅除ニ着手シ虫名、虫形、發生期日、害況並ニ驅除ノ法方及ヒ効否ヲ詳記シテ受持聯業委員並ニ戶長ニ通ヘ尙ホ郡役所ヲ經テ縣令ニ届出ヘシ

第三條　一町村若クハ數町村ヲ以テ驅虫地區トナシ害虫蔓延ノ徵アルトキハ該區ノ人民ハ戸長ノ指揮ニ據リ協力シテ驅除ニ從事スヘシ

第四條　害虫久シク撲滅セサルトキハ作人ハ時々郡役所ヲ經テ縣令ヘ害況ヲ報道シ撲滅ノ後更ニ被害反別害況及ヒ豫防驅除ノ方法効否ヲ届出ヘシ

第五條、害虫發生ノ翌年若クハ害虫發生ノ兆アルトキハ作人ハ相當ノ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條　第三條ノ場合ニ於テハ其豫防驅除ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第七條　此規則第二條第三條第五條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ廿錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス（廿年縣令甲百五十七號ヲ以テ改正）

◎明治十九年（二月）甲第十六號

今般田圃虫害豫防規則布達候ニ付テハ更ニ左ノ通リ細則ヲ相設ク

右布達候事

田圃虫害豫防細則

第一條　郡區吏戸長ハ常ニ虫害ノ景況ニ注意シ其田圃ニ發生スルノ徵アルカ若クハ發生シタルヲ認ムルトキハ直ニ作人ヲシテ豫防驅除ニ着手セシムヘシ

第二條　戸長ハ害虫發生ノ報ヲ得ルトキハ被害地ニ出張シテ實況ヲ視察スヘシ

第三條　戸長ハ害虫蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ郡區吏ト協議ノ上該地區ノ農民ヲシテ豫防驅除ニ從事セシムヘシ

第四條　害虫發生蔓延ノ翌年ニ於テハ戸長ハ被害地作人ヲシテ相當ノ豫防法ヲ施行セシムヘシ

第五條　害虫田圃ニ發生スルトキハ戸長ハ作人ヲシテ虫名、虫形、發生期日、害況、驅除ノ方法及ヒ効否ヲ記シ縣令ニ届出テシムヘシ害虫久シク撲滅セサルトキハ時々害況ヲ報道セシメ撲滅ノ後更ニ被害反別ニ害況及ヒ豫防驅除ノ方法効否ヲ届出テシムヘシ

第六條　害虫豫防驅除法ヲ概定スルコト左ノ如シ

一、螟虫

螟虫ハ五六月ノ間稻苗ノ葉面ニ孵化シテ稿皮或ハ莖中ニ蝕入シ其心ヲ食フヿ凡三週間ニシテ八分程ノ裸虫トナリ老蟄シテ蛹トナル爾後凡一週間ニシテ小蛾トナリ直ニ交尾シテ稻葉ノ面ニ産卵ス斯ノ如クスルヿ各地差異アリト雖モ概ヲ二三回ニ及フ其遲ク孵化セシモノハ苅藁及殘株中ニ蟄伏シテ害ヲ次年ニ遺スモノナリ其豫防驅除法ハ左ノ如シ

第一　五月頃ニ至リ小蛾ノ出ルヲ目擊セハ順和ノ日ヲトシ薄暮ヨリ午後十時頃マテ燈火ヲ點シテ之ヲ燒殺スヘシ

但爾後收獲ニ至ルマテノ間此小蛾ヲ目擊セハ速ニ本法ヲ施行スヘシ

第二　苗葉ノ面ヲ撿シ卵ノ如キモノアルカ又ハ葉端ノ蒸黄セルカ或ハ藁皮ニ黄班アルモノハ皆之ヲ撮採シテ投火スルカ若クハ深ク土中ニ埋ムヘシ但シ耘耨ノ際モ亦勉メテ此法ヲ行フヘシ

但苗代ハ右驅除ヲ行フニ便利ノタメ幅ヲ三四尺程ニシテ縱ヲ長クスヘシ

第三　穗枯立枯等ヲ生セハ速ニ之ヲ拔取リ燒棄スヘシ

第四　旱中晩ノ三稻共ニ其被害ノ輕重ヲ問ハス収獲ノ後ハ悉ク其殘株ヲ堀リ之ニ石灰及ヒ鰥肥ヲ混和シ或ハ人糞ヲ漑キテ堆糞ヲ製シ以テ其中ニ蟄伏スル虫ヲ蒸殺シ次年ノ害ヲ絶ツヘシ

第五　稿ハ被害ノ最モ甚シキモノナリ漸次焚料或ハ布蓐ニ用ヒ其餘ハ成ルヘク密閉セル所ニ積置クヘシ

第六　田畔路傍等ノ雜草中ニハ諸害虫ノ潛伏スルモノナレハ冬月ノ間成ルヘク速ニ燒拂フヘシ

二、苞虫

苞虫ニ甲乙二種アリ甲種ハ水面ヲ去ルヿ凡ソ二三寸ニシテ稻葉ヲ咀嚼シ白糸ヲ吐テ喰殘リノ葉片ヲ綢繆シ晝間ハ其中ニ潛伏シ乙種ハ稻葉ヲ卷キテ衣トナシ水面ニ浮泳シテ稻株ヲ求メ攀緣シテ之ヲ蝕害ス此二種ハ共ニ其窠中ニ在リテ蛹トナリ爾後凡一週間ニシテ小蛾トナル其驅除法左ノ如シ

第一　甲種ハ草取ノ度毎ニ一々之ヲ捻殺シ八日下旬ヨリ燈火ヲ點シテ羽化スルモノヲ燒殺スヘシ

第二　乙種ハ繩網ヲ左右シテ之ヲ拂ヒ落シ以テ掬取スヘシ但水利ヲ得タル田ニシテ稻株苗等矮小ナル時該虫ヲ發生セハ次第ニ水ヲ湛ヘテ其浮出セルモノヲ掬取スヘシ

第三　六月下旬ヨリ燈火ヲ點シテ乙蛾ヲ燒盡スヘシ

三、粉塵子

一朝粉塵子ノ發生セルモノヲ撿出セハ芥子油及ヒ魚油ヲ用フルカ或ハ石灰水ヲ單用シテ之ヲ驅除スヘシ其法先ツ生石灰ヲ水ニ溶和シ該蟲ノ隱伏シテ未出テサルニ當リ(即チ晝間)此液ヲ以テ其根際ニ注キ暫時ノ後冷水ヲ以テ之ニ灌クヘシ然ルトキハ悉ク斃レ甚シク其害ヲ呈スルコトナシ又其葉上ニ在ルヲ見ルトキハ直ニ石灰水ヲ注クカ或ハ葉ト共ニ之ヲ補取シテ蹈踏シ以テ他ニ散スルコトナカラシムヘシ凡テ該蟲ノ發生スルヤ其原必畦園ノ不潔ニシテ空氣流通ノ不良ナルカ或ハ氣候ノ不順ヨリ來ル者ナリ故ニ可成的雜草ヲ拔去シ其畦園ヲ清潔ニシ且空氣ノ流通ヲ良クスヘシ既ニ被害ノ地ニ在テハ該虫ノ未タ發生セサルノ候ニ於テ豫メ石灰粉ヲ以テ其根際ニ撒布スヘシ然ルトキハ大抵孵化スルコトナシ偶然孵化スルモ直ニ之レカ爲メニ毒セラレ決シテ其害ヲ呈スルコト能ハス但シ肥料ハ熟セル者ヲ用フヘシ

四、泥虫

泥虫ハ天氣久シク陰濕ニシテ冷涼ノ東北風吹ク時ニ發生ス之ヲ除クニハ風上ヨリ石灰ヲ撒シ田中及ヒ田畔ノ雜草ヲ除キ且ツ數々田泥ヲ攪耙シ勉メテ空氣ノ流通ヲ能クスヘシ天氣ノ晴レ風ノ西南ニ轉スルトキハ虫必ス消滅ス

五、麻虫

大麻ヲ害スル虫類ハ甲翅類ヲ以テ多シトス虫既ニ蕃殖シ麻已ニ枯槁ノ色ヲ現ハシタルトキハ斷然之ヲ拔キ取リ塵芥及稿等ヲ以テ之ヲ燒キ棄テ後年ノ蟲害ヲ豫防スヘシ蟲既ニ翅ヲ生セシトキ夜中火ヲ點セハ多少必火中ニ投ス農家殊ニ注意スヘキハ該蟲ノ如キモノ俄然トシテ麻ヨリ生出スルモノニ非ス蟲卵土中又ハ他ノ處ニ蟄伏シ季節ヲ竢チテ生スルモノナレハ其田圃ハ

力メテ深耕シ或ハ周圍ニ溝ヲ堀リ他所ニ蔓延セシメス而シテ麻莖等ヲ燒キテ豫防スヘキニアリ

麻蟲ハ全体ヲ具フル前ニ之ヲ驅殺スルヲ良トス何トナレハ其麻莖ヲ害スルノ時期ニ達シテハ麻苗ヲ損セスシテ之ヲ驅除スルヿ能ハサレハナリ

六、金龜蟲

金龜蟲ハ蠐螬ノ羽化セシ者ニシテ夏日之レヲ捕殺シ蠐螬及ヒ其蛹ハ耕耘ノ際勉メテ撲殺スヘシ

七、蘿蔔虫

蘿蔔虫驅除豫防法ハ左ノ如シ

第一　蘿蔔収穫ノ際其根邊ノ地下凡ソ一二寸ノ處ヲ點撿シ蠶ノ蛹ノ如キ者ヲ目擊セハ一々殘サヾルヤウ之ヲ採リ集メテ鏖ニスヘシ

第二　園中ノ塵芥及ヒ落葉等ハ該虫ノ潛伏スル處ナレハ靜カニ掃キ集メテ燒棄スルヲ良トス

第三　翌年若シ該虫ヲ發生セハ其未タ成長セサル前ニ石灰木灰及ヒ藁灰ノ中就レニテモ得易キ物ヲ以テ朝露ノ未タ乾カサル間ニ其葉上ニ散布スヘシ

八、地蠶

此虫ハ蝶類ノ子ニシテ一名「チキリムシ」ト云被害ノ園圃ニハ適宜ニ穴ヲ堀リ或ハ溝ヲ穿キ土崩ノ患ヲ防キ置ケハ虫必此中ニ落ツ因テ毎朝捕殺ス（燒殺ヲ良トス撲殺之ニ亞ク生埋スルヿ勿レ）ヘシ又母蝶ハ小兒等ヲシテ草箒ニテ打殺サシムヘシ抑モ地蠶ノ性タル烟草汁及石灰水

ヲ嫌厭スルカ故ニ曉天彼其食ヲ索メ未タ隱伏セサルノ際ニ乘シテ之ヲ灌漑シ少時間ノ後其植物振動シ地ニ落ルモノヲ採リ集メテ之ヲ殺スヘシ又壯ナル家鴨若クハ家鷄ヲ用ヒテ啄食セシムルモ亦之ヲ驅ルニ足ル又未發ニ於テ之レヲ防クノ法アリ凡蝶ノ卵ヲ生スルヤ通常荒蕪ニシテ氣光ノ流通不良ノ地ニ於テセリ故ニ被害ノ地ハ翌年之ヲ耕耘スルニ當リ勉メテ土中ノ舊根及草芥等ヲ除却スヘシ若シ蛹ノ存スルヲ見ハ直ニ之ヲ殺スヿ言ヲ俟タス虫卵ハ直ニ之ヲ踏蹂スルカ或ハ蠹中ニ投シ熱湯ヲ灌キテ之ヲ殺盡スヘシ

九、蝗

蝗ハ四五月ノ間發生シ舊翅ノ漸ク具備スルニ及ンテ諸植物ヲ蝕害ス其雄ハ晩秋ニ至リ地ヲ穿チテ卵囊ヲ産下ス其數ニ顆毎囊凡ソ五十顆ノ卵ヲ塡充セリ其驅除法左ノ如シ

第一　冬月ノ間老幼ノ輩ヲシテ其卵囊ヲ採集セシメ煎熟シテ堆糞ニ混和スヘシ

第二　該虫ノ發生スルコト最モ夥多ナルトキハ各所ニ深溝ヲ設置シ向岸ニ布片若クニ琉球莚ノ類ヲ張リテ急ニ之ヲ追迫シ以テ其溝中ニ陷下セル者ヲ殺スヘシ

十、尺蠖

尺蠖ハ桑樹ニ最モ大害ヲ逞フス其豫防法ハ冬期桑樹ヲ注視シ若繭蛹アラハ之ヲ採リ棄テ樹下ノ落葉枯草等ハ悉ク燒棄シ又發芽ノ頃其樹根ヘ乾砂ヲ圓錐狀盛リカケ置キ地中ニテ孚化シタル雌蛾ヲシテ其幹ニ上ラシメサルヲ要シ且毎朝其蛾及ヒ虫ヲ拾殺スヘシ

○牧畜

㊀明治十二年(四月)乙第四十號

各區正副區長　戸長

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行人生ノ傷害ヲ釀シ候ニ付テハ各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養不相成旨兼テ公布相成候處各區内ニ於テ右樣ノ者往々有之趣相聞不都合ニ付自今牛豚豢養ノ者ハ牧牛豚舍距離位置詳細取調出願之上營業可致此旨相達候事

但從前人家稠密之場所ニ營業候者ハ漸次本文手續ヲ以テ更ニ出願可致事

㊀明治十四年(十二月)甲第二百四十三號

新潟勤農場付屬牧畜場畜牛貸渡假規則左之通相定候條此旨布達候事

新潟勤農場付屬牧畜場畜牛貸渡假規則

第一條　新潟勤農場付屬牧畜場ノ畜牛ハ管内請願者ニ貸附シ或ハ孳尾ヲ許シ漸次牧畜ノ改良ヲ目的トス

第二條　畜牛貸付又ハ孳尾ヲ許スモノハ牧畜家ニ限ルヘシ

第三條　畜牛貸付ヲ請願スルモ都合ニ依リ本廳之ヲ許否スルコアルヘシ

第四條　畜牛貸付ノ年限ハ適宜之ヲ定ム但本廳ノ都合ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第五條　貸付中飼料其他一切ノ費用ハ借用人ノ自辨タルヘシ

第六條　貸付中畜牛罹病又ハ斃牛分娩ノ節ハ其都度直ニ本廳へ届出ヘシ

第七條　畜牛蕃殖其他ノ景況ハ年々六月十二月毎ニ調査シ所轄郡役所ヲ經テ本廳へ差出スヘシ

第八條　貸付中ハ臨時勤業課員又ハ郡書記ヲ派遣シ飼料ノ厚薄牧場ノ搆造ヲ調査シ若シ不都合アリト認ムルトキハ速ニ返納ヲ命スルコアルヘシ

但飼養並ニ牧場ノ不都合ヨリ貸付ノ畜牛斃死等ノ損害アルトキハ相當ノ價格ヲ償却セシムヘシ

㊀明治十九年(二月)甲第三十二號

種牡牛馬取締規則左ノ通リ相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

右布達候事

但本年ニ限リ三月十日限リ檢査出願スヘシ

種牡牛馬取締規則

第一條　牡牛馬ヲ所持シ種用ニ供セント欲スルモノハ第一號書式ニ依リ毎年一月三十一日限リ願出檢査ヲ受クヘシ

但牛馬共ニ其種類ヲ區別スヘシ(例ヘハ牛ハ乳用役用馬ハ乘用農用ノ如シ)

第二條　種牡牛馬ハ左ノ項目ニ據ルヘシ

一、牛ハ滿二才以上滿十才以下ノモノ

但シ洋種ハ滿十才以上ニ至ルモ妨ケナシ

二、馬ハ滿三才以上滿十六才以下ノモノ

但シ洋種ハ滿十六才以上ニ至ルモ妨ケナシ

三、遺傳病アルモノ

四、強壯ニシテ骨格善良ノモノ

五、惡癖ナキモノ

六、牛ハ丈四尺二寸以上馬ハ四尺六寸以上ノモノ

但シ種畜ニ充シキ地方ニ在テハ牛ハ丈四尺一寸以上馬ハ丈四尺五寸以上ニシテ種畜ニ相當ト認定スルトキ假証ヲ與フルコトアルヘシ

第三條　種牡牛馬ノ檢査ハ勤業課員ヲシテ施行セシム

但檢査ノ期日及檢査場等ハ其時々相達スヘシ

第四條　檢査ノ當日其牛馬疾病又ハ不得已事故ニヨリ牽致シ難キモノハ第二號書式ニ倣ヒ檢査場ニ届出ヘシ

但事宜ニヨリ其厩舍ニ就キ檢査スルコトアルヘシ

第五條　檢査合格ノ者ヘハ左ノ雛形ノ檢査証ヲ附與ス

檢査証雛形　竪三寸五分　横二寸五分

表

本第　號

假

何種何毛何才何尺

○種牡(牛馬)檢査証

何郡區町村番地

飼主　氏　名

裏

明治　年　月　日

○○新潟縣印

第六條　種牡牛馬ヲ牽行スルトキハ必ス該檢査証ヲ携帶スヘシ

第七條　臨時勤業課員ヲ巡回セシメ種牡牛馬ヲ檢査スルコトアルヘシ

但臨時檢査ノ節疾病其他ノ事故ニヨリ種用ニ適セサルモノト認ムルトキハ檢査証ヲ引揚クルコトアルヘシ

第八條　檢査証ナキ牡牛馬ハ種用ニ供スルヲ得ス

第九條　檢査証ヲ所持セル種畜ヲ賣買讓與スルトキハ雙方連署シ讓受人ヨリハ第三號書式ニ倣ヒ檢査証書換ヲ願出(但讓受人ニ於テ種用ニ供セサルモノハ此限ニアラス)ヘシ

第十條　種畜(斃死)(屠撲殺)シタルトキハ檢査証ヲ添ヘ第四號書式ニ倣ヒ其旨届出ヘシ

第十一條　檢査証ヲ毀損又ハ遺失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ第三號書式ニ倣ヒ書換若クハ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條　種畜ニシテ惡癖ヲ發シ若クハ疾病ニヨリ疲勞脫肉シ種用ニ供シ難キトキハ第四號書式ニ倣ヒ檢査証ヲ添ヘ其旨届出ヘシ

第一號書式(用紙美濃紙正副二通)

牡(牛馬)御檢査願

一　何種牡(牛馬)何毛何歳何尺す(所有ニアラサレハ何年月日何官廳又ハ何誰ヨリ借用)

生産地何府縣國郡區町村或ハ何牧場或ハ不詳

父(牛馬)産地何府縣國郡區町村或ハ何牧場或ハ不詳

母(牛馬)産地何府縣國郡區町村或ハ何牧場或ハ不詳

右種畜ニ相用度候間御檢查被成下度此段奉願候也

何郡區町村番地
年　月　日　飼主　氏　名　印

新潟縣令　宛

奥書例文

第二號書式（用紙第一號書式ニ同シ正書壹通）

御　届

一　牡（牛馬）何毛何歳何尺

右種畜ニ相用度御檢查奉願置候處今般何々ノ（事故）ニ付（疾病ニ罹リ）御檢查場ニ牽運仕兼候間（疾病ノ獸醫診斷書添）此段御届仕候也

何郡區町村番地
年　月　日　飼主　氏　名　印

新潟縣種畜檢查員
御　中

奥書例文

戸長　何　誰　印

第三號書式（用紙美濃紙正副二通）

種牡（牛馬）檢查証（書換再渡）願

（本假）第号檢查証

一　種牡（牛馬）何種何歳何尺

右ハ今般（何郡區町村何某ヨリ買受讓受）（遺失）（毀損）候ニ付檢查証（書換）（再渡）被成下度此段奉願候也

何郡區町村番地
年　月　日　（飼主賣渡讓）人　氏　名　印

何郡區町村番地
（買讓）受人　氏　名　印

新潟縣令　宛

戸長　何　誰　印

奥書例文

第四號書式（用紙第一號書式ニ同シ正書一通）

一　種牡（牛馬）何種何毛何尺

右ハ今般（何郡縣下何國郡區町村某ヘ（賣讓）渡（斃死）（屠撲殺）（何々ノ事故ニ依リ交尾相止メ）候ニ付檢查証添ヘ此段御届仕候也

何郡區町村番地
年　月　日　飼主　氏　名　印

新潟縣令　宛

○蠶　蠶

●明治廿二年(四月)縣令甲第四十號

蠶糸業組合規則左ノ通リ相定メ候條來ル五月十日ヲ限リ組合ヲ設置シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

但明治十九年(二月)甲第十五號蠶糸業組合準則ハ本則ニ依リ組合及取締所設置ノ日ヨリ廢止ス

蠶糸業組合規則

第一條　蠶糸業ニ從事スルモノハ一郡市又ハ數郡ノ區畫ニ依リ組合ヲ設置スヘシ

但自用ノミニ供スルモノハ此限ニ非ス

第二條　組合ノ名稱ハ新潟縣下何々郡蠶糸業組合ト稱スヘシ

第三條　組合ハ左ノ項目ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項　繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ大陽殺、蒸殺、燥殺等偏淆シタルモノヲ賣買セサルコト

第二項　製糸ニ最モ良好ナル蠶種ヲ撰定シ育養スルコト

第三項　桑樹ノ栽培及蠶兒ノ飼育法ヲ全良ナラシムルコト

第四項　成繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムルコト

第五項　蠶種ノ製造及ヒ蠶卵ノ檢查法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スルコト

第六項　繭及生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スルコト

第七項　一捆ハ勿論一綛若クハ一把中良否偏淆等ノモノヲ製造販賣セサルコト

但品位ヲ區分シ等級ヲ附シ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第八項　生糸ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサルコト

第九項　綾取アル揚釜ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムルコト

第十項　生糸ノ結束及綛ノ量目ヲ一樣ナラシムルコト

第十一項　提造、島田、折返造等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサルコト

第十二項　生糸檢查法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スルコト

第十三項　役員ノ任期及權限ノコト

第十四項　加盟者及退去者ニ關スル規程

第十五項　會議員ノ數及會議法ノコト

第十六項　蠶糸ノ改良增殖ニ關スル諸會ノコト

第十七項　組合ニ關スル統計ノコト

第十八項　違約者處分ノコト

第十九項　前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項ハ便宜規約スルコトヲ得

第四條　組合員ノ公選ヲ以會議員若干名ヲ置キ組合經費ノ收支豫算其他組合ニ關スル事件ヲ集議評決スヘシ

第五條　組合便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ蠶糸業改良上其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第六條　事務所ニハ組長一名委員若干名ヲ置キ組合會議員ノ公選ヲ以組合員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

第七條　組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ

但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條　組長及委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第九條　新潟市ニ組合取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第十條　組合取締所ハ左ノ項目ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項　組合ノ趣向ヲ畫一ニシ業務上ノ弊害ヲ矯正スルヿ

第二項　蠶種及蠶糸ノ檢査法ヲ一定ナラシムルヿ

第三項　生糸ノ品位及束裝ヲ一定ナラシムルヿ

第四項　蠶糸業上ノ利害得失ニ關スル事項ノ質問應答ヲ爲シ及ヒ之ヲ調査スルヿ

第五項　蠶糸業組合中央部及各府縣蠶糸業取締所ト氣脉ヲ通スルヿ

第六項　役員ノ任期及其權限ノヿ

第七項　會議員ノ數及會議法ノヿ

第八項　經費ノ徴收及賦課法ノヿ

第九項　前各項ノ外取締所ニ於テ必要トナス事項ハ便宜規約スルヿヲ得

第十一條　組合取締所會議員ハ各組長及委員ヲ以組織スヘシ

第十二條　組合取締所ニハ頭取一名理事若干名ヲ置キ頭取ハ取締所會議員ノ公選ヲ以組合員中ヨリ之ヲ選擧シ理事ハ頭取之ヲ選任ス

第十三條　取締所ニ於テハ各組合員連名簿ヲ調製シ其異動ヲ訂正加除スヘシ

第十四條　各組合ヨリ縣廳ヘ差出ス諸願伺届等ハ總テ取締所ヲ經由スヘシ

㊟明治十九年(二月)訓第四號

今般甲第十五號ヲ以テ蠶糸業組合準則ヲ布達シ尋テ乙第十一號ヲ以テ組合取締所規約例相達候ニ付テハ組合ノ地區改良目的ノ細項其他各府縣協議決定ノ件々左ニ指示候條同業者ヘ無洩相達スヘシ

右訓示候事

一組合ノ地區ハ一郡區ヲ以テ一組トスヘシ但蠶糸業ノ多寡ニ據リ一郡ヲ二分シ又ハ二郡ヲ併セテ一組合トスルモ妨ケナシ

一生糸ハ其品位ニ大体ノ區別ヲ立ルモノトス

一繭ノ標章ハ見易キ所ニ適宜貼用スルモノトス

一屑糸ニ貼用ノ印紙ハ五寸五分ニ八分トス但一束ハ三百目ヨリ四百目位トシ一掴ハ四貫目以上九貫目以下トス而シテ一掴毎ニ印紙ヲ貼用スルモノトス

一揚枠ノ周圍ハ五尺トス

一取締所頭取ノ月給ハ(三十圓以上五十圓以下)トス

一組長ノ月給ハ(十五圓以上廿五圓以下)トス

一力糸ハ三ツ縫トシ二箇所トモ絹糸ヲ用ユルモノトス
一束裝ハ一紐十匁ヲ二ツ合セニシテ一捻ト成シ六列五層ヲ以テ一括トス
一飾糸ハ（佛國ニ輸出ヲ目的トスルモノハ絹糸ノ蛇腹糸米國ニ輸出ヲ目的トスルモノハ木綿ノ白糸）ヲ用ユルモノトス
一違約金ハ一圓以上百圓以下トス
一掃立原紙ハ一枚ニ付金五錢ノ檢査料ヲ徴収スルモノトス

●明治二十年（一月）縣令甲第五號

明治十九年八月農商務省令第九號蠶種檢査規則施行手續左ノ通相定ム

蠶種檢査規則施行手續

第一項　蠶種ヲ製造シ又ハ販賣セントスル者ハ郡區役所ヲ經當廳ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ
但從前ノ營業者ハ來ル七月一日限リ願出ヘシ
第二項　販賣者ニシテ行商ノ爲メ外出スル時ハ必ラス鑑札ヲ携帶スヘシ
第三項　原種檢査所ハ當分ノ内古志郡長岡町ニ設置ス
但製糸用蠶種ノ檢査所位置ハ追テ相定ム
第四項　春蠶種ノ檢査ハ毎年十月一日夏蠶種ハ毎年十一月一日秋蠶種ハ毎年十二月一日ヨリ始ム
但製糸用蠶種檢査定日ハ追テ相定ム
第五項　蠶種製造者ハ檢査期日内檢査所ニ就キ檢査ヲ受クヘシ
第六項　檢査証印ヲ定ムルコト左ノ如シ

原種檢査証印
圓形（徑一寸五分）文字（新潟縣原種檢査之証）
製糸用檢査証印
楕圓形（縱一寸八分横一寸）文字（新潟縣某檢査所製糸用種檢査之証）
廢棄証印
長方形（縱一寸横五分）文字（廢棄之証）

●明治廿年（六月）告示第百三十五號

蠶種製造者ハ客年八月十七日付農商務省令第九号蠶種檢査規則第七條ニ據リ春夏秋各蠶種掃立枚數及ヒ製造豫算額ハ期限不愆本縣ヘ届出ヘシ

●明治二十年（八月）諭達第十一號

縣下蠶糸ノ業タル近來歐米ノ需用漸ク增加スルニ隨ヒ生産者亦タ日ニ多キヲ加ヒ其數現今無慮三萬ニ下ラス而シ昨年ノ如キ其横濱ニ輸送シタル生糸ハ既ニ一千五百箇ニ至レリト云フ然ルニ之ヲ上信地方ヨリ産出セルモノニ比スレハ其價格低廉ニシテ常ニ市場ニ聲價ヲ得ル能ハス甚キニ至リテハ一箇ニ付百圓乃至貳百圓ノ差異ヲ生スルノミナラス遂ニ外商ノ擯斥スル處トナリ今尚ホ空ク倉庫ニ堆積スルモノ數百箇ノ多キニ居ルト云フ豈思ハサルヘケンヤ今若シ縣下ノ生糸ヲ改良シ上信地方ノ生糸ト相頡頏スルニ至ラハ一擧シテ拾五萬乃至貳拾萬圓以上ノ利益ヲ增加スルハ敢テ難キニアラサルヘシ斯業ニ當ルモノ豈勉メサルヘケンヤ抑々我カ越後ノ地タル秋雨冬雪寒暖常ナラスト雖モ幸ニ養蠶ノ時期ニ至レハ季候適順寒暖ノ昇降上信地

方ト大差ナキモノヽ如シ然リ而ノ單リ糸價ノ彼ニ及ハサル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ彼ノ生糸ハ需用者ノ意向ニ適シ我レノ生糸ハ需用者ノ意向ニ適セサルヲ以テナリ蓋外國貿易ノ要ハ外商ノ意向ヲ審ニシ品質同一ノ生糸ヲ多量ニ産出シ一定ノ荷造法ヲ用ユルヨリ先キナルハナシ然ルニ縣下生糸製造ノ現狀ヲ觀ルニ或ハ事此ニ出テス繭ノ精撰製糸ノ精整ニ意ヲ注クモノ甚タ少キカ如シ黄種ノ繭ハ外商ノ好マサル處製糸ノ雜錯殊類ナルハ外商ノ喜ハサル處縣下生糸ノ外國市場ニ廢價ヲ得サルモ亦タ謂ナキニアラサルナリ嗚呼縣下ノ蠶糸業者斯クノ如クニシテ止マスンハ其利益愈々減少シ遂ニ外商ノ顧ミサル處トナルヤ必セリ希クハ今ヨリ玆ニ鑑ミ其外商ノ需用ニ充テント欲スルモノハ宜ク務メテ白種ノ繭ヲ擇撰シ生糸製造ノ整一及ヒ荷造法ノ一定ヲ計ルヘシ其之ヲ實行スルノ道一ニノ足ラサルヘシト雖モ組合及取締所ノ規約ヲ實地ニ履行スルト同時ニ共同揚場ナルモノヲ各地便宜ノ處ニ設置シ各自ノ製糸ヲ此ニ集メ以テ需用者ノ意向ニ適セル雛齊ノ生糸ヲ産出シ併セテ一定ノ荷造法ヲ用ユルヨリ夢キハナカルヘシ今ヤ製糸ノ期既ニ迫レリ希クハ此意ヲ戴シ自家ノ利益ヲ企圖シ隊テ本業ノ旺盛ヲ計ル處アレ

○商工業

㊈明治五年(十月)第四十二号

絹布木綿其他ノ丈尺是迄曲尺相用來候處向後相廢シ鯨尺可相用事

右之趣區内無遺洩可觸示者也

㊈明治十一年(二月)第十三號

米佛博覽會及内國博覽會出品等ニ付諸職工ヨリノ請求ニ應シ海外需用品ノ流行及本人技術ヲ斟酌シ其時々該事務局ヨリ圖式ヲ製シ貸與致來候處追々請求多數ニ相成候ニ付此度右製品叢圖掛本局ヘ引繼相成候條向後ハ博覽會ノ出品ニ不拘海外販賣ヲ見込諸品製造致候者其工案難決向ハ勿論或ハ相應ノ圖式ヲ望候向ヘハ精々時ノ流行ヲ考ヘ製圖下附可致候條其製品ノ品種書並本人工案有之者ハ其略圖等相添申出候樣内務省勸商局ヨリ通知有之候ニ付將來意見有之者ハ當廳第二課ヘ可申立候此旨爲心得相達候事

但本文製圖借用ノ儀ハ該職工ノ手數ヲ除キ專ラ職業上ノ便益ヲ可計儀ニ付都合ニ依リテ本人共ヨリ直ニ同局ヘ申立候共不苦候條此旨添テ相達候事

㊈明治十一年(十一月)第百三十號

金銀銅陶瀉器類海外輸出ヲ心懸ケ其工按雖決節ハ該需用品流行物等各種製品ノ質凡寸尺並出來上リノ代價見込其他必用ノ件々可成巨細相認メ右製圖願出候ハヽ勸商局製品叢圖掛ニ於テ本人ノ技術ヲ斟酌シ圖式ヲ製シ下付可相成ニ付此段營業ノ者ヘ可相達候事

㊈明治十八年(四月)甲第六十六號

同業組合準則左ノ通リ相定候條營業上濫惡ノ弊害ヲ矯正シ同業者ノ營利ヲ增進スルヲ目的トシ其ニ營業ノ隆盛ヲ企圖セントスルモノハ組合ヲ設ケ此準則ニ基キ規約ヲ編製シ認可ヲ請フヘシ此旨布達候事

但茶業組合ヲ除キ從前承認ヲ受ケタルモノト雖モ本則ニ準シ更ニ認可ヲ請フヘシ

同業組合準則

第一條　農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ク
ルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區內同業者四分ノ三以上ノ全意ヲ以テ規約ヲ作リ縣廳ノ認可
ヲ請フヘシ
但組合ノ地區ハ時宜ニヨリ縣廳ニ於テ指定スルコトアルヘシ

第二條　同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條　同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項　組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項　組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項　目的及方法

第四項　役員ノ撰擧及權限

第五項　會議ニ關スル規程

第六項　加入者及退去者ニ關スル規程

第七項　費用ノ徵收及賦課法

第八項　違約者處分ノ方法

右ノ外其組合ニ於テ必要トナス事項

第四條　組合ノ設ケアル地區內ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルトキハ縣

廳ニ申出テ其裁定ヲ請フヘシ

第五條　同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ每年二月限所轄郡區役所ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ

第七條　規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條　分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フヘシ

第九條　同業組合ニ於テ役員ヲ撰擧シ又ハ解職者アルトキハ所轄郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第十條　同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ當廳ノ認可ヲ請フヘシ其聯合他管轄ニ渉ルトキハ開會地ノ管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
但開會地ノ他管ニアルモノハ當管內同盟者ヨリ該規約ヲ當廳ヘ届出ヘシ

㊟明治廿二年（一月）論達第一號

全業組合ノ義ニ就テハ明治十八年四月九日甲第六十六號ヲ以テ準則ヲ布達候以來右準則ニ據リ全業者相謀リ組合ヲ設ケ既ニ規約ノ認可ヲ願出候者尠ナカラス然ルニ織物營業者ニ於テハ未タ組合ヲ設ケ規約ヲ結ヒ共ニ營業上ノ福利ヲ增進スルコトヲ圖ラサルヲ以テ自然縣下產出ノ織物ハ其尺巾一定ナラス染色モ亦組織ニヨリテ變色或ハ褪色ヲ爲シ夫レカ爲メ漸次世間ノ信用ヲ失シ販路ヲ狹ムルニ至ル今ニシテ之レヲ改良セサレハ終ニ挽回シ能ハサルノ不幸ヲ見ルニ至ラン就テハ當業者相謀リ組合ヲ設ケ規約ヲ結ヒ既ニ失ハントスル處ノ信用ヲ回復シ縣下產

出ノ織物ヲシテ益販路ヲ擴張スルヿヲ謀ルヘシ

●明治十八年(四月)丙第十八號　　郡區役所

從來認可致候金融會社規則中左ノ條項相設ケ本年四月三十日限更ニ可届出旨其會社ヘ相達スヘシ此旨相達候事

第何條

貸付金ノ利子ハ左ノ規程ニヨリ元金返濟ノ節申受クルモノトス

利子規程

元金百圓以下ハ一ヶ年ニ付　二割以内

仝　百圓以上千圓以下ハ一ヶ年ニ付　一割五分以内

仝　千圓以上ハ一ヶ年ニ付　一割貳分以内

但限月貸ノ利子ハ本文ノ歩合ニ準スルモノトス

右利子ノ外ハ手數料及ヒ禮金其他何等ノ名義ヲ問ハス一切申受ケス

第何條

本社ノ規則書ハ社内見易キ場所ニ掲示シテ公衆ニ明示スルモノトス

●明治廿年(五月)訓令乙第九号　　郡區役所

本年五月農商務省令第一號及第二号ヲ以テ專賣特許手續及商標登錄願手續共改正加除相成候ニ付テハ特許又ハ登錄ヲ聞届ケラルヘキ通知書其役所ニ達シタル片ハ即時ニ之ヲ願人ヘ下附スルト同時ニ特許料又ハ登錄料國庫ヘ納付ノ手續ヲ爲シタル上速ニ其旨ヲ本廳第一部農商課

ヘ通報スヘシ

●明治廿二年(一月)訓令甲第三号　　郡區役所　戸長役場

從來人民ニ於テ諸會社設置ニ際シ一般ニ本廳ヘ出願致來候處右ハ素ヨリ一定ノ成規ニ準據セル義ニ無之ニ付自今渾テ出願セシムルニ及ハス其社則ヲ添ヘ本廳ヘ届出候樣取計フヘシ

但金融、鑛山、鉄道、電信、等ニ關スル會社ハ出願セシムル義ト心得ヘシ

○互市場

●明治十二年(五月)甲第九十七號

一ヶ年一度日數五日又ハ七日ヲ限リ年ノ市或ハ神社祭事等ニ例年市場ヲ設クル分ハ從前警察署ヘ願出候成規ニ候處自今郡區役所ヘ願出可受許可此旨布達候事

但開市以前該警察署又ハ分署ヘ其旨可届出事

●明治十三年(七月)甲第百四十三號

市場税之儀(馬市ヲ除ク)今般縣會ノ議決ヲ取リ本年七月ヨリ當分除税候條此旨布達候事

●明治十七年(十一月)乙第百四十二號　　郡區役所　戸長役場

各町村開市之際從前之慣行ニ依リ小屋掛ケ取設ケ道路使用致來リ候向モ有之候處將來ハ無料使用不相成候尤モ小屋掛之爲メ使用致度モノハ別紙雛形ニ照準出願何分之詮議請クヘキ樣無洩可相示此旨相達候事

但從前小屋掛ケ營業致來ル町村ハ本年十二月五日限リ可願出右期限内何等申出サル分ハ小

屋掛ケノ慣行ナキモノト見做シ候條此旨可相心得事

（○ヲ付スハ朱）

離形

何町村地内（國縣里道路）

字、、

一道路段別、、、、、

官有地第三種

但一段歩ニ付金、、、、、

此使用料金

、、、、、

、、、

一、、、、、、、、

○比較ノ隣地字番號地目反別地價持主等詳記付箋スヘシ以下倣之

、、、、、、

、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、

計段別、、、、、、、

此料金、、、、、

右者毎（年何月何日月隔日或ハ三八或ハ四九日等ノ類）當町村開市之際從前之慣行ニ依リ小屋掛營業致度候條使用御允可相成度尤料金之義ハ毎年（六月十五日十二月十五日）限リ取纏メ兩期上納可仕候別紙詳圖相添此段奉願候也

何郡區

年號月日

何町村總代

氏名印

氏名印

郡區長宛

戸長氏名印

○繪圖面中使用願地ヲ明畫シ長横間數ヲ記入スヘシ

●明治二十一年（七月）縣令甲第七十七號

市場規則別冊ノ通リ相定メ明治廿一年八月一日ヨリ施行ス

但從前ノ慣習又ハ町村ノ狀況ニ由リ兼テ開市セルモノト雖モ更ニ出願認許ヲ受クヘシ

市場規則

第一條　市場トハ農産物、水産物、牛馬、其他ノ物品ヲ販賣スル所ヲ云フ

第二條　市場ヲ開設セントスル者ハ其隣接町村惣代連署シ左ノ各項ヲ詳具シ所轄警察署（分署部内ナレハ分署ヲモ）ヲ經由本廳ヘ出願認許ヲ受ク可シ（廿二年縣令甲三號ヲ以テ改正）

一市場ノ地目、地名、字番地

一市場ノ區域ヲ詳悉セル圖面

一商品ノ種目

一手數料又ハ口錢等ノ歩合

第三條　開市ノ認可ヲ經タル片ハ同業者中ヨリ一名又ハ二名ノ管理人ヲ撰擧シ其族籍氏名等ヲ詳記シ所轄警察署（分署部内ナレハ分署ヲモ）ヲ經由本廳ヘ届出ヅ可シ（今上）

第四條　市場ノ區域ヲ變更シ若クハ他ヘ移轉セントスル片ハ本則第二條ノ手續ニ據リ出願認許ヲ受クヘク廢市セント欲スル片ハ其理由ヲ具シ速ニ届出ルモノトス

第五條　市場ニ於ル販賣品ノ種目ヲ增加セント欲ル片ハ所轄警察署（分署部内ナレハ分署ヲモ）ヲ經由本廳ヘ出願認許ヲ受ヘシ（廿二年縣令甲三號ヲ以テ改正）

但共種目ヲ減シタル片ハ届出ヘシ

第六條　市場ハ人馬ノ輻湊スル街路ニ開設スルヲ得ス

但從來ノ慣行若クハ土地ノ狀況ニ由リ兼テ許可シアル場所ニ限リ更ニ認許ヲ與フルコアルヘシ

第七條　管理人ハ常ニ市場ノ商況ヲ記載シ毎年（六月十二月）兩度郡區役所ヲ經由本廳ヘ届出ツヘシ

但臨時開市ノ分ハ共都度本條ニ做ヒ閉市后三日以内ニ届出ヘシ

第八條　開市ノ爲メ公共ノ利益ニ障碍アリト認メタル場合アル片ハ既ニ許可シタル市場ト雖モ停止又ハ禁止ヲ命スルコアルシ

第九條　市場ノ明治十九年七月甲第百四十五號布達及明治二十一年三月縣令甲第廿七號清潔法取締規則ヲ適用ス

但街路取締規則施行地ニ於テハ同則第十九條第廿二條ヲ除ク外渾テ之ヲ遵守スヘシ

㊂明治二十一年（七月）縣令甲第八十五號本年（七月）縣令甲第七十七號市場規則發布以前本縣ヘ出願認許ヲ受ケ又ハ本縣ヨリ特ニ指定シタル市場ニ限リ該則ニ據リ更ニ開市ヲ願出ルニ及ハス

但市場規則各條ヲ遵守スヘキハ勿論該則第二條第三項第四項及ヒ第三條ニ基キ更ニ届出ヘシ

○漁業採藻

㊂明治十年（二月）第九號

露西亞領樺太島ヘ漁業出稼志願ノ者ハ本廳ヘ願出海外行免狀可申受此旨及布達候事

㊂明治十三年（九月）甲第二百一號

鮭魚ノ儀ハ無比ノ水産ニ候處近年追々減少ノ趣ニ付將來該産保護ノ爲メ鮭魚漁獵規則左ノ通相定メ候條此旨布達候事

鮭魚漁業取締規則

第一條　鮭魚ノ放卵スル河海ハ毎年二月一日ヨリ八月三十日迄雌雄共ノ鮭兒ヲ捕ル可ヲス

但他漁業ノ爲誤テ鮭兒ヲ獲ルコアラハ直チニ之ヲ放ツ可シ

第二條　河海トモ毎年九月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間毎日曜日午前第六時ヨリ月曜日午前六時迄一晝夜ノ間鮭魚ノ漁獵ヲ禁ス

第三條　各川トモ鮭魚ノ砂礫中ニ放置セル卵子ハ決シテ採ル可ラス

第四條　此規則ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ廿錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス（廿年縣令甲百五十七號ヲ以テ改正）

㊟明治十三年九月廿五日番外

當越後國ハ大河最モ多キヲ以テ水産モ亦逈ナカラス就中鮭魚ノ如キハ固有最大ノ天産ニシテ古來ヨリ沿岸ノ村落漁業ヲ以テ生活スル者少ナカラス然ルニ智巧日ニ開クルニ隨ヒ捕魚ノ術モ益精密ニシテ數罟常ニ池河ヲ離レス遂ニ鮭魚ヲ酷捕シ信濃川筋ノ如キハ十餘年前ニ比スレハ其收獲大凡十分ノ四五ヲ減少セリト云此儘ニシテ年ヲ積マハ該種益減シ沿岸漁業ノ者遂ニ産業ヲ失フニ至ルヘキハ必然ノ事ニ相見ヘ候抑鮭魚ハ毎年秋ノ彼岸ノ候始メテ海水ヨリ河流ニ溯リ清潔ナル砂礫中ニ放卵ス此ノ卵子翌春大陽ノ温度ヲ受ケテ孵化シ稍成長シテ雪消ノ增水ニ乘シ川ヲ降リテ大洋ニ流出シ凡三年間洋海ニ遊長シ四ヶ年目ノ秋ニ至リ再ヒ已カ生育セシレハ往年鮭種繁殖シテ再ヒ曩年ノ多キニ復シ沿岸漁業ノ者果シテ宏益ヲ得ルニ至ルハ斷シテ疑ハサル所ナリ然ルニ從前漁業ノ者放卵ノ期ヲ妨害スル而已ナラス或ハ砂礫中ノ卵子ヲ索採シ又ハ孵化セル魚兒ヲ澀捕スル等ノ類往々有之趣相聞エ夫レ卵子鮭兒ハ數十ヲ捕ルトモ當時以テ口ヲ糊スルニ足ラス然ルニ生長ノ後ニ及テハ一尾之ヲ獲ルモ亦數日ノ飢ヲ凌クニ非ラスヤ該業ノ者篤ク前條ノ理ヲ考ヘ決シテ鮭兒卵子ヲ捕獲セス將來該産ヲシテ益隆盛ナラシムヘキ此旨諭達候事

㊟明治十四年（四月）乙第二十五號

郡區役所　戸長役場

明治十三年甲第一號ヲ以テ鮭魚漁獵規則施行候主意ハ既ニ客年九月番外ヲ以其詳細ヲ諭達候通該産ヲシテ永遠不斷ノ大利ヲ企圖スルノ計畫ナルヲ以該營業者ニ於テモ注意スヘキハ勿論ノ處往々不取締ノ向モ有之哉ノ趣ニテ甚不都合ノ次第ニ候條現今鮭兒海洋ニ流下スルノ季節ニ付漁業ニ從事スルノ際一層注意可致旨該營業者ヘ篤ク告諭可取計此旨相達候事

㊟明治十五年（一月）乙第二號

鮭魚番殖保護ノ儀ニ付テハ明治十三年甲第二百一號鮭魚漁獵規則布達及同年九月番外諭達並ニ客歲乙第二十五號達ノ次第モ有之候處猶近來右規則ニ違犯スル者有之哉ノ趣右ハ以ノ外ノ儀ニ候條猶來一層嚴重取締可致ハ勿論漁民共ヘモ心得違無之樣厚ク告諭可致此旨相達候事

㊟明治廿一年（十一月）縣令甲第百十三號

信濃川鮭鱒魚ノ蕃殖ヲ企圖セル爲メ該沿岸漁業者等ニ於テ聯合組合ヲ組織シ産卵場ヲ設ケ禁漁休漁ノ制限ヲ立テ規約結締候ニ就テハ其組合漁業者ニ限リ當分ノ內鮭魚漁業取締規則第二條每日曜日禁漁ノ制ヲ解ク

㊟明治十六年（四月）甲第四十號

近來沿海ニ於テ介種捕獲ノ爲メ潛水器械ヲ使用スルモノ有之哉ニ相聞右ハ介種蕃殖ヲ妨害シ將來漁者不測ノ漁利ヲ失フモ亦知ルヘカラス就テハ當分ノ內潛水器械ヲ以介種ヲ捕獲候儀不相成候條此旨布達候事

㊟明治十八年（四月）十七日無號

我人民密國樺太島ノ漁業出稼手續ノ儀ニ付テハ明治十五年四月甲第八十五號ヲ以テ及布達置候處其後心得違ノ者往々有之右手續ヲ經ス直ニ漁場ヘ渡航スル者有之趣ノ處露國地方ノ成規ニ因レハ漁業証ヲ所持セス漁場ニ碇泊スル船舶ハ物ヲ密漁船ト見做シ拘留スヘキニ付今後同地方ヘ出稼ノ者ハ必ス心得違無之様注意スヘシ此旨諭達候事

郡區役所

㊟明治十九年(四月)丙第四十二號

本年四月甲第七十五號布達ヲ以テ郡區長特委任條件中ニ漁具増加云々之一項追加候ニ就テハ爾後該開廢業ニ關スル人名別紙様式ニ做ヒ毎年二期ニ取調届出ヘシ

右相達候事

海漁業川漁業トヲ各別スヘシ

何　郡

明治何年自一(七)月至六(十二)月漁場加入及漁具増加人員表

最初許可年月日	當時出願總代人名	漁場又漁具漁具増加許可ノ月日	漁場加入	種目	村名	人名
何年何月何日	總代何某	何年何月何日	新規加入	何漁具何個増加	何村	何某
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝

明治何年自一(七)月至六(十二)月加入漁場及増加漁具廢業人員表

最初許可年月日	當時出願總代人名	漁場又漁具廢業月日	種目	村名	人名
何年何月何日	總代何某	何年何月何日	漁場廢脫	何村	何某
仝	仝	仝	何漁具何個	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	何漁具何個(全廢)	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝

㊟明治十九年(五月)甲第九十七號

漁業組合準則左之通相定ム依テ此準則ニ基キ組合ヲ設ケ其規約ヲ作リ認可ヲ請フヘシ

右布達候事

漁業組合準則

第一條　漁業(水産動植物採捕ヲ併稱ス)ニ從事スル者ハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作リ本縣ノ認可ヲ請フヘシ

但組合ノ區畫ハ時宜ニ依リ本縣ニ於テ指定スルコトアルヘシ

第二條　組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條　組合ハ左ノ二類トス

第一類　捕魚採藻（遠海漁業若クハ鳥賊漁艦漁ノ如キ特ニ著産ノモノ）各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類　河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ兼同シテ組合ヲナスモノ

第四條　前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條　組合ノ規約ニ揭ケヘキ事項ハ左ノ如シ

一　組合ノ名稱及事務所ノ位置

二　組合ノ目的

三　役員撰舉法及權限

四　會議ニ關スル規程

五　加入者及退去者ニ關スル規程

六　違約者處分ノ方法

七　費用ノ徵收及賦課法

八　捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事

九　漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事

十　漁場區域ニ關スル事

十一　前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條　組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ更ニ規約ヲ作リ本縣ノ認可ヲ請フヘシ

第七條　組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作リ若クハ之ヲ更正セントスルトキハ本縣ノ認可ヲ請フヘシ

第八條　組合ニ於テ役員ヲ撰舉シ又ハ解職者アルトキハ本縣ノ認可ヲ請フヘシ

第九條　他管轄ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

第十條　他管轄ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每管轄內ニ於テ事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必用ナラサル場合ニ於テハ許可ヲ得テ之ヲ置カサルコトヲ得

㊟明治廿二年（一月）告示第三號

青森縣ニ於テ水產保護ノ爲メ左ノ漁場取締規則令達セリ當縣人民ニシテ該縣地方ヘ出漁ノ者其趣旨ヲ遵守スヘシ

漁場取締規則

第一條　漁業組合ノ設ケアル漁場ニ於テハ其組合ニ加入スルニアラサレハ組合規約ニ指定シアル種類ノ魚介藻ヲ採捕スルコトヲ得ス

第二條　遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻捕採スルモノハ其地組合規約ニ定メタル禁停制限ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條　本則ニ違背シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

○水車

●明治十五年(九月)甲第百九十九号

水車ヲ建設シ營業ヲナサントスル者ハ自今水路ニ關係アル水上水下村々ニ於テ故障無之旨戸長ノ奥書捺印ヲ受ケ郡區役所ヲ經由シ出願可致此旨布達候事

●明治十五年(十二月)甲第二百廿號

水車新設營業願ニ付本年甲第百九十九號布達候處該水車讓渡又ハ廢業臼數增減等之願届書ハ從前ノ通所轄郡役所ニ於テ處辨候條此旨布達候事

●明治十五年(十二月)丙第五十二號

水車新設ノ義ニ付本年甲第百九十九號布達候處該水車讓渡又ハ廢業臼數增減等ハ從前之通其役所ニ於テ辨理シ其人名異同等毎年六月十二月ニ取纏可届出此旨相達候事

●明治十七年(八月)告第百四十九號

水車建設營業ヲナサントスル者ハ明治十五年甲第百九十九號布達ニ據リ出願スルハ勿論ナリト雖モ左ニ掲ル所ノ條項願書中判然セサルモノ往々有之調理上差支ユルノミナラス之レガ爲メ往復ニ時日ヲ費シ願人ノ不幸モ可有之候條爾後左ノ條項ニ照シ出願候樣可致此旨告示候事

但出願許可ノ者ハ第五項之通可心得事

一建設スヘキ敷地ノ段別及字番號地種地目ヲ明記スヘシ

但一筆ヲ分裂使用スル片ハ原段別ヲ肩書スヘシ

二民有原野ニ建設セントスル片ハ先ツ以宅地開墾之儀願出許可之後水車建設之儀出願スヘシ

三官有川敷用惡水路及堤域(用惡水路之分ニ限ル)等ヲ建設セントスル片ハ該所相當ノ料金ヲ付シ川敷其他拜借ノ儀出願許可ノ後水車建設之儀願出ツヘシ

四水車用水溝ハ從來ノ用惡水路ナルヤ或ハ新規ノ堀割ナルヤ其區別及ヒ三等以上ノ河流ヲ水車ノ用水ニ使用セントスルトキ其川名等級其他挽碓搗碓ノ區別及其員數等ヲ明記スヘシ

五水車建設ノ儀出願許可ノ上ハ該敷地(宅地ニ非サルトキ)ハ宅地成變換ノ儀届出ヘク新規設クル水車溝ニシテ裂筆ヲ要セサルモノハ原地目ノ儘据置所有主ヲ異ニシ裂筆ヲ要スルモノ、内田畑宅地ニ係ルモノハ原地目ニ据置段別及ヒ本地ノ地價ヲ相當ニ分配シ原野ニ係ルモノハ水車溝名稱ヲ以テ相當ノ地價取調撿査可受事

○博覽會、共進會

●明治十九年(一月)乙第三號

郡區町村ニ於テ博覽會若シクハ共進會開設候節ハ發會以前右規則書相添可届出且ツ閉會ノ後ハ出品目錄及審査薦告狀寫並ニ該會ノ景況別紙書式ニ照準夫々取調申報可致此旨相達候事

但種苗交換市等ニシテ褒賞狀ヲ授付スルモノ並ニ物産會等ニテ博覽會類似ノ分モ本文ニ準シ可届出事

郡區役所　戸長役場

(別紙)

(明治何年)新潟縣下何郡區町村民設博覽會景況報告書

（會場地名）某國郡某地　　會主（某郡區役所又ハ何ノ誰等）

開場何月何日　　閉場何月何日

通券價格　何程（又ハ平日何程日曜日何程）　通券料收額何程

出品主　何人　觀客何人（又ハ平日何人日曜日何人）

內何品　何人　何品　何人

內何品　何人　何品　何人

列品數　何品　列品總額　何程

內天產物　何品　內何品　何程

內製工品　何品　內何品　何程

機械　何品　但賣價ヲ記スヘシ

列品賣數　何品　同價額

內何々　何品　內何品

何々　何品　何程

但別ニ賣店ヲ設クルモノハ其賣數價額ヲ列記スヘシ

褒賞授付　何人

內譯

特別　何人　一等　何人

二等　何人

三等　何人　四等　何人

五等　何人

六等　何人　追賞　何人

但尚此外ニ等級及褒狀其他等級ヲ付セス物品ヲ授付シ甲乙ノ種類等アラハ一々分記スヘシ其ヲ數品ノ共進會等ナラハ何等賞何人內何品何人何々何人ト詳記スヘシ

會場總費　何程

內何程　通券料

何程　協議費又ハ會社費

審査官人員　族籍姓名

審査物名　同　姓名

同

一般ノ景況云々

但列品中特異發見ノ礦物若クハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ製工品ハ從前其地方ニ無キ所ニシテ新タニ製出セシモノ就中輸入品ニ代用スヘキモノ機械ハ新發明若クハ洋式摸造ニテ便益ノ實驗アルモノ等ハ特ニ之ヲ標記シ其他一般物産工藝ノ進歩及ヒ通商運輸ノ得失ヨリ將來勸奬ノ目途等ニ至ルマテ都テ緊要ノ景況ヲ報告スヘシ

但運年開設スルモノハ前年ト比較ノ景況ヲ擧ケ且ヲ其損益及ヒ保續ノ目的等ヲ記載スヘシ

會主何郡區長又ハ何ノ誰

郡區役所　戸長役場

㊟明治二十年（四月）訓令甲第九十號

各地ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會（褒賞ヲ付與スルモノ）ヲ開設セムトルトキハ左ノ書式

ニ準シ閉會後十日以内ニ報告スヘシ

但從來本文ニ關スル達ハ自今廢止ス

明治何年（官民）設何會報告書

會場（區町郡村）名

會名　何博覽會何共進會ト記スヘシ（譬ヘハ水産博覽會繭絲共進會ト云フカ如シ）

會主　何郡區何町村或ハ何會社或ハ何某

開會場　何月何日

褒賞授與式　何月何日

閉會場　何月何日

出品區域　何郡區或ハ何町村聯合

出品人員　何人

出品員數　若干

出品總價　何圓何錢

出品種類　農産水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農産水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ

出品賣數　若干

出品賣價總額　何圓何錢

褒賞總人員　何人

褒賞等級別　一等何人二等何人三等何人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協賛賞何人

褒賞々與物件　杯或ハ牌或ハ何物品或ハ金員（譬ヘハ一等何物品或ハ金何圓二等何々）等成ルヘク詳細ニ記スヘシ

來觀人員　何人

通券價格　何錢（日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ）

通券枚額　何圓何錢

會費總額　何

會費區別　郡村費何圓通券料何圓或ハ醸金義捐金等ナルヘク詳細ニ記スヘシ

本會景況云々

譬ヘハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著ルシク改良進歩セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農産物水産物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ掲ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ

右報告候也

郡區長　戸長　名

○勸業諮問會

㊀明治十八年(四月)告第百六十七號

勸業諮問會規則左ノ通相定候條此旨告示候事

勸業諮問會規則

第一條　本會ハ勸業上左ノ各項ノ諮問ニ對シ答フルモノトス

第一項　海陸運送ノ利害(道路港灣ノ開鑿修築)ニ關スル事

第二項　溝渠用惡水疏通ニ關スル事

第三項　惡蟲及有害鳥獸驅除ノ事

第四項　動植物蕃殖及改良ノ事

第五項　山林栽培及保護ノ事

第六項　農商工事統計ノ事

第七項　前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第二條　本會ハ毎年九月ニ於テ之ヲ開キ其日數ハ十日以內トス

但臨時至急ヲ要スル事件アル時ハ會頭ノ意見ヲ以テ臨時ニ之ヲ開クコトアルヘシ

第三條　會頭ハ縣令之ヲ勸奬

但時宜ニヨリ書記官又ハ主務ノ課長ヲシテ代理セシムルコトアルヘシ

第四條　本會ノ員ハ其數ヲ十六名トシ縣令ニ於テ管內農商工事ニ名望アル者ヨリ之ヲ撰定ス

但縣會議員學務委員衞生委員ノ職務ニアル者ト雖モ農商工事ニ名望アル者ハ之ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

第五條　會員ノ任期ハ滿三ケ年トシ滿期再撰スルコトアルヘシ

第六條　本會說明委員及書記ハ主務ノ僚屬ヲ以テ之ニ任ス

第七條　農商務省官吏及農商工上等會員又ハ縣令ノ許可ヲ得タル主務ノ僚屬ハ會場ニ列シ意見ヲ陳ルコトアルヘシ

但會員ノ數ニ加ヘス

第八條　農商務卿及主務ノ官署ヨリ地方勸業上ノ事件ニ付本會ノ意見ヲ問フコトアル片ハ之ニ應スル者トス

第九條　本會ハ勸業上公益ノ事件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

第十條　本會ハ總テ談話ノ体ヲ用ヒ諸說ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ

第十一條　會員ハ俸給ナシト雖モ開會中滯在日當及往復旅費ヲ給ス

○農談會

㊁明治十三年(六月)丙第六十號

農業ヲ奬勵シ物產ノ蕃息改良ヲ謀ルハ方今ノ急務ニシテ各地其方向ヲ一ニシ協同ノ精神ヲ注キ施務ノ緩急本末ノ順序其宜キヲ得ルニ非サレハ好結果ヲ期シ難キ儀ニ付既ニ內務省勸農局

郡區役所

第十四類　勸業諮問會　農談會

ニ於テハ全國內勸農ノ區畫ヲ定メ追々同局ヨリ擔當委員各地派遣相成候趣キ然ルニ勸農ノ方法多端ナリト雖就中農産共進會農事會及ヒ農事通信等ハ各自競進ノ氣勢ヲ起サシムルノ最便方法ニシテ歐州諸國ニ於テモ其實益ノ著シキヲ以テ奬勵上欠ク可ラサルノ要具ト相成居候ニ付本邦ニ於テモ追々著手可相成見込ニ候得共先以農事會ハ地方限リ相起シ追々府縣農區ニ亘リ遂ニ全國ニ及ホシ度趣勸農局ヨリ照會有之抑農産ヲ興起シ其利害得失ヲ研究交換シテ各地互ニ進歩ヲ競ハシムルハ本縣ニ於テ素ヨリ希望スル所ニ付各郡區ニ於テ追々農事會ヲ起シ次テ全管內ヨリ農區ニ及ホシ候見込ニ付各郡ニ於テモ右ノ心得ヲ以會員等撰擧ノ見込相立可伺出依テ全國勸農區畫及ヒ農事會旨意書相添此旨相達候事

但右農事會經費ノ儀郡區會ハ郡村ノ協議費ヲ以支辨スルモノトス管內集會費途ノ儀ハ追テ相達スヘシ

勸農區畫

陸奥農區	青森縣	岩手縣	
出羽農區	秋田縣	山形縣	
岩代農區	宮城縣	福島縣	
關東農區	東京府	千葉縣	埼玉縣
	群馬縣	栃木縣	茨城縣
信越農區	新潟縣	長野縣	
東海農區	神奈川縣	山梨縣	靜岡縣
	愛知縣	三重縣	
北陸農區	石川縣	岐阜縣	滋賀縣
京攝農區	京都府	大坂府	兵庫縣
	堺縣	和歌山縣	
中國農區	岡山縣	廣島縣	島根縣
	山口縣		
四國農區	愛媛縣	高知縣	德島縣
九州農區	長崎縣	福岡縣	大分縣
	熊本縣	鹿兒島縣	
西海農區	西海諸島（鹿兒島縣下ノ諸島ヲ云フ）		

農事會

農事會ハ農事熟練ナルモノ相會シテ耕耘栽培ヨリ撰種農具肥料ノ得失各種農産ノ製造方法等ニ至ルマテ各自ノ習慣及ヒ意見ヲ交換會談スルモノトス而シテ此會ニ二種ノ別アリ左ノ如シ

第一種

種苗交換撰種肥培農具改良等ノ如キ農事一般ニ必要ナル條件ハ地形區畫ニヨリ一村ヨリ一郡一府縣一農區ニ及ホスモノニシテ其會員ハ民撰或ハ官撰ニ属スルモ地方ノ適宜ニ依リ其經費モ亦郡村ノ協議費或ハ勸業費ヨリ支出スルモ適宜トス

第二種

一物産ニ従事スル営業人等相會シテ其物産ニ就キ利害得失ヲ會談スルモノハ郡區府縣ノ地形區畫ニ拘ハラス其物産ノ區域ニ従テ區分シ開會ス其會員撰擧及ヒ經費ハ營業人ノ適宜トス

㊟明治十四年(一月)乙第五號

郡區役所　戸長役場

客年丙第六拾號ヲ以テ農談會開設可致ニ付會員撰擧等ノ見込開伸可致旨相達置候處右ハ創設ノ際ニシテ其方法等實際ニ徴シカタキ向モ可有之ト被考候ニ付別紙概則ヲ編成差示候條右ニ照準尚各地ノ民情ニ就キ篤ト調査ヲ遂速ニ開設ノ順序ニ着手可致此旨相達候事

農談會概則

第一條　農談會ハ農事熟練ナル者ノ相會シ耕耘栽培ヨリ撰種農具肥料ノ得失各種農産ノ製造方法等ニ至ル迄各自ノ習慣及ヒ其意見ヲ交換會談スルモノトス

第二條　農談會ヲ別テ二類トナシ町村ニ開クヲ町村農談會トシ其町村會ヲ合セ一郡區ニ開タヲ郡區農談會トス

第三條　町村農談會ハ其地形及農産ノ景況ニ應シ一村又ハ數町村ヲ合セテ之ヲ開設スルモノトス其會期會則ハ其會ノ評決ヲ以テ郡區長ヘ報告スヘシ

第四條　郡區農談會ハ毎年春秋ノ兩度トシ其會員ハ該郡區内町村農談會員中ヨリ撰擧スヘシ其會期會則ハ其會ノ評決ヲ以郡區長ヲ經由縣令ノ認可ヲ請フヘシ

但蟲害其他ニ付臨時會談ヲ要スル場合ニ於テハ其事由ヲ郡區長ニ具狀シ認可ヲ得テ施行スヘシ

第五條　町村農談會ニ於テ評決セシ事ヲ實施スル時ハ其方案ヲ具シ郡區長ニ報告シ郡區長ハ之ヲ縣令ニ報告スヘシ

第六條　郡區農談會ノ議事ハ渾テ郡區長ヲ經テ縣令ニ報告スヘシ

第七條　農談會員ノ旅費其他會事ニ關スル費用ハ總テ其町村會ノ議決ヲ經テ施行スヘシ

○第十五類

○訴訟

㊟明治十四年(六月)乙第四十七号

詞訟審判上必要ニ付郡區役所及戸長役場ノ帳簿寫取方各裁判所ヨリ及照會候節ハ右寫本ニ正寫ノ証トシ該役所ノ印ヲ捺シ同所ヘ差廻候樣可取計此旨相達候事

但寫本多數ニテ費用相掛候節ハ其照會ヲ發シタル裁判所ヨリ仕拂候義ト相心得且詞訟事件ニ依リ元帳ヲ要スル時ハ是亦差廻候樣可取計候事

㊟明治十五年(四月)乙第廿八号

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及赤貧者被告トナリ喚問旅費ノ義從前郡區役所又ハ戸長役場ニ於テ繰替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成旨其筋ヨリ達有之候條此旨相

○身代限　附抵當物公賣處分、財産差押

●明治十六年(四月)乙第三十八號　　郡區役所　戸長役場

人民相互ノ訴訟ニヨリ抵當物公賣處分ノ義ハ郡區長職制外ノ事ニ候得共身代限公賣ノ外他ニ公賣法ノ設ケ無之ヨリ郡區長又ハ戸長ニ於テ取扱ハシメサルニ於テハ民事裁判執行上差支候旨其筋ヨリ達ノ次第モ有之候條自今右事件ニ付裁判所ヨリ照會有之節ハ不都合無之樣可取計此旨相達候事

●明治廿年(六月)訓令甲第十三號　　郡區役所　戸長役場

身代限財産取扱ノ儀ハ自今戸長ノ職務ニ屬セラレ候ニ付明治十六年本縣乙第三十八號人民相互ノ訴訟ヨリ起リ抵當物公賣取扱ハ勿論右等ニ關スル財産差押ノ義モ從テ戸長ニ於テ可取扱筈ニ付裁判所ヨリ照會有之候節ハ不都合無之樣取計フヘシ

●明治廿年(六月)訓令甲第十九號　　郡區役所　戸長役場

民事裁判執行ニ關スル財産取扱手續左ノ通相定ム

一人民ニ於テ裁判所ヨリ下附スル裁判執行命令書ヲ携帶シ之ニ依テ被執行人ノ財産差押ヲ爲サンカ爲メ區役所戸長役場ニ至リ財産取調ノ立會ヲ請フトキハ區長戸長若クハ其代理人ニ於テハ願人ヲ引連レ被願人ノ宅ニ臨ミ立會取調ヲ爲シ之レカ調書ヲ作ラシメ其財産中不動産アルトキハ右不動産ハ被願人ノ所有物タル旨調書ノ末ニ證明書ヲ附シ願人ニ渡スヘシ

但調書ハ區長戸長若クハ其代理人立會ニテ願人ヲシテ作ラシムヘシト雖モ其場合ト願人ノ人柄トニ依リテハ區長戸長若クハ其代理人ニ於テ便宜調製スルヲ得ヘシ

一被願人ニ於テ若シ財産取調ノ立會ヲ拒ムトキハ其親族ヲ立會シメ其親族モ亦之ヲ拒ムカ若クハ親族ナキトキハ願人ト區長戸長若クハ其代理人ノミ立會取調ヲ了スヘシ

一被願人若シ家内ニ立入ルヲ許サス或ハ取調中妨害ヲ爲シ或ハ暴行ヲ爲ストキハ區長戸長若クハ其代理人ハ願人ノ携帶スル執行命令書ニ附箋シ被願人拒テ宅内ニ立入シメス又ハ被願人暴行スト記載シ署名認印シテ願人ニ附與スヘシ願人ハ之ヲ携帶シ直ニ警察署若クハ分署ニ出願スルトキハ警察署若クハ分署ニ於テハ速ニ命令書ノ通執行ヲ爲サシムヘシ

但此場合ニ於テ其調書ハ願人ヲシテ作ラシムヘシト雖モ場合ト願人ノ人柄ニ依テハ警察官吏之ヲ調成シ願人ニ下附スヘシ

一願人ハ其財産中ニ不動産アルトキハ區役所戸長役場ニ至リ所有權ノ証明ヲ請フヘシ區役所戸長役場ニ於テハ之ヲ取調相違ナキニ於テハ調書ノ末ニ証明ヲ與フヘシ

一人民ヨリ假差押ヲ爲スカ爲メ不動産取調ヲ要スルトキハ其理由ヲ申出區役所戸長役場ニ至リ土地臺帳等ノ閲覽ヲ請フトキハ之ヲ許スヘシ願人自カラ寫取リ之ニ証明ヲ乞フトキハ取調ノ上其末ニ証明ヲ與フヘシ

一裁判所ヨリ發スル財産差押命令書假差押命令書ヲ携帶シ人民ヨリ差押財産ノ取締ヲ區役所戸長役場ニ要求スルトキハ區長戸長若クハ其代理人ニ於テ相當ノ取締ヲ爲スヘシ若シ被願人ニ於テ不法ノ所爲ヲ以テ其取締ヲ支拒スルトキハ區長戸長ハ其命令書ニ事由ヲ附箋シ之ヲ願

人ニ渡スヘキ願人之ヲ携帯シ警察署若クハ分署ニ至リ取締ヲ乞フ其ハ警察署若クハ分署ニ於テ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

㊟明治廿一年(三月)訓令甲第廿一号

客年(六月)訓令甲第十三號ニ據リ裁判所ノ照會ニ應シ財産取調等ヲ爲シタル外ハ其旨直ニ郡長ニ申報スヘシ

㊟明治十七年(十一月)甲第百五十號

民事訴訟身代限リ又ハ稅金不納ニヨリ財産ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及ヒ印紙額面十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ買上請求ヲ爲スコトヲ得但買上請求ハ所轄郡區役所ヘ申出ヘシ(十九年縣令甲第八号ヲ以テ改正)

郡區役所

㊟明治十八年四月九日無号

驛遞局及郵便局ニ於テ人民所持ニ係ル郵便切手買戻之義ハ郵便條例第三十七條ニ可準據義ニ候處民事裁判上身代限ノ處分ヲ受候者該財産公賣之節ニ限リ特別買上之義別紙之通驛遞總官ヨリ通知越候條爲心得此旨相達候事

○質地

㊟明治二十年(六月)縣令甲第九十三號

明治六年第十八號布告第六條但書質地届ハ自今戸長役場ヘ差出スヘシ

○登記

㊟明治廿年一月(告示)第一號

客年司法省令甲第四號別表ヲ以テ登記所位置管轄區域被相定候處登記所ヘ該表中登記所ノ欄内ニ掲載有之地名ヲ冠シ何登記所ト稱スル義ニ有之旨其筋ヨリ通知アリタリ

㊟明治二十年(五月)縣令甲第七十八號

地所建物船舶ノ所有者ニシテ法律第一號登記法ニ依リ登記ヲ請フニ當リ同法第四十條ニ依リ戸長ノ證明願及奥書式左之通相定ム

地所(建物)(船舶)證明願

何國何郡何町村字何何番地

一田何反歩

同町村字何何番地

一畑何反歩

(建物ハ坪數及造作ノ有無船舶ハ鑑札番号船名間數噸數馬力又ハ積石帆數等其他附屬器械ノ有無ヲ詳記スヘシ)

右地所(建物)(船舶)私所有ノ處今般何郡何町村何之誰ヘ賣(讓)渡(質書入)致度尤該地所ニ關シ他ニ故障無之候間御證明被下度此段相願候也

何郡何町村何番地

何之誰印

年　月　日

戸長何之誰殿

前書ノ地所(建物)(船舶)當役場備置ノ公簿ニ就テ取調候處何某所有ニ相違無之且該物件ニ關シ故障無之(故障アルモノハ其事實ヲ詳記スヘシ)候也

何郡何町村外何ヶ町村
戸長　何　之　誰　印

年　月　日

●明治二十年(三月)縣令甲第三十號

裁判所ノ命令書ヲ得テ不動産ノ差押若クハ假差押ノ記入ヲ登記所ニ請ハンカ爲メ區長戸長ノ証明ヲ願出ル時ハ明治二十年(五月)縣令甲第七十八號証明願書式中反別ノ傍ヘ地價ヲ記載スヘシ

○犯則ニ由リ官沒シタル物件公賣費

●明治十八年(九月)乙第百四號

郡區役所　戸長役場

犯則ニ由リ官沒シタル物件ヲ裁判所ノ囑托ニ依リ戸長ニ於テ公賣取扱タル節右公賣ニ關スル費(物件看守ノ手當並藏敷料筆墨紙薪木炭油雜費)ハ其裁判所ノ費用ニ相立ヘキモノニ付戸長役場費ヨリ支辨セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○違警罪

●明治二十年(十一月)縣令甲第百五十六號

明治十五年(二月)甲第三十一號布達當縣違警罪左ノ通改正ス

新潟縣違警罪

第一條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一　新潟夷兩港外ニ於テ私ニ外國人ニ地所家屋ヲ貸與シ若クハ雜居セシメル者

二　遊歩規程外ニ於テ私ニ旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ止宿セシメタル者

三　富類似ノ所業ヲ爲シタル者

四　强テ合力ヲ申掛ケ又ハ物品ヲ押賣スル者

第二條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一　漁獵場採藻場又ハ海藻魚類等ノ干場ニ妨害ヲ爲シタル者

二　無届ニシテ地方税ヲ課スヘキ各業ヲ爲シ又ハ該業停止中窃ニ其業ヲ爲シタル者

三　營業税雜種税徴収ノ基礎ト爲スヘキ商金高及ヒ収益金高詐僞ノ届出ヲ爲シ又ハ期限内届出ヲ爲サヽル者

四　堤頭堤腹ヘ菜蔬ノ類ヲ植付又ハ物品ヲ堆積シ若クハ私ニハサ木等ヲ取設ケタル者

五　測點杭目標等ニ船筏獸畜ヲ繫留シタル者

六　制止ヲ肯セスシテ夜間十二時後歌舞音曲其他鳴物ヲ用ヒタル者但特ニ時間ノ制限アル場所ハ此限リニアラス

七　諸川筋改修工事施工ノ箇所ニ植付タル草木ヲ採折シ或ハ堤外地ヲ堀取又ハ猥リニ往來

ヲ爲シタル者

八　諸川筋改修工事落成ノ箇所ニ舟筏ヲ繋留シ櫂棹等ヲ突立又ハ其上裝面ニ於テ漁業洗濯干物等ヲ爲シタル者

九　市街ノ河溝ニ塵芥又ハ汚穢物ヲ投棄シタル者

第三條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一　口付ナキ小荷駄馬ニ乘リ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二　水路ニ於テ濫リニ杭ヲ打チ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

三　市街ニ於テ裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露ハシタル者

四　各所ニ掲示セル禁條ヲ犯シタル者

五　正當ノ事故ナクシテ官署ノ召喚ニ應セサル者

六　住所身分氏名年齡職業ヲ詐稱シテ客店ニ止宿シタル者

○賭博犯

㊟明治十七年(四月)甲第四十四號

賭博犯處分細則左ノ通相定候條此旨布達候事

賭博犯處分細則

第一條　賭博犯ハ警察署ニ於テ處斷ス

但便宜警察本署ニ於テ處斷スルコトアルヘシ

第二條　懲罰ハ監獄署ニ送致シ服役セシムル處ノ日數ニ從フ

但在監中ハ總テ監獄則ニ比準スル事

第三條　過料ハ處斷ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ懲罰ニ換フ其壹圓ニ滿サルト雖モ一日ニ計算ス

過料ヲ懲罰ニ換ル者ハ別ニ裁判ヲ用ヒス

若シ懲罰限内過料ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ其懲罰ヲ免ス親族其他ノ者代テ納メタル時モ亦同シ

第四條　懲罰人悔悟改悛ノ狀アリト認ムル時ハ其犯由及ヒ悛改ノ情狀等ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ減免スルコトアルヘシ

㊟明治十七年(三月)乙第四十六號

本年第一號公布ニ依リ處分相成候賭博犯懲罰人ノ儀ハ公權ヲ停止スル限リニ非スト雖モ懲罰限内勳章ヲ佩用シ及後見人管財人若クハ共有財産ノ管理人ト爲ルコトヲ得セシメサル旨其筋ヨリ達相成候條此旨相達候事

郡區役所　戸長役場

○犯罪用物件處分

㊟明治十五年(六月)乙第五十五號

犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因リ得タル物件ハ本案裁判ト供ニ沒收ノ言渡スヘシト雖モ該物件ノ其裁判所所在ノ地及犯罪ノ地ニ於テ一年間ハ公告シテ

シタル日ヨリ起算ス）ニ所有主ヲ發見シタル片ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘキ旨其筋ヨリ達有之候條右公告方ニ付檢察官ヨリ傳達有之候節ハ不都合無之樣可取計此旨相達候事

○監獄

●明治十五年（一月）甲第十四号

放恣不良之子弟懲戒之爲メ懲治場入出願手續左之通相定候條自今出願ノ者ハ右手續ニ準據シ可願出此旨布達候事

懲治場入出願手續

第一條　放恣不良ノ者ヲ矯正歸善セシメン爲メ其尊屬親ニ於テ懲治場入ヲ願出ル片ハ其事由ヲ詳記シ願出ツ可シ

第二條　前條願書ハ最近ノ親屬二名連署シ必ス戸長ノ証票ヲ具ス可シ若シ戸長ノ証票ナキ片ハ入場ヲ許サス

第三條　入場ヲ許ス者ハ年齡滿八歲以上二十歲以下ヲ限リトス

第四條　懲治ノ期限ハ六ケ月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

第五條　懲治ノ者入場中願人ニ於テ其行狀ヲ試ル爲メ宅舍ニ帶往セント請フ片ハ其情狀ニ由リ之ヲ許ス

第六條　入場中ノ費用ハ願人ヨリ監獄署ヘ差出スヘシ若シ極貧ニシテ該費用ヲ差出スヿ能ハ[illegible]者ハ豫メ入場願書ニ其事由ヲ詳記シ戸長ノ証明ヲ具シ差出ス可シ

第七條　入場中費用ハ一ケ月毎ニ計算シ之ヲ願人ヘ報告スヘキニ付前月分ハ翌月十日限リ監獄署ヘ相納ムヘシ

第八條　出場ヲ願フ片ハ其願人及最初連署ノ親屬連署シ戸長ヲ經テ願出ツ可シ

●明治十六年（十二月）乙第百二號

郡區役所　戸長役場

樺戸集治監看守押丁奉職ノ者父母ノ看護又ハ休暇等ニテ歸省中本人疾病ニ罹リ歸省延期願出候節ハ其地戸長ノ奥印ヲ受ケ且父母疾病等ニテ親戚ヨリ至急本人ノ歸省ヲ願出ル場合モ尚其地戸長ヨリ直ニ電報ヲ以テ通信スルニ非サレハ聽許セサル旨該監ヨリ通知越候條右等出願ノ節ハ戸長ニ於テ事實取調奥印又ハ通信等可取計此旨相達候事

戸長役場

●明治十七年（五月）戌第一號

押丁志願之輩身分ニ關スル証書ニ奥印ヲ申出ルモノ有之片ハ事實調査ノ上左ノ書式ニ據リ該証書ニ奥書印ヲ與フヘシ此旨相達候事

身分証書式

何（府縣）何（郡區）何（町村）何番地族籍

或ハ寄留府縣ヲモ記ス

戸主又何某伯叔父子弟

何　某

何年何月

生年月日地所	年號干支何年何月何日何地ニ生ル
兵役	有無アル片ハ徴兵適齢又ハ豫備後備等ノ兵籍ヲ記ス
罰科	仝アル片ハ其罰名ヲ記スヘシ
職業	仝アル片ハ其職名ヲ記スヘシ
身代限	仝アル片ハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヲ記スヘシ

年月日　　右

右之通相違無之候也　　何　某　印

何郡何町(村)戸長　何　某　印

●明治十八年(五月)乙第四十四號　　郡區役所　戸長役場

警視廳巡査志願ノ者身分ニ關スル証書ヘ奥書印ノ義ニ付明治十七年本縣乙第五十五號ヲ以テ相達置候處同廳看守志願ノ者モ右同樣可取扱此旨相達候事

●明治十九年(十一月)訓令甲第三十八號　　郡區役所　戸長役場

本縣看守ヲ志願スル者ハ本年十月訓令甲第三十一号巡査志願者試驗格例ニ依ラシムヘシ

但仝例第五條一項中警察法規ハ監獄法規ト心得ヘシ

○第十六類

○學制

○尋常師範學校

●明治十九年(四月)乙第五十一號　　郡區役所　戸長役場

師範學校ノ卒業者ニシテ教職ニ從事スル者ハ自今六ヶ月毎ニ其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告セシムヘシ

但既廢ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在リシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告セシムヘシ

右相達候事

●明治十九年(十二月)訓令甲第七十九號　　郡區役所　尋常師範學校

尋常師範學校生徒薦擧規則別紙之通相定ム

尋常師範學校生徒薦擧規則

第一條　師範學校ニ於テ郡區長薦擧ノ生徒ヲ募集スル片ハ各郡區薦擧生ノ員數ヲ定メテ豫メ郡區長ニ告示スルモノトス

第二條　郡區長ハ前條ノ告示ニ據リ其郡區内小學校ノ教員タラント欲スル者ヲ撿定シ適當ト認ムルモノニハ募集規則第六條ノ薦擧書ヲ交附スヘシ

但シ薦擧生ハ可成其郡區内在籍ノモノタルヘシ

第三條　前條檢定ニ要スル方法ハ其都度師範學校ヨリ通知スルモノトス

第四條　郡區長薦擧生ヲ撰擧スルトキハ親族若クハ其他ノ者ヲ保証人トシ左ノ書式ニ依リ保証狀ヲ差出サシムヘシ

保証狀

新潟縣何國何郡何町村何番地居住誰方同居
何府縣華士族平民
戸主誰長男女弟姓等
入學志願者

右某（志願者名ヲ）儀小學校教員志願ニ付御校ヘ入學ノ御許可相成得度尤入學御許可ノ上ハ某ノ身上ニ關スル事件ハ抱者ニ於テ一切引受可申候事

新潟縣何國何郡何町村何番地居住戸主
新潟縣士族若クハ平民
保証人

年　月　日

姓名印

新潟縣尋常師範學校長某殿

前書保証人ノ保証ニ責任ヲ負ヒ候得ハ者ニ認メ

新潟縣何國何郡區長

姓名　印

一線貼用

年　月　日

㊟明治三十年（八月）縣令甲第百十六號

從前師範學科卒業証書若クハ該從前教員免許狀ヲ有スル者ニシテ該卒業証書若クハ該免許狀有効滿期スルモ猶教員タラント欲スル者ハ勤務ノ經歴ヲ調査シ適任ト認ムル者ニ限リ試驗ヲ須サス更ニ四年間有効延期ノ証書授與可致候條志願ノ者ハ履歴書ヲ添ヘ郡區長ヲ經由シ願書差出スヘシ

但郡區長ハ本人勤務ノ經歴品行等ヲ詳細取調副申スヘシ

㊟明治廿一年（十月）訓令乙第八十五號

其筋ヨリ丙訓ノ旨アリ自今郡區長撰擧ニ係ル尋常師範學校生徒ハ郡區長ニ於テ豫メ篤ト其人物學力ヲ檢定シテ撰擧セシメ師範學校ニ於テハ入學試驗ヲ用ヒス直ニ十九年文部省令第十號第五條ニ據リ假入學ヲ許シ試驗生中ニ其人物學力ヲ檢定シテ本入學ヲ許否スヘシ

○小學校

㊟明治十六年（三月）丙第十二號

町村立中小學校等各等科卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ其校名入員各等科名試驗科目日割地名等於十五日以上ニ郡區役所ヲ經由シ縣廳ヘ開申スヘシ此旨相達候事

郡區役所　學務委員

◎明治十七年(四月)丙第廿八號

町村立中小學校沿革ノ儀ハ勿論記錄ニ留カサルヘカラサル等ニ候處或ハ其儀ナク漸次年所ヲ經過スルニ隨ヒ其事實ヲ審カニスル能ハサル等ノ儀有之候テハ不都合ニ候條此際別記取調項目ニ準據シ詳細取調毎校必ス備置キ年々增補致スヘク且ヲ私立學校ノ儀モ凡ソ右ニ準シ取調置候樣致スヘシ此旨相達候事

町村立中小學校沿革

取調項目

一學校名稱

一本分何校トシ且ツ設立以來變更アラハ之ヲ詳記スヘシ

一所在地

何郡區何町村何番地トシ且ツ設立以來移轉等ノ事アラハ移轉年月及其理由等ヲ詳記スヘシ

一設立年月

一假開學本開學及ヒ分離開學等認可ノ年月日ヲ詳記スヘシ

一教員及俸給

設立以來教員並授業生等ノ族籍氏名俸給及任免年月等ノ事實ヲ詳記スヘシ

一職員及俸給

前ニ設立以來學區取締世話掛學務委員事務掛等ノ族籍氏名俸給及任免年月等ノ事實ヲ詳記ス

一生徒ノ員數

設立以來每一週年生徒ノ總數及卒業生徒ノ員數ヲ詳記スヘシ

但本文生徒ハ男女ヲ分チ且ツ卒業生徒ハ上下等及ヒ初中高等小學科等ヲ區別スヘシ

一經費收入

設立以來每一週年收入金額等(資本金利子寄附金協議集金授業料等ノ區別ヲ要ス)ヲ詳記スヘシ

一經費支出

設立以來每一週年支出金額等(教員給料職員並諸雇給料教職員旅費書籍器械費校舍營繕費薪炭油筆紙墨費雜費等ノ區別ヲ要ス)ヲ詳記スヘシ

一資本金蓄積

何年ニハ有志寄附金(一時及月賦年賦或ハ約定寄付等ノ區別ヲ要ス)何程ヲ募リ或ハ何年ニハ賦課法(地價(石)戶數割等ノ區別ヲ要ス)等ヲ以テ何程ヲ募ル等ノ事實ヲ詳記スヘシ

一校舍ノ敷地

買入レ借地或ハ寄附又ハ官有地下渡等ノ年月並坪數及其理由等ヲ詳記スヘシ

但買入レノ分ハ其支辨金額及金種(寄附金或ハ協議集金等ノ類)ヲ記スヘシ

一校舍及圖面

築造增築認可及ヒ落成ノ年月並該費額及ヒ金種等ヲ記シ或(借館ナレハ借入約定ノ旨趣

ヲ摘書シ且ツ圖面ニハ建坪ノ數ヲ記スヘシ

一學區組合町村

設立以來變更ノ都度其變更ノ年月理由及學區町村名等ヲ詳記スヘシ

一記事要略

學校設立ノ原因及學校設立等ニ付盡力セシ人物ノ氏名行事又ハ學校ニ勤務シ功績顯著ナル教員等ノ氏名行事ヲ詳記スヘシ

右ノ外學校ニ關シ將來參考トナルヘキコトアラハ之ヲ詳記スヘシ

明治十九年(十一月)縣令甲第五十八號

小學校規程別冊之通制定ス

小學校規程

第一章　小學科實施方

第一條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一級トス

第二條　一ヶ年內休業ハ日曜日大祭日祝日ノ外左ノ如シ

年末年始　(十二月廿八日ヨリ翌年一月七日マテ)

村社祭日

夏季　二週日間

冬季　二週日間

產業期　二週日間

但村社祭日夏冬季產業期休業ハ豫メ郡區役所ヘ屆置ヘシ

第三條　前條產業期休業ヲ減シ若クハ全ク之ヲ除キ夏季冬季休業ヲ增シ或ハ夏季冬季休業ヲ減シ若クハ全ク之ヲ除キ產業期休業ヲ增スコトヲ得ルト雖ヒ通シテ六週日ニ超ユルヲ得ス

第四條　尋常小學科ノ授業時間ハ土曜日ハ三時間其他ハ五時間一週二十八時間トス

第五條　尋常小學科ニ圖畫及唱歌ノ一科若クハ二科ヲ加フル片ハ圖畫ハ習字ノ時間ヨリ一時間唱歌ハ体操ノ時間ヨリ一時三十分間ヲ採リ之ニ充ツ女兒ニ裁縫ヲ加フル片ハ前條授業時間ノ外一週三時間ヲ增加スヘシ

但裁縫ハ土地ノ情況ニヨリ第一年若クハ第二年ヨリ課シ若クハ本文三時間ノ外尙ホ三時間以內ヲ增加スルヲ得(廿年縣令甲百七十九號ヲ以テ改正)

第六條　高等小學科男兒ノ授業時間ハ每日五時間一週三十時間女兒ハ土曜日ハ五時間其他ハ六時間一週三十五時間トス(仝上)

第七條　高等小學科ニ英語農業手工及商業ノ一科若クハ二科ヲ加フル片ハ英語ハ前條授業時間ノ外一週五時間ヲ增加シ農業手工商業ハ地理歷史圖畫ノ時間ヨリ各一時間ヲ採リ之ニ充ツヘシ又唱歌ヲ缺ク片ハ其時間ヲ以テ男兒ハ体操ニ女兒ハ縫裁ニ充ツヘシ

但女兒ニハ當分英語ヲ課セサルモノトス

第八條　前條各學科ノ程度ハ左ノ如シ

英語　綴字習字讀方譯解書取文法會話及作文

農業　禾穀蔬菜桑茶等ノ耕作ニ關スル事柄地味氣候農具肥料疏水注水家畜養蠶水產及地主

小作人市場運搬貯蓄等農家ニ必須ノ事柄及農家經濟ノ大意

手工　木工具金工具ノ種類用法及工家經濟ノ大意

商業　小賣卸賣仲買問屋會社株式公債等ノ事柄商業ニ必要ナル現行ノ法規及商家經濟ノ大意

第九條　普通小學科高等小學科ノ課程級別ヲ定ムルコト別表ノ如シ

第十條　普通小學科高等小學科ノ教科用書ヲ假定スルコト別表ノ如シ

第十一條　第五條第七條ノ場合ニ於テハ其旨縣知事ニ開申シ溫習科ヲ設ケントスル片ハ其事由ヲ具シ縣知事ノ認可ヲ請フヘシ（廿年縣令甲百七十九號ヲ以テ改正）

第二章　簡易科學科程度及其實施方

第一條　小學簡易科ノ修業年限ハ三ケ年トス

第二條　小學簡易科ノ學科ハ讀書作文習字算術トス

第三條　小學簡易科ノ學年並ニ級ハ小學科ニ同シキモノトス

第四條　小學簡易科ハ兒童ノ數六十人以下ノ場合ニ於テハ學級ヲ分ツコトヲ得

第五條　一ケ年內休業ハ日曜日大祭日祝日ノ外左ノ如シ

年末年始　（十二月廿八日ヨリ翌年一月七日マテ）

村社祭日

產業期　四週間以內

但村社祭日產業期休業ハ豫メ郡區役所ヘ屆置ヘシ

第六條　小學簡易科ノ授業時間ハ每日三時間一週十八時間トス

第七條　前條授業時間ハ午後若クハ夜間ニ於テ設クルモ妨ナシ此場合ニ於テハ其旨知事ニ開申スヘシ

第八條　小學簡易科ノ課程級別ヲ定ムルコト別表ノ如シ

但土地ノ情況ニ因リ級別セサルモ妨ナシ此場合ニ於テハ其旨知事ニ開申スヘシ

第九條　小學簡易科ノ教科用書ヲ假定スルコト別表ノ如シ

第三章　入學及退學

第一條　兒童入學ノ期月ハ每年四月トス

但時宜ニ依リ臨時ニ學ヲ許ス事ヲ得

第二條　兒童ヲ入學セシメントスル片ハ父母後見人等ハ兒童ノ姓名住所並ニ自己ノ住所ヲ記載シ學校ニ申出ヘシ

第三條　生徒欠席六ケ月以上ニ及フ片ハ之ヲ退學トナスヘシ

第四條　兒童ヲ退學セシムル片ハ父母後見人等ハ其事故ヲ具シ學校ニ申出ヘシ

第五條　兒童ノ入學及退學アル片ハ其都度學校長若クハ首座訓導ヨリ其族籍氏名及生年月ヲ記載シ兒童現住地ノ區戶長ニ通知スヘシ

但退學ハ其事由モ記載スヘシ

第四章　試業

第一條　試業ハ之ヲ別テ月末試業期末試業大試業臨時試業入學試業ノ五種トス

第二條　月末試業ハ期末試業及大試業ヲ行ハサル月末ニ於テ之ヲ行ヒ期末試業ハ一學年ヲ三期ニ分チ其第一期第二期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ大試業ハ其學年ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三條　臨時試業ハ年長ニシテ學力拔群ナル者アルトキ之ヲ行フ者トス

第四條　入學試業ハ私立學校等ヨリ轉學セントスル者アルトキ之ヲ行フモノトス

第五條　試業ハ總テ其期月內ノ課業ヲ試ムヘシト雖モ時宜ニ依リテハ前期月ノ課業ニ及ホスコトヲ得

但臨時試業ハ昇進セシムヘキ級ニ要スル諸學科ヲ試ルモノトス

第六條　修身算術地理歷史理科及農業手工商業ハ題ヲ與ヘテ之ヲ筆答或ハ口答セシムルモノトス

第七條　讀書ハ讀本中ノ行文字句ヲ摘書シ若クハ書ニ就キテ之ヲ讀ミ且講セシムルモノトス

但尋常小學科第二年以上ノ級ニ於テハ其傍訓意義ヲ筆記セシムルモ妨ナシ

第八條　作文ハ既ニ識得セル物事ニ就キ題ヲ與ヘテ之ヲ作ラシムルモノトス

但其題ハ未タ課セサルモノタルヘシ

第九條　習字ハ文字ヲ示シテ之ヲ書セシムルモノトス

第十條　圖畫ハ實物若クハ圖ヲ示シ或ハ題ヲ與ヘテ之ヲ畫カシムル者トス

但月末試業ニ於テハ作文習字圖畫ハ平常評點ノ平均ヲ以テ平素點トナシ特ニ之ヲ試ルヲ要セス

第十一條　唱歌体操及裁縫ハ實地ニ就キ優劣ヲ判定スルモノトス

但裁縫ハ題ヲ併課シ之ヲ筆答或ハ口答セシムルコトヲ得

第十二條　英語

綴字ハ讀本中ノ言語ヲ誦示シテ其綴字ヲ口答或ハ筆答セシムル者トス

習字ハ英文字ヲ示シテ之ヲ書セシムルモノトス

讀方ハ讀本中ノ章句ヲ朗讀セシメ譯解ハ之ヲ邦語ニテ讀ミ且講セシムルモノトス

書取ハ讀本中ノ章句ヲ誦示シテ之ヲ筆記セシムル者トス

文法ハ章句ヲ示シテ其法則用格及其章句ノ正否等ヲ筆答セシムルモノトス

會話ハ邦語又ハ英語ニテ題ヲ與ヘ之ヲ英語ニテ口答セシムルモノトス

作文ハ未タ課セサル題ヲ與ヘテ之ヲ英文ニ作ラシムル者トス

第十三條　試業ノ優劣ハ點數ヲ以テ之ヲ評定スルモノトス即チ各學科ノ定點ヲ一百トシ答旨ノ正否技藝ノ巧拙ニ從テ相當ノ點數ヲ附シ之ヲ該學科ノ評點トス

第十四條　月末試業調查ノ法ハ各學科ノ評點ヲ合計シ之ヲ學科ノ數ニテ除シ其得タル數ヲ月末試業ノ成績トス

第十五條　期末試業調查ノ法ハ每學科ノ期末試業評點ニ每學科ノ月末試業評點及平素點ヲ各別ニ加ヘ之ヲ其度數ニテ除シ得タル數ヲ云フ）ヲ加ヘテ二分シ每學科ノ期末試業約點トシ更ニ之ヲ合計シ學科ノ數ニテ除シ其得タル數ヲ期末試業ノ成績トス

第十六條　大試業調査ノ法ハ每學科ノ大試業評點ニ每學科ノ期末試業約點及第三期每學科ノ月末試業約點ヲ各別ニ加ヘ之ヲ三分シ得タル數ヲ云フ）ヲ加ヘテ二分シ每學科ノ大試業約點トシ更ニ之ヲ合計シ學科ノ數ニテ除シ其得タル數ヲ大試業ノ成績トス

第十七條　臨時試業及入學試業調査ノ方ハ月末試業ニ同シキモノトス

第十八條　大試業ニ於テ其成績五十點以上ナルモノハ之ヲ合格トシ五十點ニ滿タサルモノハ不合格トス

但成績五十點以上ナルモ一學科ノ約點二十五點ニ滿タサル片ハ尙之ヲ不合格トス

第十九條　臨時試業及入學試業ニ於テ合格不合格ヲ判スルノ法ハ前條ニ同シキモノトス

第二十條　各試業優劣表（第一號表）ノ點數ハ更ニ之ヲ得點簿（第二號表）ニ記入スルモノトス

第廿一條　月末試業及期末試業ニ欠席セシモノハ更ニ試業ヲ行フニ及ハスト雖大試業ニ欠席セシ者ハ期末試業通約點ノ平均數五十點以上ニノ試業ノ月ヨリ一ケ月以內ニ出席スル片ハ更ニ試業ヲ行フヘキモノトス

第廿二條　大試業合格ノモノニハ左式ノ卒業證書ヲ授與スルモノトス

何　號

校印

何府縣華士族平民

氏　名

何年何月生

尋常小學
小學簡易
高等小學　科第何級卒業候事

年　月　日

高等科
新潟縣何郡區尋常科何小學校長（首坐訓導）氏名印

簡易科

第廿三條　最末大試業ノ完了ヲ各學科ノ卒業トシ左式ノ卒業證書ヲ授與スルモノトス

何　號

校印

何府縣華士族平民

氏　名

何年何月生

尋常小學
小學簡易　科卒業候事
高等小學

年　月　日

新潟縣何郡區何尋常
高等小學校長（首坐訓導）氏名印

第廿四條　級別セサル學校ニ於テハ適宜學力試驗ヲナシ第二年ノ終ニ於テ大試業ヲ行フモノトス

第五章　賞罰

第一條　生徒善良ノ行爲ナシ一般生徒ノ模範トスルニ足ルヘキトキハ之ヲ賞スルモノトス

第二條　生徒若シ不良ノ行爲アルトキハ懲ニ之ヲ戒諭スヘシ其情狀ニ依リテハ抑留（授業時間后一室ニ於テ抑留スルヲ云フ）ノ罰ヲ課スルヲ得

第三條　前條抑留ノ罰ヲ課シタルトキハ其旨父母後見人等ニ通知スヘシ

第四條　生徒ノ品行ハ甲乙丙ノ三等ニ分チ之ヲ試業優劣表ニ記入スヘシ

第五條　期末試業大試業ニ於テハ成績及ヒ品行ノ優劣ニ據リ月末試業ニ於テハ成績ノ優劣ニ據テ生徒ノ席次ヲ進退スヘシ（廿一年縣令甲廿八號ヲ以テ改正）

第六條　生徒大試業ニ於テ成績九十點ヲ超ニ且平素學業勉勵品行端正ナルトキハ之ヲ賞スルヲ得

第六章　雜則

第一條　生徒欠席三日以上ニ及フトキハ父母後見人等ハ其旨學校ニ届出ヘシ

第二條　生徒傳染病ニ罹リタルトキハ學校長若クハ首坐訓導ハ全癒マテ出校ヲ止ムヘシ

第三條　小學校ニ於テ生徒ヲ寄宿セシムルトキハ敎員ヲシテ其取締ヲ擔任セシムヘシ

但規則ヲ設クルハ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第四條　父母後見人等ハ生徒並ニ自己ノ轉籍改姓轉住等其都度學校ニ届出ヘシ

㊟明治廿一年（三月）縣令甲第三十五號

明治十九年（十二月）縣令甲第五十八號小學校規程中敎科用圖書ヲ左ノ如ク改定ス本年四月ヨリ之ヲ實施スヘシ若シ準備行届カサル向ハ明治廿二年四月ヨリ實施スルモ妨ケナシ

但該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下級ヨリ用ヰシムルノ儀ト心得ヘシ

尋常科	圖書名稱	卷冊記號員數	著譯者姓名	出版者ノ住所姓名	出版年月
讀本之部					
新定讀本		卷ノ一ヨリ八迄	八冊	中原貞七 東京日本橋區本船四丁目 小林義則	明治二十年八月
讀書入門		全一冊	文部省編輯局		明治十九年九月
尋常小學讀本		卷一ヨリ七迄	七冊	文部省編輯局	明治二十年五月
算術之部					
小學珠算新書		卷一ヨリ四マテ	四冊	須田要 東京日本橋區本石町十軒店	明治廿年三月坂上半七十五日訂正
小學筆算教科書		卷一ヨリ四マテ	四冊	小笠原利孝 岐阜縣管見郡岐阜鍛屋町	明治二十年十一月
小學用算術書		卷一ヨリ五マテ中編卷ノ一	五冊一冊	伊藤貞勝 新潟縣長岡呉服町 外二名	上明治十五年五月中同十八年十月
習字之部					
尋常小學習字		卷ノ一ヨリ八迄	八冊	村尾愷太郎編 東京下谷區練塀町 松田周平 辻敬之	明治二十年六月

米定從前ノ儘

檢定未濟ニ付假用

小學習字帖	卷一ヨリ六迄 九ヨリ十迄 八冊	小原聞一 諸橋淺三郎編 卷菱潭書	新潟縣新潟區東仲通一番町 小林二郎	明治十六年八月

高等科

讀本之部

高等讀本	卷一ヨリ八迄 八冊	中原貞七	東京日本橋區本町四丁目 小林義則	明治廿一年一月
高等科用普通讀本	一扁ヨリ四扁迄 八冊	高橋熊太郎	東京日本橋區通旅籠町 小林八郎	明治二十年五月

算術之部

小學筆算教科書	卷ノ五ヨリ十二迄 八冊	小笠原利孝	岐阜縣厚見郡岐阜靱屋町 水谷善七	明治二十年十一月
小學用算術書	卷一ヨリ五マテ 五冊 中編卷二ヨリ六下迄 七冊	伊藤貞勝 外二名	新潟縣長岡呉服町 松田周平	明治十七年十二月 明治十八年十二月

未定從前ノ儘

簿記之部

高等小學簿記法	全 一冊	佐久間文太郎	岐阜縣安八郡大垣岐阜町 岡安慶介外二名	明治二十年九月

習字之部

小學實用習字帖	卷ノ一ヨリ四迄 全 八冊	岸弘毅撰 村田海石書	岐阜縣厚見郡岐阜米屋町 三浦源輔	明治二十年六月

普通小學習字帖	卷ノ五ヨリ八迄 八冊	森小三郎 零菱潭書	東京日本橋區通旅籠町 小林八郎	明治十九年十月
新撰習字本	卷一ヨリ八迄 八冊	寺田鍛編 香川熊藏書	東京日本橋區馬喰町二丁目 池部活三	明治二十年十一月

地理之部 未定

從前ノ儘（末ニ附記ス）

歷史之部

新撰國史	卷ノ一ヨリ四迄 四冊	中原貞七	東京日本橋區本町四丁目 小林義則	明治二十年五月
小學歷史	卷一ヨリ三迄 三冊	小幡篤次郎	東京芝區三田二丁目 小幡篤次郎	明治二十年二月

理科之部

新撰理科書	卷一ヨリ四迄上下 八冊	高橋勝二郎	東京日本橋區本町四丁目 小林義則	明治二十年五月

圖畫之部

小學圖畫帖	卷ノ一ヨリ十迄 十冊	上村昌訓	岐阜縣厚見郡岐阜米屋町 三浦源輔	明治二十年十月
普通小學畫學楷梯	前編卷一ヨリ五迄 後編卷一ヨリ五迄 十冊	岡村政子	東京々橋區加賀町 岡村竹四郎	明治十九年七月

英語科 未定

從前ノ儘（末ニ附記ス）						
農業之部						
農業道まるべ	上 中 下	三冊	小原春吉	東京日本橋區本町三丁目 原亮三郎	明治二十年七月	
商業之部 未定						
從前ノ儘（末ニ附記ス）						
手工科 未定						
簡易科						
讀本之部						
簡易讀本	卷一ヨリ六迄	六冊	高橋熊太郎	東京日本橋區通旅籠町 小林八郎	明治廿一年二月	
新定讀本	卷一ヨリ六迄	六冊	中原真七	東京日本橋區本町四丁目 小林義則	明治二十年八月	
習字之部						
小學習字帖	卷一ヨリ三迄 九ヨリ十迄	五冊	小原聞一 諸橋淺三郎 菱潭	新潟縣新潟區東仲通 小林二郎	明治十六年八月	
算術之部						

檢查未濟ニ付假用

小學珠算新書	卷一ヨリ四迄	四冊	須田要	東京日本橋區本石町十軒店 坂上半七	明治二十年三月	

（從前ノ分）小學校教科用圖書表

圖書名	卷數記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名		
地理科						
新撰地學初步	一	一冊	明治十五年十二月	青木輔清	東京日本橋區濱町二丁目十一番地	
小學新潟縣地誌攝要	一	一冊	明治十四年十二月	田中鼎	越後新潟 小林二郎	
同圖解	一	一冊	明治十四年十二月	田中鼎	小林二郎	同
小學新潟縣地誌攝要略射地圖	一	軸	明治十四年十二月	田中鼎	小林二郎	
小學日本略射地圖附錄	上	下	明治十四年八月	中野豈記	小林二郎	
日本地誌略	四	冊	明治七年八月	東京師範學校編輯	文部省	
小學日本略射地圖	六	軸	明治十四年七月	中野豈記	小林二郎	
輿地誌略	卷一	一冊	明治八年十月	內田正雄	文部省	
小學萬國地誌攝要	二	冊	明治十五年四月	田中鼎	松田周平	

萬國地誌略	四冊	明治十三年九月改正	東京師範學校編輯	文部省	
小學萬國地誌撮要暗射地圖	二軸	明治十五年四月	田中鼎	松田周平	
萬國地誌略暗射地圖	六軸	明治十一年九月	土方幸勝製	東京南鍋町一丁目五番地西洋平出板	
商業科					
小學商業書	前編二編	明治十四年十二月明治六年七月	塚原苔園	東京本郷區元町一丁目五番地原田庄左衞門	
經濟初步	二冊	明治十五年五月	和田信郎鬼頭儁二郎	神田錦町三丁目五番地和田信郎	
商用簿記學	一冊	明治十五年六月	竹田等	東京日本橋區三丁目丸善商社	
英語科					
ウエヴス綴字書ター氏					
スサント讀本ン氏	第一第二第三第四				
プヨチ小文法書ン氏					
ペラントヤー氏會話書					
スペンセリヤン氏習字本					

尋常小學科課程表（廿年縣令甲百七十九號ヲ以テ裁縫ノ一欄ヲ追加ス）

學科	毎週時數	第一年	第二年	第三年	第四年
修身		二、五	二、五	二、五	二、五
		作法	作法	作法	作法
		簡易ナル事柄	簡易ナル事柄	簡易ナル事柄	簡易ナル事柄
讀書		七	八	八	八
		假名假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リ文ノ短句緊要ナル字句ノ書取	簡易ナル漢字交リ文緊要ナル字句ノ書取	簡易ナル漢字交リ文緊要ナル字句ノ書取	簡易ナル漢字交リ文緊要ナル字句ノ書取
作文		四	四	四	四
		假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句	簡易ナル漢字交リ文口上書類	簡易ナル漢字交リ文日用書類	簡易ナル漢字交リ文日用書類
習字		五	五	五	五
		假名日用文字	日用文字口上書類	日用書類	日用書類

通計	裁縫	唱歌	圖畫	体操	算術
二八		○一、五	○一	四、五	六
六		○單音唱歌	○自在畫 直線曲線及單形	遊戲	實物ノ計方實物ノ加減乘除及數字算珠用法
二八		○一、五	○一	四、五	六
六		○單音唱歌	○自在畫 單形及簡易ナル器具	遊戲	加法減法暗算
二八	○三	○一、五	○一	四、五	六
六	運針法 補綴單物ノ縫方及補綴等	○單音唱歌	○自在畫 簡易ナル器具及花葉	體操	乘法除法暗算
二八	○三 同上	○一、五	○一	四、五	六
六		○單音唱歌	○自在畫 簡易ナル器具及花葉	體操	普通ノ度量衡貨幣雜題暗算

高等小學科課程表（廿年縣令甲百七十九號ヲ以テ理科ノ欄ヲ改正ス）

學科	毎週時數	第一年	第二年	第三年	第四年
修身	一、五	簡易ナル事柄	簡易ナル事柄	簡易ナル事柄	簡易ナル事柄
讀書	六	漢字交リ文	漢字交リ文	漢字交リ文	漢字交リ文
作文	二	漢字交リ文 日用書類	漢字交リ文 日用書類	漢字交リ文 日用書類	漢字交リ文 日用書類
習字	二	行書 日用書類	行書 日用書類 楷書 日用文字	楷書 日用文字 草書 日用書類	楷書 日用文字 草書 日用書類
算術	六	算用數字命數記法 整數加減法乘法除法暗算	分數小數暗算	比例利息算暗算	利息算雜題暗算 簿記ノ概略
地理	四	學校近傍ノ地形其鄉土郡區縣本邦地理	地球ノ形狀晝夜五大洋六大洲ノ名目等外國地理ノ概略		
歷史					

歷史	理科	圖畫	唱歌
	二	二	一、五
	果實穀物菜蔬草木人体禽獸蟲魚金銀銅鐵日月星空氣温度水蒸氣雨露霜雪霰氷雷電風雨火山地震潮汐燃燒鑄冶敗壞咖啡筒噴水音響返射時計寒暖計蒸氣器械眼鏡色虹槓杆滑車枠磁石電信機等	自在畫直線曲線單形及簡易ナル器具	單音唱歌
	二	二	一、五
	同上	自在畫器具花葉草木等	單音唱歌
	四	二	一、五
	建國ノ体制神武天皇ノ即位王朝ノ政治藤原氏ノ專權幕府ノ創立及世態文物人情風俗ノ變遷等ニ關シ重要ナル事柄ト忠良賢哲ノ事蹟	自在畫草木禽獸虫魚等用器畫簡易ナル幾何圖及器具	一、五 複音唱歌
	四	二	一、五
	德川氏ノ治蹟王朝維新外國交通貿易及世態文物人情風俗ノ變遷等ニ關シ重要ナル事柄ト忠良賢哲ノ事蹟	用器畫簡易ナル幾何圖及器具	複音唱歌

体操	裁縫	英語	農業	手工	商業	通計
三	五	五	二	二	二	男 三〇 女 三三
輕体操隊列運動	運針法通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方	○綴字 付書取（讀方譯解）	○禾穀蔬菜桑茶等ノ栽作ニ關スル事柄	○木工具金工具ノ種類及用法	○小賣卸賣仲買問屋會社株式公債等ノ事柄	男 一一 女 一二
三	五	五	二	二	二	男 三〇 女 三三
輕体操隊列運動	通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方	○讀方譯解）書取習字	○禾穀蔬菜桑茶等ノ耕作ニ關スル事柄及地味氣候農具肥料灌水等農家ニ必須ノ事柄	○木工具金工具ノ種類及用法	○小賣卸賣仲買問屋會社株式公債等ノ事柄商業ノ必要ナル現行ノ法規	男 一一 女 一二
三	五	五	二	二	二	男 三〇 女 三三
輕体操隊列運動	通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方	○讀方譯解）書取文法	○畜養鷄水産及地主小作人市場運搬貯蓄等農家ニ必須ノ事柄	○木工具金工具ノ種類及用法	○商業ニ必要ナル現行ノ法規	男 一一 女 一二
三	五	五	二	二	二	男 三〇 女 三三
輕体操隊列運動	通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方	○讀方譯解）文法會話作文	○農家經濟ノ大意	○工家經濟ノ大意	○商業經濟ノ大意	男 一一 女 一二

尋常小學科教科用圖書配當表　（廿年縣令甲廿号ヲ以テ算術ノ欄改正　廿年縣令甲百七十九号ヲ以作文ノ欄ヲ削除ス）

第一年	第二年	第三年	第四年
修身口授	新潟縣小學生徒心得　修身說約　幼學綱要 日本寺志編　西洋立志編 修身兒訓　小學作法書 小學作法教授書付圖		
讀書	以呂波圖　五十音圖　濁音圖　半濁音圖　文學書圖　單語圖　短句圖　東京師範學校編輯小學讀本卷一 原亮策編小學讀本卷一	東京師範學校編輯小學讀本卷二三 原亮策編小學讀本卷三四五	東京師範學校編輯小學讀本卷三 原亮策編小學讀本卷內用嘉一著小學讀本卷一
習字	習字手本　五六級 小學習字帖　卷一二	習字手本　三級 小學習字帖　卷三九	習字手本　一級 小學習字帖　卷九十
算術	算籌術授業書卷一二 小學和算新書卷一二 小學用算術書卷一二	算籌術授業書卷一二三 小學和算新書卷二 小學用算術書卷二四	算籌術授業書卷三 小學和算新書卷三 小學用算術書中編卷一

体操	
○圖書	○小學書學臨帖卷一 小學習書帖　卷一 ○小學書學臨帖卷二三 小學習書帖　卷一二 ○小學書學臨帖卷三六 小學習書帖　卷二三 ○小學書學臨帖卷五六 小學習書帖　卷四五
○唱歌	○小學唱歌集 唱歌掛圖

一讀書用書中東京師範學校編輯ノ小學讀本ヲ用フルトキハ各學校ノ適宜ニ任ス但第四年ノ終ニ於テハ西田嘉一著小學讀本ヲ授クヘシ

一作文用書中小學作文全書ヲ用フルトキハ西田嘉一著小學讀本ヲ用フルトキハ各學校ノ適宜ニ任ス但算術ノ部度量衡貨幣ハ小學用算術書中編卷一ヲ適用シテ授クヘシ

一書學用書中小學書學臨帖ヲ用フルトキハ各學校ノ適宜ニ任ス

高等小學科教科用圖書配當表（廿年縣令甲廿號ヲ以算術ノ欄ヲ改正ス　廿年縣令甲百七十九號ヲ以テ作文裁縫ノ欄ヲ削ル）

	第一年	第二年	第三年	第四年
修身 口授	新潟縣小學生徒心得　修身說約 幼學綱要　日本立志編　西洋立志編　修身兒訓 小學作法書　小學作法教授書 小學作法教授書付圖、女禮教授法			
讀書	內田嘉一著　小學讀本卷二三	內田嘉一著　小學讀本卷四五六	日本外史卷一二三	日本外史卷三四五六七八
習字	作文的例卷二	作文的例卷二　楷書菱湖千字文	作文的例卷二　楷書菱湖千字文	作文的例卷二　楷書菱湖千字文
算術	小學用算術書卷一二三四五 小學用算術書中編卷二三四	小學用算術書中編卷二三四 小學用算術書中編卷五六 筆算摘要卷四	小學用算術書中編卷五六 筆算摘要卷三	筆算摘要卷三 簿記學楷梯
地理 口授	新撰地學初步 小學新潟縣地誌撮要 小學新潟縣地誌撮要圖解 小學新潟縣地誌撮要 暗謝地圖 小學日本暗射地圖附錄 日本地誌略 小學日本暗射地圖	興地誌略卷一 小學萬國地誌撮要 小學萬國地誌撮要暗射地圖 萬國地誌略 萬國地誌略暗射地圖	筆算摘要卷三五	筆算摘要卷五 簿記學楷梯

歷史 口授			國史紀事本末 皇朝史略 續皇朝史略 續々皇朝史略	
理科 口授	博物圖　植物圖　植物小學　解剖生理淺說 養生淺說　動物一覽　動物小學　鑛物小學　解体生理圖式 小學化學書　化學訓蒙　羅斯珂氏化學書　地文新篇 物理初步　物理全誌　士都華氏物理書			
圖畫	小學畫學臨帖卷一二四 小學習畫帖卷一二三	小學畫學臨帖卷三五 小學習畫帖卷二三四	小學畫學臨帖卷五六 小學普通畫學本乙卷十十一 小學習畫帖卷四五 幾何畫法教授書 遠近畫法教授書	小學畫學臨帖卷五六 小學普通畫學本乙卷十十一 小學習畫帖卷六七 幾何畫法教授書 遠近畫法教授書
唱歌	小學唱集　唱歌掛圖			
體操				
英語	○ウエヴスター氏　綴字書 スヰントン氏　第一讀本 スペンセリヤン　習字本	○スヰントン氏　第二讀本 スヰントン氏　第三讀本 スペンセリヤン　習字本	○スヰントン氏　第三讀本 ブラオン氏　小文法書 ペランヂヤー氏　會話書	○スヰントン氏　第四讀本 ブラオン氏　文法書 ペランヂヤー氏　會話書
農業 口授	○農業小學 水産小學 農業捷徑			

○手工　口授　○用書未定

○商業　口授　○小學商業書　經濟初步　諸條例規則

一作文用書中小學作文全書ヲ用フルトキハ女子書簡文梯ヲ用フルモノトス
書牘文ヲ授クルニハ女子書簡文梯ヲ用フルモノトス
一圖畫用書中小學畫學臨帖及小學普通畫學本ヲ用フルトキハ各學校ノ適宜ニ任ス但女兒ニ
宜ニ任スル幾何畫法教授書ハ斟酌シテ用フヘシ

小學簡易科課程表

學科	第一年 毎週時數	第二年 毎週時數	第三年 毎週時數
讀書	五 假名假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句緊要ナル字句ノ書取	五 簡易ナル漢字交リ文緊要ナル字句ノ書取	五 簡易ナル漢字交リ文緊要ナル字句ノ書取
作文	二 假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句	二 口上書類	二 日用書類
習字	二 假名 行書 日用文字	二 行書 日用文字 口上書類	二 行書 口上書類 日用書類
算術	九 實物ノ計方實物ノ加減乘除及數字珠用法	九 珠算加法減法乘法除法暗算	九 珠算普通ノ度量衡貨幣雜題暗算
通計	一八 四	一八 四	一八 四

小學簡易科數科用圖書配當表

	第一年	第二年	第三年
讀書	日呂波圖五十音圖濁音圖次濁音圖文學社單語圖短句圖東京師範學校編輯小學讀本卷一 原亮策編小學讀本卷一	東京師範學校編輯小學讀本卷二 原亮策編小學讀本卷二	東京師範學校編輯小學讀本卷三 原亮策編小學讀本卷三四
作文	小學作文全書卷一二 小學作文本 卷一	小學作文全書卷四 小學作文本 卷二	小學作文全書卷三四 小學作文本 卷三
習字	習字手本 五六級 小學習字帖卷一二	習字手本 三級 小學習字帖卷三九	習字手本 一級 小學習字帖卷九十
算術	算數術授業書卷一二三 小學和算新書卷一二	算數術授業書卷三 小學和算新書卷三 小學用算術書中編卷下	

一讀書用書中東京師範學校編輯ノ小學讀本ヲ用フルト原亮策編ノ小學讀本ヲ用フルト作文用書中小學作文全書ヲ用フルト小學作文本ヲ用フルト習字用書中習字手本ヲ用フルト小學習字帖ヲ用フルト算術用書中算數術授業書ヲ用フルト小學和算新書ヲ用フルト小學用算術書中編ハ各學校ノ適宜ニ任ス但算術ノ部度量衡貨幣ハ小學用算術書中編卷一ヲ適用シテ授クヘシ

第一號表

尋常科何小學級第何級大試業優劣表

| 種類 / 學科 | | |

第一號表

高等小學校第何級大試業優劣表

種類 / 學科	期末試業通約點	大試業評點	大試業約點	期末試業通約點	大試業評點	大試業約點	期末試業通約點	大試業評點	大試業約點	期末試業通約點	大試業評點	大試業約點	期末試業通約點	大試業評點	大試業約點	成績品行	席順落第	氏名

第一號表

高等科何小學校第何級第何期末試業優劣表

種類 / 學科	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	月末試業約點	期末試業約點	期末試業評點	成績	品行	席順	氏名
在級生員一學科數一全級平均點																									
受驗生員一學科數一全級平均點																									
年月受持教員氏名																									

第一號表

尋常科何小學校第何級第何期第何月末試業優劣表

學科 / 點評	在級生員一學科數一全級平均點	受驗生員一學科數一全級平均點	年月受持教員氏名	成績	品行	席順	氏名

第十六類　小學校

第一號表

高等科何小學校第何級第何期何月末試業優劣表

學科	評點										成績	品行	席順	氏名
在級生員														
受驗生員														
學科數														
全級平均點														
年月受持教員氏名														

第二號表　得點簿

氏名	學科	成績	品行	席順
種類				
第一月末試業評點				
第二月末試業評點				
第三月末試業評點				
平素點				
月末試業約點				
第一期末試業評點				
第一期末試業約點				
第一日末試業評點				
第二月末試業評點				
第三月末試業評點				
平素點				
月末試業約點				
第二期末試業評點				
第二期末試業約點				
第一日末試業評點				
第二月末試業評點				
第三月末試業評點				
平素點				
月末試業約點				
期末試業通約點				
大試業評點				
大試業約點				

尋常小學校ノ分

表中平素點ハ作文習字圖畫ニ限リ之ヲ附スルモノトス

第十六類 尋常小學校

| 氏名 / 學科 | 種類 | | |

第五條　各試業ニ於テ筆算珠算ハ各一科トシテ採點スヘキモノトス

※明治十九年(十一月)縣令甲第四十七號小學校學資規程別冊之通制定ス

(別冊)

小學校學資規程

第一章　總則

第一條　學資ハ普通教育ヲ施行スヘキ資料ニシテ之ヲ分テ資産經費ノ二部トナス

第二條　學資ニ關スル事務ハ本則ニ據リ高等小學校ハ郡區長尋常小學校ハ區戸長之ヲ管理スルモノトス但地方稅區町村費ニ關シテハ該法律規則ニ依ルヘキハ勿論トス

第三條　郡區長ハ本則實施上整理ノ爲メ細則ヲ設クルヿヲ得其細則ハ知事ニ開申スヘシ

第二章　資産ノ區別

第四條　資産ハ恆久儲蓄スヘキ學資ニシテ之ヲ分テ增殖資産定用資産ノ二類トナス

第五條　增殖資産ハ利潤ヲ生出スヘキ資産ニシテ之ヲ分テ左ノ三種トス

第一　貨幣

第二　公債證書並ニ政府ノ保證アル株券

第三　土地

第六條　定用資産ハ一定ノ使用ニ供スヘキ資産ニシテ之ヲ分テ左ノ三種トス

第一　用地

第二　校舍

第三　圖書器械標本

第七條　資産成立ノ途左ノ如シ

一　官廳下賜

一　地方稅補助(從前地方稅補助金ヲ蓄積スルモノニ係ル)

一　有志者寄附

一　經費賸求(經費ヲ以テ賸求セルモノニ係ル)

第三章　經費ノ區別

第八條　經費ハ隨時支消スヘキ學資ニシテ之ヲ分テ通常費別途費ノ二類トナス

第九條　通常費ハ通常定額ノ費用ニシテ之ヲ分テ左ノ五種トス

第一　俸給

第二　給與

第三　校費

第四　修繕費

第五　講習費

第十條　別途費ハ定額外別途ノ費用ニシテ之ヲ分テ左ノ三種トス

第一　用地購求費

第二　校舍建築費

第十六類　小學校

第三　圖書器械標本購求費

第十一條　經費收入ノ途左ノ如シ

一　授業料

一　增殖資產ノ利潤

一　有志者寄附

一　區町村費補充

一　區町村費支辨

一　地方稅補助

一　雜收入

第四章　資產ノ管理

第十二條　增殖資產ノ第一種ハ驛遞局預金ノ外ハ其第二種若クハ第三種ニ換フルヲ要ス

第十三條　若シ增殖資產ノ第一種ヲ貸付セントスルトキハ確實ノ抵當ヲ徵シ正當ノ手續ニ依ルヘシ但戶長ノ管理ニ屬スルモノハ證書案ヲ添ヘ郡長ニ經伺スヘシ

第十四條　戶長ノ管理ニ屬スル增殖資產ノ第二種若クハ第三種ヲ他種ニ變換セントスルトキハ其事由手續等ヲ具シ郡長ニ經伺スヘシ

第十五條　增殖資產ノ第三種ヲ貸付セントスルトキハ確實ナル約定書ヲ徵スヘシ但戶長ノ管理ニ屬スルモノハ約定書案ヲ添ヘ郡長ニ經伺スヘシ

第十六條　戶長ノ管理ニ屬スル增殖資產ノ第三種ヨリ生スル所ノ物產ヲ賣却スルトキハ其品目價額變換方等ヲ具シ郡長ニ開申スヘシ

第十七條　定用資產ノ不用ニ屬スルトキハ之ヲ增殖資產ニ變換スヘシ但戶長ノ管理ニ屬スルモノハ品目價額變換方等ヲ具シ郡長ニ開申スヘシ

第十八條　資產ノ增減變換收入支出等ノ狀況ハ每年一月四月七月十月書式第一號ニヨリ一覽表ヲ製シ知事ニ報告シ且學校門前及其他ノ揭示場ニ標出スヘシ但戶長管理ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由スヘシ

第五章　經費ノ豫算及收支

第十九條　經費ハ每年十二月書式第二號ニ依リ翌年度ノ豫算ヲ製スヘシ但戶長ノ管理ニ屬スルモノハ郡長ノ審查ヲ受クヘシ

第二十條　經費豫算中區町村費ノ補充ヲ要シ若クハ區町村費ノ支辨ニ係ルモノニシテ戶長ノ管理ニ屬スルモノハ其議案ヲ町村會ニ付スルノ前郡長ノ審查ヲ受ケ若其評決議案ヨリ減少シタル場合ニ於テハ認可ノ前郡長ニ稟議スヘシ

第二十一條　經費豫算中地方稅ノ補助ヲ請ハントスルトキハ郡區長ハ學校名金額理由等ヲ詳具シ每年五月知事ニ上申スヘシ

第二十二條　通常費豫算ニ依リ月額ヲ定メ學校長首座訓導若クハ事務係等ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

第二十三條　授業料及雜收入ノ領收ハ學校長首座訓導若クハ事務係等ヲシテ其出納ヲ掌ラシムルコトヲ得

第二十四條　經費ヲ支出スル片ハ毎事項必ス確實ナル領収書ヲ徴スヘシ

第二十五條　經費収入及支出ノ狀況ハ毎年一月四月七月十月書式第三号ニ依リ一覽表ヲ製シ郡事ニ報告シ且學校門前及其他ノ掲示場ニ標出スヘシ但戸長ノ管理ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由スヘシ

第六章　帳簿

第二十六條　學資ノ管理収支等ヲ整理スルカ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　資産原簿
一　資産領収簿
一　資産變換簿
一　資産貸付簿
一　資産収入簿
一　資産支出簿
一　經費原簿
一　經費領収簿
一　經費支出簿

第二十七條　資産原簿ハ第四條第五條第六條ノ種類ニ區分シ名稱、記號、數量、價額、成立ノ年月日、備考、等ノ目ヲ設ケ領収變換等ノ都度記載スルモノトス

第二十八條　資産ノ領収簿ハ第七條ノ途ニ區分シ名稱、記號、數量、價額、備考、等ノ目ヲ設ケ

領収ノ都度記載スルモノトス

第二十九條　資産變換簿ハ變換ノ都度其事由手續等ヲ詳記スルモノトス

第三十條　資産貸付簿ハ貸付ノ都度其事由方法等ヲ詳記スルモノトス

第三十一條　資産収入簿ハ第五條ノ三種ニ區分シ名稱、利潤、數量、價額、月日、備考等ノ目ヲ設ケ利潤収入ノ都度記載スルモノトス

第三十二條　資産支出簿ハ資産ノ利潤ヲ經費ニ支出スル場合ニ於テ記載スルモノトス

第三十三條　經費原簿ハ第八條第九條第十條ノ種類ニ區分シ金額、収入ノ途、収入ノ月日、備考等ノ目ヲ設ケ領収ノ都度記載スルモノトス

第三十四條　經費領収簿ハ第十一條ノ途ニ區分シ金額、収入ノ月日、備考等ノ目ヲ設ケ領収ノ都度記載スルモノトス

第三十五條　經費支出簿ハ第八條第九條第十條ノ種類ニ區分シ金額、支出ノ事故、支出ノ月日、備考等ノ目ヲ設ケ支出ノ都度記載スルモノトス

第三十六條　第二十七條各帳簿ノ補助簿並ニ資産經費ニ關スル文書ノ綴簿及日誌等ヲ製シ事實關係ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス

第三十七條　第二十七條ノ帳簿ハ正副二通ヲ製シ郡區役所若クハ戸長役場及學校等ニ分置保存スルヲ要ス

第三十八條　帳簿ノ記載出納ハ明瞭確正ニシテ塗抹錯誤等ノ生スルヘカラス

第七章　授業料

第三十九條　授業料ハ毎月一人ニ付左ノ程度ニ據リ其差等ヲ定メ生徒ノ父母後見人等ヨリ徴收スヘシ但戶長ノ管理ニ屬スルモノハ郡長ニ經伺スヘシ

高等科　金七拾錢以下貳拾錢以上

尋常科　金三拾錢以下五錢以上

第四十條　增殖資產ノ利潤經費ノ全額ニ充足シ若クハ前條程度ノ金額ヲ徴收スルヲ要セサル片ハ授業料ヲ徴收セス若クハ之カ程度ヲ減スルヲ得但戶長管理ニ屬スルモノハ其理由ヲ具シ郡長ニ經伺スヘシ

第四十一條　前兩條ノ場合ニ於テハ知事ニ開申スヘシ

第四十二條　一家二人以上一校ニ就學セシトキ壹人ノ外ハ半額ニ減スルヲ得（廿年縣令甲四十一號ヲ以テ改正）

第四十三條　土地ノ情況ニ依リテハ米穀其他ノ物件ヲ以テ授業料ニ代納スルヲ得

第八章　寄附

第四十四條　寄附ヲ分テ各自寄附共同寄附ノ二種トス各自寄附ハ各自ノ名義ヲ以テ寄附シ共同寄附ハ會社若クハ町村等ノ名義ヲ以テ寄附スルモノトス

第四十五條　寄附方ヲ分テ一時寄附ト寄附物件ノ總額ヲ一時ニ寄附シ定時寄附ハ毎月若クハ毎何月若クハ毎年ニ分賦シテ四ケ年以內ニ寄附スルモノトス

第四十六條　共同寄附者ハ一人若クハ數人ノ總代者ヲ定メ寄附ニ關スル事件ヲ幹セシムヘシ

第四十七條　寄附物件ニ使用ノ途ヲ指定セサルモノハ之ヲ增殖資產ニ入ルモノトス

第四十八條　寄附者ハ書式第四號ニ依リ寄附願書ヲ認メ郡區長ニ差出スヘシ但壹常小學校ニ寄附スルモノハ戶長ヲ經由スヘシ

第四十九條　前條郡區長ノ認許ヲ得タル后管理者寄附者ハ書式第五號第六號ニ依リ寄附物件ノ受授ヲナスヘシ但戶長管理ニ屬スルモノハ戶長ヨリ郡長ニ開申スヘシ

第五十條　學區變動等ノ場合ニ於テハ寄附物件ハ從前ノ學校ヨリ分割シ新ニ編入セル學區ノ學校ニ寄附スルモノトス但學校二箇ヲ設クル學區ニ於テハ各校ニ配分寄附スルト其一校ニ寄附スルトハ寄附者ノ適宜トス

第五十一條　前條寄附物件ノ種類ニ依リ分割シ難キ場合ニ於テハ相當ノ金額ニ換フルモノトス

第五十二條　第五十一條ノ場合ニ於テ寄付物件ノ學區內某町村ニ僅少若クハ絕無ニシテ權衡懸隔セル時ニ限リテハ其利潤ヲ當該町村敎育上區町村費ノ課賦ニ換充スルヲ得（廿年十月縣令甲第百四十九號ヲ以テ改正）

第五十三條　前條ニヨリ區町村費ノ課賦ニ換充シ猶殘餘アルトキハ之ヲ增殖資ニ組込ミ若クハ當該區町村敎育上ノ資ニ供スルヲ得（廿年縣令甲第百四十九號ヲ以テ追加）

第五十四條　各自寄付ニシテ一時寄付價額拾圓以上定時寄付價額廿圓以上ノ寄付者ハ商議員トナス

第五十五條　共同寄付ニシテ一時寄付價額五拾圓以上定時寄付價額百圓以上ノ寄付者ハ一時寄付每百圓定時寄付每二百圓ニ一名ヲ互撰セシメ商議員トナス

第五十六條　商議員ハ當該學校商議會會員トナリ及當該學校ニ對シテハ相當ノ特待ヲ受クルモノトス

第九章　商議會

第五十七條　商議會ハ當該學校ノ寄付物件ニ關スル事件ヲ商議シ管理者ノ參考ニ資スルモノトス

第五十八條　商議會ハ毎年九月之ヲ開クモノトス但重大ノ事件アリテ急速ヲ要スル場合ニ於テハ臨時開會スルコトヲ得

第五十九條　商議會ノ細則ハ知事ノ認可ヲ經テ郡區長之ヲ定ムヘシ

第六十條　商議會ノ狀況ハ閉會ノ都度之ヲ詳記シテ知事ニ報告スヘシ

但戸長ノ管理ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由スヘシ

書式第一號

自明治何年何月
至明治何年何月　高等科（尋常科）（簡易科）何小學校學資一覽表

增殖資					
種別	名稱	數量並ニ價額		前期比較 增減	
第一種	何金	圓	錢	圓	錢 厘
第二	何証書	何通	圓	何通	圓 錢 厘
	何株券	何株	、、、	何株	、、、

產現額				增殖資產成立							
種	第三種		計	成立ノ途	官廳下賜		地方稅補助		有志者寄附		管理ノ別
	何地			種別	第何種						種別
、、、	、、	丁反畝歩			、、	圓 錢 厘	、、	、、	、、	、、	利潤ノ價額
、、	、、、、	、、、、	、、、	價額	、、	、、、	、、	、、、	、、	、、	前期比較 增墨 減朱
、、、	、、、、	、、、、	、、、	前期比較 增墨 減朱	、、	、、、	、、	、、、	、、	、、	前期比較 增墨 減朱

成立ノ途別	定用資産現額						増殖資産利潤					
	計	第三種		第二種	第一種	種別	計	貸		蓄積		驛遞局預
		器具標本	圖書					附				第何種
		何箇	何部	何坪	丁反畝歩	數量						
					圓錢厘	價額						圓錢厘
					丁反畝歩	前期比較増減						
		何箇	何部	何坪	圓錢厘	朱墨						
						價額						
						前期比較増減						
						朱墨						

備考	定用資産成立												
	官廳下賜		地方稅補助		有志者寄附			經費購求					
	第何種												
	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘
資産ノ増減變換貸附收入支出ノ狀況事由寄附ノ物件數量價額寄附方ノ別寄附者ノ氏名等ヲ記載シ前表ノ解明數衍トナスヘシ													

書式第二號

明治何年何月何日　何郡區何尋常(高等)小學校管理者
郡區戶長　氏　名　印

商等科(尋常科)(簡易科)何小學校經費豫算

支出之部

前年度ノ金額ヲ朱書ス以下之ニ倣フ

一金何程　自明治何年四月 至明治何年三月 通常費

備考　(等科及ヒ生徒數學級數ノ見込ヲ記ス)

俸給	金何程	
	內	
學校長給	金何程	
	但月給金何程	
訓導給	金何程	
	但人員何名月給平均金何程	
授業生給	金何程	
	但人員何名月給平均金何程	
事務掛給與	金何程	
	內	
	金何程	
	但人員何名月給平均金何程	
旅費日當	金何程	
	但何旅費何程日當何程	
諸雇給	金何程	
	但小使何名月給平均金何程臨時雇夫何名日給平均金何程	
職員慰勞費	金何程	
	但人員何名月給總額何程何分ノ一	
生徒賞與費	金何程	
	但生徒何名受賞者何分ノ一平均金何程	
校費	金何程	
	內	
需用費	金何程	
	但日用文具什器新調補繕等	
消耗費	金何程	
	但筆紙墨炭油薪茶其他雜品等	

金何程　雜費
但運送費郵便稅地租地方稅借地借家料廣告費等
金何程　修繕費
但校舍內外一切修繕
金何程　講習費
但會場諸費辨當料等

一金何程　別途費
內譯
金何程　用地購求費
但(所用ノ別反別購求等ノ事故等ヲ記ス)
金何程　校舍建築費
但(所用ノ別坪數建築ノ事故等ヲ記ス)
金何程　圖書器械標本購求費
但(圖書器械標本ノ別部數箇數購求ノ事故等ヲ記ス)

收入之部

一金何程
自明治何年四月
至明治何年三月　收入豫算

內譯
金何程　前年越
金何程　高等科授業料
金何程　增殖資產利潤
金何程　有志者寄附
金何程　區町村費補充
金何程　區町村費支辨
金何程　地方稅補助
金何程　雜收入

書式第三號
自明治何年何月
至明治何年何月　高等科(尋常科)(簡易科)何小學校經費一覽表

通常費豫算金圓錢厘

收入ノ途	金額	支出ノ途	金額
通常費	厘	俸給	圓錢厘
授業料	、	給與	、
增殖資產利潤	、	、	、
有志者寄附	、	、	、
區町村費補充	、	校費	、

收支															
區町村費支辨	地方税補助	雜收入	既收入殘餘	計	修繕費	講習費	既支出	計	用地購求	校舍建築	圖書器械標本購求	既支出	計	圓	錢	厘
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

別途費豫算

圓	錢	厘

通常費豫算差引金圓錢厘剩餘（不足）

別途費豫算差引金圓錢厘剩餘（不足）

備考

收入支出ノ狀況ヲ記ス

明治何年何月何日

何郡區何尋常（高等）小學校管理者
郡區戸長　氏　名　印

書式第四號

學資寄付願

一物件　數量

（價額）

（記号）

（所有）

右ハ小學校學資規程第八章ニ依リ何郡區高等科（尋常科）（簡易科）何小學校ヘ（何々トシテ）（何共同ヲ以テ）何年月限リ一時寄付（何年何月ヨリ毎年「毎何ヶ月」「毎月」何ヶ年「何ヶ月」賦定時寄付）仕度此段相願候也

明治何年何月何日

何府縣何郡區何町村何番地華士族平民
（何府縣何郡區何町村何番地寄留）
氏　名　印

（何府縣何郡區何町村「何會社」共同寄付總代者）

新潟縣何郡區長氏名殿

書式第五号

記

一物　件　　數量價額

右ハ別紙寫ノ通（何ヶ年「何ヶ月」區寄付）ヲ以テ高等科（尋常科）（簡易科）何小學校ヘ寄付相願御許可相成候ニ付テハ即チ頭書ノ通（第何期分）相納候間御受領相成度候也

明治何年何月何日

（氏　名　印）

郡區戶長氏名殿

（定時寄付ノ第二期以後ハ左ノ如シ）

記

一物　件　　數量價額

右ハ明治何年何月ヨリ明治何年何月迄每年（每何ヶ月）（每月）定時寄付第何期分頭書之通相納候間御受領相成度候也

寄付者

（何共同寄付總代者）

氏　名　印

書式第六號

寄付受領之證

一物　件　　數　量

（價　額）

（記　號）

（所　有）

右ハ高等科（尋常科）（簡易科）何小學校ヘ時寄付（明治何年何月ヨリ明治何年何月マテ每年「每何ヶ月」「每月」定時寄付第何期分）トシテ納付相成正ニ受領候也

明治何年何月何日

何郡區何尋常（高等）小學校管理者

郡區戶長　氏　名　印

寄付者

（何共同寄付總代者）

氏　名　殿

（明治十九年（十一月）縣令甲第四十八號學齡兒童就學規則別紙之通制定ス）

（別紙）

就學規則

第十六類　小學校

第一條　凡ソ兒童ハ翌年三月三十一日迄ニ學齡ニ入ルヘキモノアルトキハ父母後見人等ハ其年十月三十一日迄ニ兒童現住地ノ區戸長ニ届出翌年四月ニ於テ就學セシムルコト

第二條　前條翌年四月ニ於テ就學セシムルコト能ハサルヘキ事故アルトキハ父母後見人等ハ

第十二條ノ就學猶豫願ヲ其年十月三十一日迄ニ兒童現住地ノ區戸長ニ差出ヘシ

第三條　區戸長ハ就學猶豫願ヲ受ケタルトキハ其事故ヲ審案シ戸長ハ其意見ヲ記載シテ願書ニ添ヘ郡長ニ差出ヘク郡區長ニ於テハ其事故ヲ相當ト認ムルトキハ期限ヲ定メテ之ヲ許可シ不相當ト認ムルトキハ許可セサルモノトス

第四條　就學猶豫相當ト認ムヘキ事故凡ソ左ノ如シ

第一項　疾病ノモノ

第二項　疾病ニ罹リ速ニ治癒ノ目的ナキモノ

第三項　家計困窮ノモノ

第四項　身体ノ發育就學ノ度ニ適セサルモノ

第五項　家族疾病ニ罹リ他ニ看護ノ人ナキモノ

第五條　就學猶豫ノ期限ハ前條第一項ノ外ハ一ケ年以内タルヘシ

第六條　第一條ヲ届出テナシタル後若クハ兒童就學ノ後尋常小學科ヲ卒ラサル間ニ就學セシムルコト能ハサル事故生シタルトキハ父母後見人等ハ第二條ニ準シ猶豫ヲ願出ヘシ

第七條　就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノト雖就學セシムルコトヲ得ヘキ場合ニ至リタルトキハ父母後見人等ハ其旨兒童現住地ノ區戸長ニ届出ヘシ

第八條　就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノ滿期ニ至リ猶就學セシムルコト能ハサル場合ニ於テハ父母後見人等ハ第二條ニ準シ更ニ猶豫ヲ願出ヘシ

第九條　區戸長ハ尋常小學科ヲ卒ラサル學齡兒童ノ他ノ學區ニ轉住スルトキハ從前ノ教育就學ノ場所就學猶豫ノ事故並ニ其期限等ヲ記載シテ之ヲ轉住地ノ區戸長ニ送付スヘシ

第十條　他縣ヨリ轉住シタル學齡兒童ニシテ尋常小學科ヲ卒ラサルトキハ父母後見人等ハ其旨轉住地ノ區戸長ニ届出ヘク就學セシムルコト能ハサル場合ニ於テハ第二條ニ準シ猶豫ヲ願出ヘシ

第十一條　家庭若クハ小學校ト均シキ普通教育ヲ施ス私立學校ニ於テ就學セシムルトキハ父母後見人等ハ其事由ヲ記載シテ兒童現住地ノ區戸長ニ届出ヘシ

第十二條　就學猶豫願書式左ノ如シ

就學猶豫願

何府縣華士族平民
何町(村)番地住　氏　名
何年何月何日生

右者何々ノ爲メ就學難爲致候ニ付何年何月(本月「來ル何月」)ヨリ何年何月(何月)マテ何ケ年(何ケ年何ケ月「何ケ月」)間就學猶豫相成度此段相願候也

右父母後見人等
氏　名　印

年　月　日

第十六類　小學校

何郡區長氏名殿

●明治十九年(十二月)縣令甲第八十五號
高等小學校設置區域及位置別紙ノ通指定ス
(別紙)

設置區域	位置
新潟區	東大畑通一番町
北蒲原郡	新發田本村
	水原町
	中條町
中蒲原郡	村松町
	袋津村
	小須戸町
西蒲原郡	卷村
南蒲原郡	三條町

東蒲原郡	津川村
三島郡	與板町
	片貝村
志古郡	長岡
	杤尾町村
北魚沼郡	小千谷町
南魚沼郡	鹽澤村
中魚沼郡	十日町村
刈羽郡	柏崎
東頸城郡	安塚村
中頸城郡	高田
	潟町村
西頸城郡	糸魚川

君船郡	村上本町
佐渡雜太郡 加茂 羽茂	新穗町

●明治二十年(一月)縣令甲第十一號
尋常小學校設置區域及位置別冊之通相定ム
(區域略ス)

●明治二十年(一月)訓令甲第十一號
尋常小學校設置區域及位置相定候ニ付テハ別冊之通簡易科ヲ以テ尋常科ニ代用スル事ヲ得ヘシ
郡區役所　戸長役場

(別冊略ス)

●明治廿年(一月)訓令甲第十二號
尋常小學校設置區域及位置相定候ニ付テハ別冊之通特ニ分場ヲ置クヿヲ得ヘシ
郡區役所　戸長役場

(別冊略ス)

●明治廿年(一月)訓令甲第十七號
小學校經費豫算中學校長訓導給(區町村會ニ付シタルモノハ其評決認可ノ額)ノ二項ハ毎年三月十日限リ開申スヘシ
郡區役所　戸長役場

●明治二十年(二月)訓令甲第三十五號
郡區役所　戸長役場

小學校名稱ハ可成其所在町村名ニ依リ新潟縣某郡區(高等科尋常科簡易科)某小學校ト稱スヘシ
但其標札ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
三尺ヨリ五尺マテ

一尺ヨリ一尺四寸迄	新潟縣某郡區
	高等科 尋常科 簡易科 某 小學校

●明治廿年(二月)訓令甲第廿九號
尋常小學校ニ於テ風雪霖雨ノ候兒童ノ通學スヘカラサル場合ニ於テハ時々派出場ヲ設クル事ヲ得但其設置廢止位置教室等ノ件ニ關シテハ當該學校管理者ヨリ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ
郡區役所　戸長役場

●明治廿年(二月)訓令甲第三十號
小學校ニ於テ臨時休業セントスル片ハ其期日ヲ定メ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ
郡區役所　戸長役場

●明治廿年(二月)訓令甲第四十五號
小學校分場標札ハ左ノ雛形ニ依準スヘシ

新潟縣某郡區尋常科 簡易科 某小學校

某所在町村名分場

●明治廿一年(三月)訓令甲第廿九號

小學校經費豫算中通常費ト別途費ヲ流用シ及俸給ノ目ヲ減シ他ノ費目ニ流用スヘカラス

但別途費ヨリ通常費ニ流用スルヲ除クノ外不得止場合ニ於テハ其理由ヲ詳具シ特ニ認可ヲ乞フヘシ

郡區役所、戸長役場

○小學校教職員

●明治十四年(十一月)乙第百二號

公立學校教員タル者公衆ヲ集メ講談演說ヲ爲シ及雜誌類ノ編輯ヲ爲スハ不相成候條此旨相達候事

郡區役所　戸長役場　學務委員

●明治十六年(八月)甲第九十六號

新潟學校師範學卒業及當縣教員免許狀授與ノ小學教員服務規則別紙之通相定候條此旨布達候事

但既ニ他府縣ニ赴キ或ハ他途ニ出身等ノ者ニシテ此規則ニ遵フ能ハサルモノハ九月十五日限リ其旨本廳ヘ可申出事

(別紙)

小學教員服務規則

第一條　新潟學校ニ於テ師範學科卒業ノ者若クハ卒業試驗ヲ受ケ合格セシモノハ滿七年間管下小學校ニ從事セシムルモノトス

但七ヶ年ヲ經再ヒ卒業証ヲ得ルモノハ此限ニアラス

第二條　教員免許狀授與試驗ヲ受ケ合格セシモノハ滿四年間管下小學校ニ從事セシムルモノトス

第三條　服務年限中不得止事故アリテ他府縣ニ赴キ或ハ他途ニ出身セント欲スルモノ及疾病事故アリテ三ヶ月以上服務スル能ハサルモノハ其事情ヲ具シ縣令ノ許可ヲ請フヘシ

第四條　新潟學校入學中給費ヲ受ケタル者卒業ノ後給費金ヲ受タル月數中ニ於テ他府縣ニ赴キ或ハ他途ニ出身セント欲シ縣令ノ許可ヲ請フモノハ給費金全額ヲ所受ノ月數ニ分割シ既ニ服務セシ月數ニ相當セル金額ヲ去リ殘余ノ分ハ即時之ヲ償還セシム(十八年二月甲第四十號ヲ以テ改正)

第五條　新潟學校入學中給費ヲ受ケタル者卒業ノ後給費金ヲ受ケタル月數中ニ於テ卒業證書ヲ沒収セラルヽモノハ給費金全額ヲ服務月數ニ分割シ前條ノ如ク計算シ殘余ノ分ハ即時ニ之ヲ償還セシム(仝上)

第六條　以上各條ヲ守ラサルモノアル片ハ卒業證書或ハ免許狀ヲ沒収ス(十八年二月甲第四

十號ヲ以テ增補）

㊟明治十六年（十二月、甲第百四十六號

町村立私立學校長敎員等履歷ノ儀自今左ノ書式ニ據リ記載シ可差出此旨布達候事

書式

族籍　　姓名　　年齡

一證書

學位記、卒業證書、免許狀等受ノ年月及場所等ヲ詳記スヘシ

一學業

修學ノ場所、敎師、年限、學科目等ヲ詳記スヘシ

一職務

官位職業等ノ經歷ヲ詳記スヘシ

一賞罰

㊟明治十八年（六月）乙第六十九號

小學校々長敎員授業生講習會規則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

（別紙）

郡區役所　戶長役場　學務委員

第一條　小學校々長敎員授業生講習會規則

講習會ハ小學內部ノ改良上進ヲ揮指センガ爲メニ小學區若クハ數小學區聯合シテ之ヲ設クルモノトス

第二條　小學校々長敎員及授業生ハ必ス講習會員タルヘキ責任ヲ負フモノトス

第三條　講習會ハ每月一回土曜日若クハ日曜日ヲ以テ開會スヘシ

但時宜ニヨリ會日ヲ繰替ルヲ得

第四條　講習會場ハ其小學區若クハ聯合小學區中便宜ノ小學校ニ設クヘシ

第五條　講習會ノ區域ハ郡區長之ヲ定メ縣令ニ開申スヘシ

第六條　講習會ニ係ル雜費ハ總テ其小學區若クハ聯合小學區ノ負擔トス

第七條　講習會ノ細則ハ會員協議制定シ學務委員連署郡區役所ヲ經テ縣令ニ開申スヘシ

第八條　講習會ハ左ノ事項ニ依リ之ヲ研窮スルモノトス決シテ他ノ事項ニ渉ルヲ得ス

第一　小學校授業法ニ關スル事

付小學敎科研究ノ事

第二　小學校管理法ニ關スル事

第三　小學校試驗方ニ關スル事

第四　學校表簿ニ關スル事

第五　學校衞生ニ關スル事

第六　學校風儀ニ關スル事

第九條　講習會ハ二ケ月コトニ其功程書ヲ作リ學務委員連署郡區役所ヲ經テ縣令ニ開申スヘシ

第十條　戸長ハ可成列席スヘシ（廿一年五月訓令甲第四十三號ヲ以テ改正）

第十一條　縣令ハ主任者ヲシテ監視セシムルコトアルヘシ

㊟明治十八年八月十三日無號　郡區役所　戸長役場　學務委員　公立小學校教導

小學訓導ハ其職重ク其責大ナルハ勿論ノ儀ニ有之候條候次第モ有之候處往々心得違ノ者有之辭令下付不致ニ相對約束上ヨリ其去就ヲ忘ニシテ其俸給ヲ授受シ或ハ俸額ヲ減殺ノ內約ヲナシ該帳簿ニハ寄附ノ名ヲ以テ假飾致シ置候等ノ儀有之甚キハ本年民間ノ困弊ヨリ強テ俸給ノ減額ヲ直ニ本人ニ迫リ殆ント自己ノ雇人ヲ取扱候モノニ髣髴タル所行有之哉ニ相聞不都合ノ次第ニ付萬一右樣ノ儀有之節ハ相當處分ニ可及筋ニ候條心得違無之樣可致此旨諭達候事

㊟明治十九年（十一月）訓令甲第三十九號

小學校職員職務規程左ノ通制定ス

小學校職員職務規程

第一條　小學校ノ職員ハ學校長訓導授業生事務係トス

但事務係ハ高等小學校ニ於テハ必之ヲ置キ尋常小學校ニ於テハ便宜之ヲ置クコトヲ得

第二條　學校長（學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ首坐訓導トス第三條ノ外皆之ニ同シ）ハ學校ノ諸務ヲ幹理シ且其利害得失ニ關シ郡區長戸長ニ商議スルコトヲ得

第三條　學校長ハ訓導以下ノ進退黜陟ニ關シ郡區長戸長ニ商議スルコトヲ得

第四條　學校長ハ土地ノ情況ニ因リ取捨スヘキ年限學科竝ニ授業時間等ニ關シ郡區長戸長ニ商議スルコトヲ得

第五條　訓導ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ教導ニ從事シ兼テ學校長ノ職務ヲ佐ク

第六條　學校長事故アルトキハ首坐訓導其職務ヲ代理ス

第七條　訓導ハ受持生徒ノ學業品行及賞罰ニ關シ其意見ヲ學校長ニ申告スルコトヲ得

第八條　授業生ハ訓導ノ職務ヲ佐ク

第九條　事務係ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ左ノ事務ヲ分掌ス

第一項　月額內通常經費ノ出納

第二項　授業料及雜收入ノ領收

第三項　校舍ノ修繕

第四項　需用物品ノ購辨

第五項　經費ニ關スル表簿ノ調製

第十條　事務係ヲ置カサル學校ニ於テハ其事務ハ學校長之ヲ掌理ス

第十一條　分場若クハ派出場ニ於テハ第十一條第一項ヨリ第四項ニ至ルノ事務ハ訓導若クハ授業生ヲシテ掌理セシムルコトヲ得

第十二條　職員缺勤スルトキハ其事由ヲ具シ出勤時限前學校ニ届出ヘシ

第十三條　職員缺勤三日以上ニ及フトキハ其事由ヲ具シ（病氣ハ醫証ヲ添フ）郡區役所ニ届出

第十六類　小學校教職員

ヘシ

第十四條　職員忌服ニテ缺勤スルトキハ其旨ヲ記載シ郡區役所ニ届出ヘシ

第十五條　職員事故アリテ他行セントスルトキハ豫メ其事由並ニ日數ヲ記載シ（病氣ハ醫証ヲ添フ）郡區役所ニ願出許可ヲ受クヘシ（廿年六月訓令甲第十六號ヲ以テ改正）

但緊急等ニテ預メ願出ノ暇ナキトキハ尋常小學校職員ハ戸長高等小學校職員ハ學校長ノ添書ヲ得テ其事由ヲ届出ヘシ

第十六條　前三條ノ願届ノ尋常小學校職員ニ係ルモノハ戸長ヲ經由スヘシ

㊟明治十九年（十二月）縣令甲第八十一號

小學校教員學力驗定試驗細則別紙之通制定ス

（別紙）

小學校教員學力驗定試驗細則

第一條　小學校教員免許規則ニ依リ學力驗定試驗ヲ受ケント欲スルモノハ履歴書並ニ試驗手數料金五拾錢ヲ添ヘ毎年八月限リ縣廳ニ願出ツヘシ

第二條　學力驗定試驗ハ毎年十月縣廳下ニ於テ施行ス

但シ時宜ニ依リ各郡便宜ノ地ニ於テ施行スルコトアルヘシ

第三條　驗定試驗用圖書ハ新潟縣尋常師範學校教科用圖書ニ依ル

第四條　英語音學及体操ハ當分之ヲ欠クコトヲ得農業手工兵式体操ハ男子ニ家事ハ女事ニ限リ驗定スルモノトス

第五條　英語農業手工音樂家事ノ諸科ヲ除クノ外ハ四科以上ニアラサレハ當分之ヲ驗定セス

（四科ノ内一科ハ教育學トス）

但シ既ニ四科以上ノ驗定試驗ニ及第シタルモノハ一科若クハ數科ノ驗定試驗ヲ受クルコトヲ得

第六條　驗定試驗ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス

第七條　各學科ノ評點五十以上ニシテ其平均點六十以上ナルモノヲ及第トス

但平均點六十以上ニシテ一學科ノ評點四十以上ノモノ全學科三分ノ一以内ナルトキハ及第セシムルコトアルヘシ

第八條　一學科驗定試驗ノ評點ハ九十以上ヲ以テ及第トス

㊟明治十九年（十二月）縣令甲第八十二號

小學簡易科教員及小學校授業生免許規則別紙之通制定ス

（別紙）

小學簡易科教員及小學校授業生免許規則

第一條　小學簡易科教員免許狀ハ年齡十八年以上ニシテ小學簡易科教員學力驗定試驗ニ及第シタルモノニ授與スルモノトス

第二條　小學校授業生免許狀ハ年齡十七年以上ニシテ小學校授業生學力驗定試驗ニ及第シタルモノニ授與スルモノトス

第三條　小學簡易科教員及小學校授業生免許狀ハ有効期限ヲ五ケ年トス期滿ル毎ニ勤務ノ經

歷ニ依リ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第四條　左ノ一項若クハ數項ニ關ルヽモノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

但本文授業生ノ免許狀ヲ沒收シタルトキハ郡區長ヨリ其族籍氏名並ニ事由ヲ具シテ知事ニ開申スヘシ

一　新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕重禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一　身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一　荒醜暴激等總テ敎員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一　舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖鋼ノ刑ニ處セラレタルモノハ此限リニアラス

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノ

一　前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癈疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第五條　前條ノ一項若クハ數項ニ關ルヽモノト雖モ郡區長ニ於テ特ニ小學簡易科敎員及小學校授業生タラシメントスルトキハ其族籍氏名並事由ヲ具シテ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第六條　小學簡易科敎員學力驗定試驗ノ科目及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

倫　理　人倫道德ノ要旨

敎　育　總論德育智育体育ノ大要及學校管理法各學科ノ敎授術

讀　書　假名交リ文及漢文

作　文　假名交リ文及月用書類

筆　算　加減乘除ヨリ諸比例迄

珠　算　加減乘除ヨリ四則雜題迄

習　字　楷書行草書

第七條　小學校授業生學力驗定試驗ノ科目及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

讀　書　假名交リ文及漢文

作　文　假名交リ文及日用書類

習　字　楷書行書草書

筆　算　加減乘除四則雜題度量衡貨幣分數小數比例利息算開平開立求積（廿年縣令甲第三十號ヲ以テ改正）

珠　算　加減乘除ヨリ四則雜題迄

敎　育　學校管理法及各學科ノ敎授術

第八條　小學校授業生一科若クハ數科ノ學力驗定試驗ノ科目及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

但左ノ一科若クハ數科ノ免許狀ヲ受ケタルモノハ讀書作文習字等ノ一科若クハ數科ノ學力驗定試驗ヲ受クルコトヲ得

算術　珠算加減乘除ヨリ四則雜題迄筆算加減乘除四則雜題度量衡貨幣分數小數比例
　利息算開平開立求積
地理　總論日本地理及外國地理ノ要略
歷史　日本歷史及外國歷史ノ要略
理科　大意
圖畫　自任意及用器畫
唱歌　單音唱歌及複音唱歌
体操　普通体操
簿記　單記及複記
裁縫　普通ノ衣服類ノ縫方裁方及補綴方
英語　讀方譯解習字作文及會話
農業　大意
手工　大意
商業　大意

第九條　小學簡易科教員學力驗定試驗ニ係ル細則ハ小學校教員學力驗定試驗細則第一條第六條第七條第八條ニ依ルモノトス
　但手數料ハ金三十錢トス

第十條　小學校授業生學力驗定試驗ヲ受クルモノハ手數料金二十五錢ヲ收ムヘキモノトス

第十一條　小學校授業生學力驗定試驗ハ郡區長於テ之ヲ施行スヘシ（廿年二月縣令甲廿七號ヲ以テ改正）

第十二條　小學校授業生學力驗定試驗ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス

第十三條　各學科ノ評點中均點五十以上ニシテ其平均點四十以上ナルモノヲ及第トス
　但平均點五十以上ニシテ一學科ノ評點三十以上ノモノ全學科三分ノ一以內ナルトキハ及第セシムルコトアルヘシ

第十四條　小學校授業生一科ノ驗定試驗ヲ受クルモノハ其評點八十以上ヲ以テ及第トス

第十五條　小學校授業生學力驗定試驗ニ係ル細則ハ郡區長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十六條　小學簡易科教員及小學校授業生免許狀書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學簡易科教員免許狀書式

免許狀

族籍
姓　名
誕生ノ年月

右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄五ヶ年間小學簡易科教員タルコトヲ免許ス

年　月　日

縣　廳　印

番號

小學校授業生免許狀書式

免許狀

族籍
姓
名　誕生ノ年月

右ハ明治何年何月ヨリ明治何年何月迄五ヶ年間小學校（何科）授業生タルコトヲ免許ス

年　月　日

番號

郡區役所印

㊟明治二十年（一月）縣令甲第八號
文部省令第十二號小學校教員免許規則第十五條ニ依リ納ムヘキ免許狀手數料ハ金三十錢其書換手數料ハ金十五錢トス

㊟明治二十年（一月）縣令甲第九號
小學簡易科教員及小學校授業生ノ免許狀ヲ受クルモノハ手數料トシテ簡易科教員ハ金二十錢授業生ハ金十五錢其書換手數料ハ各金十錢ヲ納ムヘシ

㊟明治廿年（一月）訓令甲第廿號
郡區長ハ授業管理ニ關スル事項ヲ監督或ハ講習セシムルタメ部內高等小學校長首座訓導ヲシテ尋常小學校ヲ巡回セシメ或ハ尋常小學校長訓導等ヲ招集スヘシ

郡區役所　戶長役場

㊟明治廿年（二月）訓令甲第三十五號
小學校授業生事務掛任免及旅費支給ニ關スル規則ハ郡區長ニ於テ制定シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

郡區役所　戶長役場　小學校

㊟明治廿年（二月）訓令甲第四十三號
小學校長訓導ニ於テ職務取扱上ニ付疑義アル片ハ自今郡區長ヘ伺出其指揮ヲ受クヘシ

㊟明治二十年（四月）縣令甲第七十四號
本年二月縣令甲第二十一號小學校長訓導俸給及任免規則別紙之通改正ス

（別紙）

小學校長訓導俸給及任免規則

第一條　學校長訓導ノ月俸ハ左ノ如シ

學校長
高等小學校長　四拾圓以下貳拾圓以上
尋常小學校長　三拾圓以下拾貳圓以上

第十六類　小學校教職員

訓導

尋常師範學校卒業生
從前高等師範學科卒業生
從前中等師範學科卒業生
從前初等師範學科卒業生
小學校教員免許狀所有者
小學校數科教員免許狀所有者
小學校一科教員免許狀所有者
從前小學高等科教員免許狀所有者
從前小學中等科教員免許狀所有者並ニ尋常小學校教員假免許狀所有者
小學簡易科教員

第二條　學校長訓導月俸拾五圓以上ノ者ハ在職二ヶ年拾四圓以下ハ在職一ヶ年ヲ踰ユルニアラサレハ增俸セサルモノトス

第三條　學校長訓導ノ任免進退並ニ俸給ノ增減ハ知事之ヲ行フモノトス

第四條　郡區長戶長ハ其部內學校長訓導ノ任免進退並ニ俸給ノ增減ニ關シ意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

但戶長ノ具申ハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

第五條　前條ノ場合ニ於テハ學校長訓導ノ族籍年齡履歷及俸給ヲ記載シ且部外小學校在職ノ者ヲ轉任セシメントスル時ハ該部ノ郡區長若クハ戶長ニ照會シ其回答書ヲ添ヘ具申スヘキモノトス

第六條　前條照會ヲ受ケタル郡區長若クハ戶長ハ部內小學校ニ於テ授業上差支ナキ片ハ本人在職中ノ狀況ヲ回答書中ニ詳記スヘキモノトス

㊟明治二十年(六月)縣令甲第百號

小學校教員及小學簡易科教員學力驗定試驗合格者服務規則別紙ノ通リ制定ス

(別紙)

小學校教員及小學簡易科教員學力驗定試驗合格者服務規則

第一條　小學校教員及小學簡易科教員學力驗定試驗合格者ハ免許狀受得ノ日ヨリ三年間敎職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

但其服務期限ハ在職ノ年月ノミヲ計算ス

第二條　第一條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アルモノハ其理由ヲ詳具シ縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條　第一條ノ義務ヲ終ヘタルモノハ其經歷書ヲ具シ縣知事ニ届出ヘシ

第四條　謂レナク第一條ノ義務ヲ盡サヽルモノハ其免許狀ヲ沒收スヘシ

㊟明治廿年(六月)訓令甲第十號

小學校及小學校長若クハ訓導ノ印章ハ左ノ雛形ニ據リ調製スヘシ

新潟縣何郡（區）何科何小學校印

寸法方曲尺一寸五分

小學校長若クハ訓導學校長（訓導）印

新潟縣何郡（區）何科何小學校印

寸法方曲尺六分

㊟明治廿年（八月）訓示第百六十七號

明治十九年（十二月）訓令甲第八十一号小學校教員學力檢定試驗ハ英語農業手工音樂家事ノ諸科ノ外ハ倫理教育國語漢文數學簿記習字ノ七科以上ニアラサレハ當分檢定セス

㊟明治廿年（九月）訓令乙第四十四號

本年（一月）訓令甲第廿號ニヨリ尋常小學校（簡易科小學校ヲ含有ス）長訓導ニ授業管理ニ關スル事項ヲ講習スルハ左ノ要項ニヨリ郡區長ニ於テ適宜該規則ヲ定ムヘシ

要項

第一項　講習ハ小學校教員ニ須要ナル學科ヲ傳習シ或ハ互ニ講究スルモノトス

第二項　講習ノ學科ハ教育學、授業法、學校管理法及ヒ体操等トス

第三項　講習ノ期限ハ一週間以上四週間以内トス

第四項　講習ノ時間ハ毎日五時間以上トス

第五項　講習中ハ大祭日祝日ノ外休業セサルモノトス

第六項　講習員ノ旅費ハ在職學校ノ負擔タルヘシ

㊟明治二十年（十二月）訓令甲第五十七號

町村立學校職員及罷免者勤務年數年齡表別表ノ通相定候條當該戶長ニ於テハ毎年十二月末之ヲ郡役所ニ差出スヘク郡區役所ハ更ニ之ヲ統計シ翌年一月十五日限リ本縣ニ差出スヘシ

但明治十九年（一月）乙第四號達公立學校職員及罷免者勤務年數年齡俸給別調査ノ件ハ廢止ス

明治　年新潟縣郡區（第　學區）町村立小學校職員及罷免者勤務年別年齡表

在學校長		職員別	勤務年別	年齡
高等小學科以下ノ訓導タルヲ得ル者			一年以上	二十年以下
			二年以上	二十五年以下
			三年以上	三十年以下
			四年以上	三十五年以下
			五年以上	四十年以下
			六年以上	四十五年以下
			七年以上	五十年以下
			八年以上	五十五年以下
			九年以上	六十年以下
			十年以上	

職者			罷免										
導			癈疾		老年		品行不正		各種事由				
計	尋常小學科以下ノ訓導タルヲ得ル者	小學簡易科訓導タルヲ得ル者	學校長	訓導	學校長	訓導	學校長	訓導	學校長	訓導			

右之通相違無之候也

明治　年　月　日

郡區長(戸長)姓名印

者				死亡	
計				訓導	
學校長	訓導				

一在職者ハ毎年十二月現在ノ公立學校職員ニ就キ其勤務年數及ヒ年齢ヲ查別シテ其人員ヲ記入スヘシ

一罷免者ハ本年中癈疾又ハ老年等ニヨリ職務ヲ罷免セル公立學校職員ニ就キ其勤務年數ヲ記入スヘシ

一勤務年數ハ公立學校ニ勤務セル年數ヲ通算スルモノトス故ニ公立學校ニ於テ再三就職セル者ハ曾ノ内外名稱ノ如何ヲ問ハス前後ノ年數ヲ通算記入スヘシ

一年齢ハ一年以上勤務セル者ノ年齢ヲ記入スヘシ故ニ勤務年別及年齢欄ノ人員ハ毎ニ同數ナルヘシ

一罷免者中癈疾及老年ノ二欄ハ染ク其職ニ堪ヘスシテ免職セル者品行不正ノ欄ハ品行不正ニシテ其職ヲ免シタル者ヲ掲ケ各種事由死亡等ハ各其事由ニヨリ之ヲ別記スヘシ但シ一旦罷免セル者ト雖モ再ヒ所管公立學校ニ就職シ年末現ニ其職ニアル者ハ本表ニ記入スヘカラス

一各種ノ事由ニヨリ免職セル者ハ毎人其族籍姓名及勤務年數ヲ記シタルモノヲ本表ニ添付スヘシ

○學校幼稚園書籍館

㊀明治十七年(十月)乙第百十六號

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不拘候條右幼兒保育ノ方法ハ追テ何分可相達候得共其間幼兒ヲ學校ニ入レ保育セシトスルトキハ適宜方法ヲ定メ可伺出此旨相達候事

郡區役所　戸長役場　學務委員

㊁明治十七年(十二月)乙第百五十號

書籍館圖書目錄ノ儀町村立私立ヲ問ハス本年末ノ調査ヲ以テ編製シタルモノハ來ル十八年二月迄ニ爾後ハ來ル十八年一月ヨリ起算シ該館ノ設置年月ニ拘ハラス毎三年末調査ノモノヲ郡區役所ニ於テ取纏メ翌年二月迄ニ差出ヘシ此旨相達候事

但本文圖書目錄ハ學科ニ據リ分類シ書名著譯者ノ氏名出版ノ年月及部冊數等ヲ記載シタル科引目錄ノ儀ト可心得候事

郡區役所　學務委員

㊂明治十九年(十一月)縣令甲第五十號

學校幼稚園書籍館設置廢止別紙之通制定ス

(別　紙)

學校幼稚園書籍館設置廢止規則

第一條　小學校ヲ設置セントスルトキハ所轄ノ郡區長若クハ戸長ヨリ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第一項　名稱

第二項　位置

但郡區町村番地ヲ記スヘシ

第三項　生徒ノ學級及員數ノ豫定

第四項　用地校舍ノ圖及坪數所有ノ別

但方位各部ノ分界所用窓戸ノ位置等ヲ詳記シ借地借家ハ約定書寫ヲ添フヘシ

第五項　資産ノ區別及量價額

但資産ノ區別ハ小學校學資規程第二章ニ依ルヘシ

第六項　經費豫算

但小學校學資規程第二号書式ニ依ルヘシ

第二條　小學校分場ヲ設置セントスルトキハ所轄ノ郡區長若クハ戸長ヨリ設置ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第一項　名稱

第二項　位置

第三項　生徒ノ學級及員數ノ豫定

第四項　用地校舍ノ圖及坪數所有ノ別

但方位各部ノ分界所用窓戸ノ位置等ヲ詳記シ借地借家ハ約定書寫ヲ添フヘシ

第五項　經費配當額豫算

第三條　小學校ニアラサル區町村立學校及ヒ私立學校ヲ設置セントスル片ハ區町村立ハ所轄ノ郡區長若クハ戶長私立ハ設立者ヨリ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第一項　設置ノ目的
第二項　名稱
第三項　位置
第四項　生徒ノ學級及員數ノ豫定
第五項　學科程度試業入學退學休日賞罰寄宿授業料等ニ關スル規程
第六項　學校長設立者教員助教員等ノ職務ニ關スル規程氏名俸額履歷等
第七項　用地校舍ノ圖及坪數所有ノ別
但方位各部ノ分界所用窓戶ノ位置等ヲ詳記スヘシ
第八項　圖書器具ノ種類箇數
第九項　維持方法
第十項　經費豫算

第四條　幼稚園ヲ設置セントスルトキハ區町村立ハ所轄ノ郡區長若クハ戶長私立ハ設立者ヨリ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第一項　設置ノ目的
第二項　名稱
第三項　位置

第四項　幼兒ノ組及員數ノ豫定
第五項　保育ノ科目程度入園退園休日保育料等ニ關スル規程
第六項　保姆等ノ職務ニ關スル規程氏名俸額履歷等
第七項　用地建物ノ圖及坪數所有ノ別
但方位各部ノ分界所用窓戶ノ位置等ヲ詳記スヘシ
第八項　圖書器具ノ種類箇數
第九項　維持方法
第十項　經費豫算

第五條　書籍館ヲ設置セントスルトキハ區町村立ハ所轄ノ郡區長若クハ戶長私立ハ設立者ヨリ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ

第一項　設置ノ目的
第二項　名稱
第三項　位置
第四項　閱覽人員數ノ豫定
第五項　閱覽開館閉館休日閱覽料等ニ關スル規程
第六項　職員ノ職務ニ關スル規程氏名俸額履歷等
第七項　用地建物ノ圖及坪數所有ノ別
但方位各部ノ分界所用窓戶ノ位置等ヲ詳記スヘシ

第八項　圖書目錄
　但學科ノ分類ニ依ルヘシ
第九項　維持方法
第十項　經費豫算
第六條　學區ノ分合等ニ依リ小學校及小學校分場ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條第二條ニ準シ知事ノ認可ヲ經ヘシ
第七條　第三條第四條第五條ノ第一項第五項第六項第九項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘシ其他ノ項ヲ變更スルトキハ知事ニ上申スヘシ
第八條　學校幼稚園書籍器具ヲ廢止セントスル片ハ區町村立ハ其事由及資產ノ處分方法ヲ具シ知事ノ認可ヲ經ヘク私立ハ其事由ヲ具シ知事ニ上申スヘシ
第九條　本則經個上申ノ書類戶長ヨリ出スモノハ郡長設立者ヨリ出スモノハ區長若クハ戶長ヲ經由スヘシ

㊀教育會

㊟明治十四年(五月)乙第四十一號
明治十三年乙第三十一號達ハ自今相廢シ別紙ノ通リ教育會開設心得相定候條已ニ議事規則等伺出指令濟ノモノト雖モ右規則ニ牴觸候分ハ更ニ訂正ノ上認可ヲ受ヘシ此旨相達候事

郡區役所　戶長役場

教育會開設心得

第一條　教育會ハ小學校組合或ハ中學區ニ於テ之ヲ開クヲ得
　但數ケノ組合協議聯合シテ開會スルモ妨ケナシ
第二條　會議規則ハ學務委員ヨリ郡區役所ヲ經テ縣廳ニ差出シ認可ヲ受クヘシ（十七年乙百四十四號ヲ以テ改ム）
第三條　教育會ノ開閉ハ學務委員ヨリ郡區役所ニ開申スヘシ
第四條　教育會ノ議員ハ學務委員町村立學校教員事務掛等ヲ以テ之ニ充テ其人員ノ多寡ハ計リ適宜之ヲ定ムヘシ
第五條　議長及副議長ハ議員中ヨリ之ヲ撰スヘシ
第六條　議按ヲ調製スルニハ學務委員ハ學校教員事務掛等ニ通報シ其意見アル者ヲシテ各議按ヲ草シテ之ヲ出サシメ調査登錄シテ開會前各議員ニ分配スヘシ
　但ハ之ヲ出ス所ノ意見書ヲ重纏メ以テ原按ヲ調整セシムルモ妨ナシ
第七條　議按ノ答辨者ハ學務委員或ハ立按委員又ハ原按者ヲ以テ之ニ充ツヘシ
第八條　教育會ニ於テハ教育上ノ事件ハ總テ之ヲ議スルヲ得
　但シ成規上ニ關スル條款ヲ增減セントスルモノハ其會ノ意見書ヲ學務委員ニ致シ學務委員ハ成規ニヨリ縣廳ニ伺出ヘク且經費上ニ關スル條款ハ其會ノ意見書ヲ戶長ニ致シ戶長其議按ヲ調製シ町村會又ハ町村聯合會ニ附スルモノトス
第九條　凡教育會ニ於テ議決スル條件ハ（學務委員ヨリ伺出ヘキ條項ハ除ク）學務委員議長連

署ノ上郡區役所ヲ經テ縣廳ニ開申スヘシ

第十條　會場諸費議員旅費滯在費等ハ各學校ニ分賦シ或ハ組内ノ協議費ヲ以テ支辨スル等ノ目途ヲ立テ町村會又ハ町村聯合會ノ議決ヲ經テ實施スヘシ

○學事表簿

㊟明治廿一年(十二月)訓令甲第九十五號　郡區役所　戸長役場　公私立學校

明治十九年訓令甲第五十九號學事表簿標式別紙ノ通改正候條該取調心得ニヨリ調製差出スヘシ

學事表簿取調心得

甲號表簿ハ公私立小學校及ヒ諸學校長或ハ教員幼稚園書籍館教育博物館主管者ノ掌ルモノナリ

乙號表簿ハ戸長ノ掌ルモノナリ

丙號諸表ハ郡區長ノ掌ルモノナリ

甲號表簿

第一式甲　生徒學籍簿

本簿ハ各學校ニ於テ必ス備フヘキモノニシテ男女ハ其帳簿ヲ區別スヘシ

一番號(入籍順)、入學年月日、生徒姓名、生年月、從前ノ教育、父母(戸主)或ハ後見人ノ姓名、住所及ヒ族籍職業ハ生徒入學ノ際之ヲ記入シ其他ノ各項ハ其事故ノ生シタル都度漏ナク

之ヲ記入スヘシ但シ事故退學シ再ヒ入學シタルモノアルトキハ最初ノ學籍番號ヲ用ヰ其欄内ニ再入學ノ年月日等ヲ記入スヘシ

第一式乙　イロハ分名簿

本簿ハ學籍簿ニ關スルモノニシテ生徒姓名及番號ヲ學籍簿(第一式甲)ニ登載スルトキハ直チニ之ヲ轉寫シタル他日ノ退索ニ備フヘシ

一番號ハ學籍簿中ノ番號ヲ記入スヘシ

第二式　生徒出席簿

本簿ハ每級受持教員每月末之ヲ學校長或ハ首座教員ニ出スヘシ

一生徒姓名ハ其優劣ニヨリ順席ヲ定メ每日教員自ラ出席ヲ點檢シ其日ノ欄内ニ符合ヲ墳記スヘシ但日曜日大祭日等一般ノ休業日ニ當ルモノハ休ノ字ヲ記シ其他夏冬期産業期休業等ハ其旨ヲ記入スヘシ

一出席數ハ每生徒ニ就テ一月間ノ出席數ヲ合算記入スヘシ

一日々出席數ハ每日全級生徒ノ出席數ヲ計算シテ最後ニ其總計ヲ揭クヘシ

一授業日數ハ一月間實際授業セシ日數ヲ記入スヘシ

一在級生徒數ハ本級ニ在學セル生徒ノ現數ヲ計記シ出席生徒數ハ此在級生徒中一日タリトモ出席セシ人員ヲ計算シ之ヲ揭記スヘシ但他級ニ去リシ者ハ他級ニ移スヘシト雖トモ退學セシ者ノ出席數ハ除去スヘカラス

一日々出席平均數ハ授業日數ヲ以テ生徒出席總數ヲ扣除シ之ヲ記入スヘシ

第三式　各級年末調査表

本表ハ毎級受持教員之ヲ調製シ年末ニ至リ之ヲ學校長或ハ首座教員ニ出スヘシ

一年齢ハ年末ノ調査ニヨリ之ヲ掲記スヘシ

一職業別ハ各戸主ノ職業ヲ掲記スヘシ

一出席數授業日數ハ毎日末之ヲ塡記シ年末ニ至リ之ヲ合算記入スヘシ

一在級生徒數出席生徒數ハ年末ノ現數ニヨリ之ヲ記入スヘシ

一生徒年齢別職業別ハ出席生徒ニ就キ之ヲ區別記入スヘシ

第四式　小學校年末統計表

本表ハ各小學校長或ハ首座教員之ヲ調製シ十二月三十一日限リ高等小學校ハ郡區長尋常小學校以下ハ區戸長ニ之ヲ出スヘシ

一教員數ハ師範學校卒業者學力試驗及第者中各其資格ヲ區別シ從前小學師範學科卒業者ハ高等師範學科欄ニ從前簡易師範學科卒業者ハ中等師範學科欄ニ從前速成師範學科卒業者ハ初等師範學科欄ニ記入シ從前試驗ヲ須ヰス小學校教員免許狀ヲ得タル者ハ學力試驗及第者各項ノ當該等科欄ニ併記スヘシ

一本年中入退學、生徒日々出席平均數、本年中授業日數、生徒年齢別、毎級生徒職業別ハ各表簿ニ就キ之ヲ調査計記スヘシ

第五式　公私立(諸學校、幼稚園、書籍館、教育博物館)年末統計表

本表ハ其學校長設立者主管者ニ於テ調製シ毎年十二月卅一日限リ郡區長ノ管理ニ屬スルモノハ郡區長ニ其他ハ戸長ニ之ヲ出スヘシ

一教員、生徒、保姆、幼兒、書籍、物品等ノ個數ハ年末ノ現數ヲ記載スヘシ

一所屬ハ本館屬スル所ノ學校又ハ會社等ノ名ヲ記スヘシ

乙號表簿

第一式　學齢簿

本簿ハ毎學區戸長之ヲ調製シ其管内學齢兒童ニ係ル一切ノ事項ヲ詳記スヘシ

一戸籍ヲ調査シ本籍寄留ヲ論セス翌年三月卅一日マテ學齢ニ入ルヘキ兒童ノ姓名、生年月日、學齢ニ入ル年月日、學齢ヲ終ル年月日、父母(戸主)後見人ノ族籍、職業(庶業、農、工、商、勞力)住所ヲ戸籍順ニヨリ記入スヘシ

一修學不修學歳別ノ小欄ニハ就學者ハ其場所及年月日全科卒業退學者ハ其等科年月日就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノハ其事由期限ヲ記入スヘシ

一他學區ヨリ轉住シタル兒童アルトキハ原籍戸長ノ送附ニ就キ現在並ニ過去ニ属スル從前修學ノ場所若クハ就學猶豫ノ事由期限等ヲ記入スヘシ

一兒童他學區ニ轉居シタルトキ若クハ死亡者アルトキハ適宜其事柄ヲ記入シ本籍ヲ除クヘシ

第二式　學齢調査及(公私)立小學校統計表

本表ハ毎年一月十五日限リ之ヲ郡長ニ出スヘシ(以下諸表之ニ仝シ)

一修學欄就學ハ學齢簿年末ノ現員ニ就キ小學ト他學ト別ナク年末就學現員ハ勿論退學者

ト雖トモ其年就學セシモノハ總テ之ヲ算入シ卒リテ其年就學セサルモノヲ算入スヘシ

一不修學棚未就學ハ學齢簿年末ノ現員ニ就キ事故ノタメ未タ一日モ就學セサルモノヲ計記シ未卒業退學者ハ尋常科若クハ簡易科ヲ卒ヘスシテ其年就學セサルモノヲ計記スヘシ

一人口ハ本籍寄留ヲ論セス學區内十二月末ノ現員ヲ記入スヘシ

一職業別以下ノ諸項ハ各小學校ヨリ出ス所ノ計數ヲ記入スヘシ但私立小學校ハ適宜符合ヲ付シテ諸數ヲ別記スヘシ

第三式　公私立（諸學校、幼稚園、書籍館、教育博物館）一覽表

本表ハ學校長設立者主管者ヨリ出ス所ノ計數ヲ記入スヘシ

第四式　公學費出納所有品及學資寄附表

本表ハ公立ニ係ル學校幼稚園書籍館教育博物館ノ學費出納寄附物品等ヲ記入スヘシ但小學校ハ尋常科簡易科諸學校ハ專門學校各種學校ニ區別スヘシ

一所有品中地價ハ時價ヲ記シ家屋價、書籍價、器械價等ハ原價ヲ記スヘシ

一其年中廢止セシ學校ト雖トモ其學費ハ之ヲ調查スヘシ

第五式　公立小學校學資一覽表

本表ハ左記ノ如ク記入シ第四式ノ計數ニ牴牾セサルヲ要ス

一前年越高雜收入等ヲ積金其他收入ノ欄ニ記載スヘシ（廿三年二月訓令甲第八号ヲ以テ改正）

一學資等差ハ其年度經費豫算ニヨリ之ヲ調查シ其校數（分場ヲ算入スヘカラス）ヲ記入スヘシ

一一ヶ月授業料等差人員ハ十二月ノ現員ニ就キ之ヲ區別スヘシ

一學校資產內譯中公債證書株券ハ額面ヲ以テ調記シ學田貸地貸家ハ時價ヲ以テ調記スヘシ

一收入金內譯及區町村費徵收總額ハ各科目ニ就キ其金額ヲ揭ケヘシ

一簡易科小學校經費ノ內積金利子其他收入アルモノハ資產ヨリ生スル總テノ利益若クハ寄附金等ヲ以テ經費ノ一部ニ充ツルモノヽ有無ヲ記入スヘシ

丙號表簿

本表ハ每年二月十五日限リ之ヲ本廳ニ出スヘシ

第一式　學齢調查及公立小學校統計表

本表ハ高等小學校及ヒ各戶長ヨリ出ス所ノ諸表ニ就キ各項類別計記スヘシ（以下諸表之ニ倣フヘシ）其記入方法ハ乙號第二式ニ倣フヘシ

第二式　公私立諸學校、幼稚園、書籍館、教育博物館）一覽表

本表記入方法ハ乙號第三式ニ倣フヘシ

第三式　公學費出納所有品及學資寄附表

本表記入方法ハ乙號第四式ニ倣フヘシ

第四式　公立小學校學資一覽表

本表記入方法ハ乙號第五式ニ倣フヘシ

甲號第一式乙

イロハ分名簿

番号	姓名	番号	姓名	番号	姓名	番号	姓名	番号	姓名

甲號第一式甲

新潟縣　郡　區　學區　公立　私立　科　學校生徒學籍簿

番號	入學年月日	生徒姓名	生年月	從前ノ教育	父母若ハ後見人姓名	同住所	同族緒職業	卒業年月日	退學年月日	退學理由
							四級			
							三級			
							二級			
							一級			
							仝			
							温習			

甲号第二式

新潟縣　國　郡　區　學區　公立　私立　科　學校第　級生徒出席簿

席順	生徒姓名	出席數																												
		日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜
		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日